

Oracle E-Business Suite

Integrated SOA Gatewayユーザーズ・ガイド

リリース12.2

部品番号 F26895-01

2018年4月

Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway ユーザーズ・ガイド、リリース12.2

部品番号 F26895-01

Copyright © 2005, 2018, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

原著者: David Weld, Melody Yang

原協力著者: Leslie Studdard

原協力者: Rekha Ayothi, Sudipto Chakraborty, Mark Fisher, Bhaskar Ghosh, Kevin Hudson, Vardhan Kale, Ravindra Nadakuditi, Dilbaghsingh Sardar, Vijayakumar Shanmugam, Abhishek Verma, Jason Xie

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクルおよびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel、Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスのもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWebサイト (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>)か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。

目次

ご意見をお寄せください

はじめに

1 Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayの紹介

Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayの概要 1-1

2 サービス有効化の理解

サービス有効化の概要 2-1

Webサービスで利用される一般的な用語 2-2

Oracle E-Business Suiteのサービス有効化 2-3

3 Oracle Integration Repositoryのナビゲーション

Oracle Integration Repositoryの概要 3-1

Oracle Integration Repositoryのスタート・ガイド 3-3

インタフェースの発見とレビュー 3-7

統合インタフェースの閲覧 3-7

統合インタフェースの検索 3-9

「インタフェース詳細」ページ 3-15

インタフェース・タイプ 3-15

統合の標準 3-20

4 ネイティブ統合インタフェースの使用

共通情報 4-1

インタフェース詳細の共通情報 4-2

SOAP Webサービスの共通的情報	4-6
REST Webサービスの共通的情報	4-15
WebサービスのWSDLソースのレビュー	4-22
WebサービスのWADLソースのレビュー	4-26
付与の管理	4-30
XMLゲートウェイ・マップ情報	4-35
PL/SQL情報	4-40
Java情報	4-44
Java Beanサービス	4-46
アプリケーション・モジュール・サービス	4-48
セキュリティ・サービス	4-51
フォーム用Java API	4-54
ビジネス・サービス・オブジェクト	4-54
統合リポジトリ・サービス	4-61
サービス・データ・オブジェクトのレビュー	4-62
コンカレント・プログラム情報	4-65
オープン・インタフェース情報	4-69
インタフェース・ビュー情報	4-72
EDIメッセージ情報	4-74
ビジネス・イベント情報	4-75

5 コンポジット・サービス-BPELの使用

コンポジット・サービス-BPELの概要	5-1
コンポジット・サービス-BPELの表示	5-2
コンポジット・サービス-BPELのダウンロード	5-4

6 カスタム統合インタフェースの使用

カスタム統合インタフェースの概要	6-1
カスタム統合インタフェースの検索	6-2
カスタム・インタフェース詳細の表示	6-4
カスタム統合インタフェースに対するその他のWebサービス・アクティビティの実行	6-6

用語集

索引

ご意見をお寄せください

Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayユーザーズ・ガイド、リリース12.2

部品番号F26895-01

このマニュアルの品質および利便性について、お客様からのご意見、ご提案をお待ちしております。お寄せ頂いたご意見は、弊社製品をご利用のお客様により満足していただくための参考とさせていただきます。例:

- 実装手順が正確に漏れなく記載されていましたか?
- 手順の脈略やつながりを理解できましたか?
- 記載内容に誤りはありませんでしたか?
- 情報の構成はタスクの実施に役立ちましたか?
- 異なる情報や画像が必要でしたか? その場合、それはどのような形式の情報ですか?
- 正しい例が使用されていましたか? 他の例が必要でしたか?

記載内容に誤りを見つけた場合またはご意見をお寄せいただく際は、お客様のお名前、製品のライセンス所有者名(会社名)、マニュアルのタイトル、部品番号、章番号、項番号およびページ番号(該当する場合)をお知らせください。

注意: ご報告いただく前に、マニュアルの最新版で問題箇所が訂正されていないかどうかをご確認ください。My Oracle Supportおよびwww.oracle.comにある新しいOracle E-Business Suiteリリース・オンライン・ドキュメントCDをご利用ください。ここには、最新のドキュメント・ライブラリと最近リリースまたは改訂されたすべてのドキュメントが収録されています。

ご意見、ご提案は電子メール・アドレスappsdoc_us@oracle.comにお寄せください。

お客様のお名前、住所、電子メール・アドレス、電話番号(任意)をご記載ください。

Oracleソフトウェアに関するサポートをご希望の場合は、お客様のサポート担当者またはOracleサポート・サービスにお問合せください。

Oracleソフトウェアのトレーニングまたは指導をご希望のお客様は、Oracle University製品について弊社の現地事業所にお問合せください。オラクル社の事業所一覧については、弊社Webサイトwww.oracle.comをご覧ください。

はじめに

対象読者

Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway ユーザーズ・ガイド(リリース12.2)をご利用いただき、ありがとうございます。

このガイドは次に関する実務知識をお持ちの方を対象としています。

- 担当している業務分野に関する原則および慣習
- コンピュータ・デスクトップ・アプリケーションの使用方法および用語
- Oracle E-Business Suite統合インタフェース
- B2B、A2AおよびBP統合

このドキュメントは、Oracle E-Business Suiteについて、よく理解している方を想定して執筆されています。対象読者は、同アプリケーションの機能要件の管理やユーザーへの配備を担当している技術コンサルタント、実装担当者およびシステム統合コンサルタントです。

Oracle E-Business Suiteの使用経験がない場合は、Oracle UniversityでOracle E-Business Suiteのトレーニング・クラスを1つ以上受講することをお勧めします。

Oracle E-Business Suite製品の詳細は、viiiページの関連情報の入手元を参照してください。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWebサイト<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>を参照してください。

Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は、(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>)か、聴覚に障害のあるお客様は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。

構成

- 1 Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayの紹介
- 2 サービス有効化の理解
- 3 Oracle Integration Repositoryのナビゲーション
- 4 ネイティブ統合インタフェースの使用
- 5 コンポジット・サービス-BPELの使用
- 6 カスタム統合インタフェースの使用

用語集

関連情報の入手元

このマニュアルはOracle E-Business Suiteドキュメント・ライブラリに含まれています。このマニュアル内にOracle E-Business Suiteの他のドキュメントに関する言及がある場合は、最新のリリース12.2バージョンのドキュメントのみを参照してください。

オンライン・ドキュメント

すべてのOracle E-Business Suiteドキュメントはオンラインで入手できます(HTMLまたはPDF)。

- **オンライン・ヘルプ** - オンライン・ヘルプのパッチ(HTML)はMy Oracle Supportで入手できます。
- **Oracle E-Business Suiteドキュメント・ライブラリ** - Oracle E-Business Suiteソフトウェアのディストリビューションに含まれており、各リリース時点におけるPDF版のドキュメントを提供します。
- **Oracle E-Business SuiteドキュメントWebライブラリ** - Oracle Technology Network (http://docs.oracle.com/cd/E26401_01/index.htm)から入手可能で、Oracle E-Business Suiteリリース12.2ドキュメントの最新更新版を提供します。ほとんどのドキュメントでPDF版とHTML版が用意されています。
- **リリース・ノート** - このリリースでの変更点、新機能、既知の問題およびその他の詳細は、対象製品のリリース・ノートをMy Oracle Supportから入手してご確認ください。
- **Oracle Electronic Technical Reference Manual** - Oracle Electronic Technical Reference Manual (eTRM)には、データベース図と各Oracle E-Business Suite製品のデータベース表、フォーム、レポートおよびプログラムに関する詳細が記載されています。これらの情報は、既存のアプリケーションのデータを変換しOracle E-Business Suiteデータを非Oracleアプリケーションに統合して、Oracle E-Business Suite製品のカスタム・レポートを作成する際に便利です。Oracle eTRMはMy Oracle Supportから入手できます。

関連ガイド

次の関連ドキュメントがお手元にあることをご確認ください。インストール固有の要件によっては、その他のマニュアルまたはガイドが必要になることがあります。

Oracle E-Business Suiteの概念

Oracle E-Business Suiteリリース12.2のデプロイまたは大幅な構成変更を計画しているお客様向けのドキュメントです。Oracle E-Business Suiteのアーキテクチャとテクノロジー・スタックについて説明した後に、戦略的なトピックへと話を進めます。特定の目標を達成するのに必要な作業の概要およびインストールと構成の選択肢が記載されています。

Oracle E-Business Suiteセキュリティ・ガイド

このガイドはセキュリティに関連するトピックを総合的に扱っており、アクセス制御、ユーザー管理、機能セキュリティ、データ・セキュリティ、安全な構成、監査などの情報が含まれています。また、Oracle E-Business Suiteをシングル・サインオン環境に統合する方法についても説明しています。

Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway開発者ガイド

このガイドでは、統合開発者が実施するエンドツーエンドのサービス統合アクティビティについて説明します。このアクティビティには、Business Process Execution Language (BPEL)を使用して別個のWebサービスを有意義なエンドツーエンドのビジネス・プロセスに編成し、BPELプロセスを実行時に配置する作業も含まれます。

また、サービス起動フレームワークを使用してWebサービスを起動する方法についても説明します。これには、Webサービス起動メタデータの定義やWebサービスの起動、Webサービス起動のテストなどが含まれます。

Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayインプリメンテーション・ガイド

このガイドでは、統合管理者が実施する統合インタフェース関連のWebサービス・アクティビティについて説明します。統合インタフェースには、ネイティブでパッケージングされた統合インタフェースやコンポジット・サービス(BPELタイプ)、カスタム統合インタフェースが含まれます。Oracle Workflowビジネス・イベント・システムを使用してOracle E-Business SuiteからWebサービスを起動する方法のほか、Webサービスのセキュリティ管理、ログの構成、SOAPメッセージの監視についても説明します。

Oracle Fusion Middleware Oracle E-Business Suite Adapterユーザーズ・ガイド

このガイドでは、Oracle E-Business Suiteと取引先との間の統合開発で使用するOracle E-Business Suite Adapter (Oracle Fusion Middleware 11gリリースではAdapter for Oracle Applicationsと呼ばれていました)について説明します。

このドキュメントは、Oracle Fusion Middleware 12cドキュメント・ライブラリおよびOracle Fusion Middleware 11gドキュメント・ライブラリから入手できます。

Oracle Fusion Middleware Oracle WebLogic Serverの紹介

このドキュメントでは、Oracle WebLogic Serverの機能の概要と、これを使用してエンタープライズ向けソリューションを作成する方法について説明します。このドキュメントは、Oracle Fusion Middleware 11gおよび12cのドキュメント・ライブラリから入手できます。

Oracle E-Business Suite ユーザーズ・ガイド

このガイドでは、Oracle E-Business Suiteのユーザー・インタフェース(UI)を使用したナビゲーション、データの入力と問合せおよび同時要求の実行方法を説明します。プリファレンスの設定やUIのカスタマイズに関する情報も記載されています。また、Oracle E-Business Suiteのアクセシビリティ機能やキーボード・ショートカットについても説明します。

Oracle e-Commerce Gateway ユーザーズ・ガイド

このガイドには、Oracle e-Commerce Gatewayの機能に関する説明と、Oracle E-Business Suiteを使用して取引先とElectronic Data Interchange (EDI)による取引を実施する場合の設定手順が記載されています。アウトバウンド・トランザクション用の抽出プログラムやインバウンド・トランザクション用のインポート・プログラムの実行方法のほか、関連レポートの実行方法についても説明します。

Oracle iSetup ユーザーズ・ガイド

このガイドでは、Oracle iSetupを使用してOracle E-Business Suiteのインスタンス間でデータを移行し、レポートを生成する方法について説明します。データ移行で使用する構成、インスタンス・マッピングおよびシード済テンプレートに関する情報も含まれています。

Oracle Workflow ユーザーズ・ガイド

ワークフロー通知の表示および応答方法と、ワークフロー・プロセスの進捗の監視方法について説明するユーザー向けのガイドです。

Oracle XML Gateway ユーザーズ・ガイド

このガイドには、Oracle XML Gatewayの機能の説明と、Oracle XML Gatewayアーキテクチャに含まれているコンポーネント(Message Designer、Oracle XML Gateway設定、実行エンジン、メッセージ・キュー、Oracle Transport Agentなど)の説明が含まれています。コラボレーション履歴を使用して、取引先との間で発生したビジネス・トランザクションや交換メッセージを記録する方法も記載されています。

Oracle Workflowビジネス・イベント・システムとの統合と、企業間トランザクションについても記載されています。

統合リポジトリ

Oracle Integration RepositoryはOracle E-Business Suiteアプリケーションで公開されているサービス・エンドポイントに関する情報をまとめたものです。Oracle E-Business Suiteのすべてのビジネス・サービス・インタフェースをまとめたカタログを提供します。このツールを使用すると、システム、アプリケーションまたはビジネス・パートナーとの統合に適したビジネス・サービス・インタフェースを簡単に見つけて配置できます。

Oracle Integration RepositoryはOracle E-Business Suiteの一部として提供されます。インスタンスにパッチを適用すると、このリポジトリのコンテンツは使用環境のインタフェースのリビジョンに合わせて自動的に更新されます。

データベース・ツールを使用してOracle E-Business Suiteデータを変更しない

Oracle E-Business Suiteのデータを変更する際は、SQL*PlusやOracle Data Browser、データベース・トリガーなどのツールを使用しないでください。

オラクルでは、Oracleデータベースでデータを作成、保存、変更、取得および保守するための強力なツールを各種提供しています。しかし、SQL*PlusなどのOracleツールを使用してOracle E-Business Suiteデータを変更すると、データの整合性が失われ、データ変更の監査ができなくなる恐れがあります。

Oracle E-Business Suiteの表は相互に関連しているため、Oracle E-Business Suiteフォームを使用して変更を加えると、他の多数の表も同時に更新されます。しかし、Oracle E-Business Suite以外でOracle E-Business Suiteデータを変更した場合、1つの表で行を変更し、その変更に関連する表に反映しないという状況が発生する可能性があります。表間の同期が失われると誤った情報を取得する可能性があり、Oracle E-Business Suite全域で想定外の結果が生じる恐れがあります。

Oracle E-Business Suiteを使用してデータを変更すると、その変更の有効性がOracle E-Business Suiteによって自動的にチェックされます。また、だれが情報を変更したかの履歴も維持されます。データベース・ツールを使用してデータベース表に情報を入力した場合、不正な情報を格納してしまう可能性があります。また、SQL*Plusなどのデータベース・ツールでは変更記録が保持されないため、だれが情報を変更したのかを追跡できなくなります。

Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayの紹介

Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayの概要

Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway (ISG)は、Oracle Fusion Middlewareおよびサービス指向アーキテクチャ(SOA)テクノロジー上に構築された包括的なサービス・インフラストラクチャです。Oracle E-Business Suite Webサービスを提供、消費および管理する機能を提供します。

サービス有効化機能を備えており、Oracle Integration Repositoryに発行した統合インタフェースをSOAPまたはRESTベースのWebサービスに変換できます。

Oracle E-Business Suite Integrated SOA GatewayはOracle WebLogic Server上で実行されるOracle SOA Suiteを利用して、Oracle E-Business Suite内の様々な統合インタフェースをSOAP Webサービスとして公開する強力な機能とインフラストラクチャを提供します。SOAPベースのサービスはWSDLで記述され、サービス消費に向けてOracle SOA Suiteに配置されます。

SOAPサービスとは異なり、RESTサービスはOracle SOA Suiteに依存せず、Oracle E-Business Suiteのインフラストラクチャを使用して開発されます。WADLで記述されたRESTサービスはOracle E-Business Suite WebLogic環境に直接配置されます。これらはOracle E-Business Suite モバイル・アプリケーションなどのユーザー主導のアプリケーションで使用されます。

Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayではサービス起動フレームワークが提供されるため、他のアプリケーションから提供されるWebサービスを起動および消費できます。

主な機能

Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayには、次の機能が含まれています。

- Oracle E-Business Suiteのすべての統合インタフェース定義をOracle Integration Repositoryを通じて表示します。

- Oracle Integration Repositoryでカスタム統合インタフェースをサポートします。
- Oracle E-Business Suite内のカスタムおよびシードされた統合インタフェースに対し、サービス有効化機能(SOAPおよびRESTサービス)を提供します。
- 統合リポジトリのユーザー・インタフェースを使用して、Oracle E-Business Suite Webサービスの生成や配置などの設計時アクティビティを実行できます。
- SOAPベースのWebサービスについて、同期および非同期(確認なしのコールバックのみ)型の相互作用パターンをサポートします。

注意: このリリースでは、非同期型のサービス・パターンで有効化できるのはPL/SQL APIのみです。

- RESTベースのWebサービスで同期型相互作用パターンをサポートします。

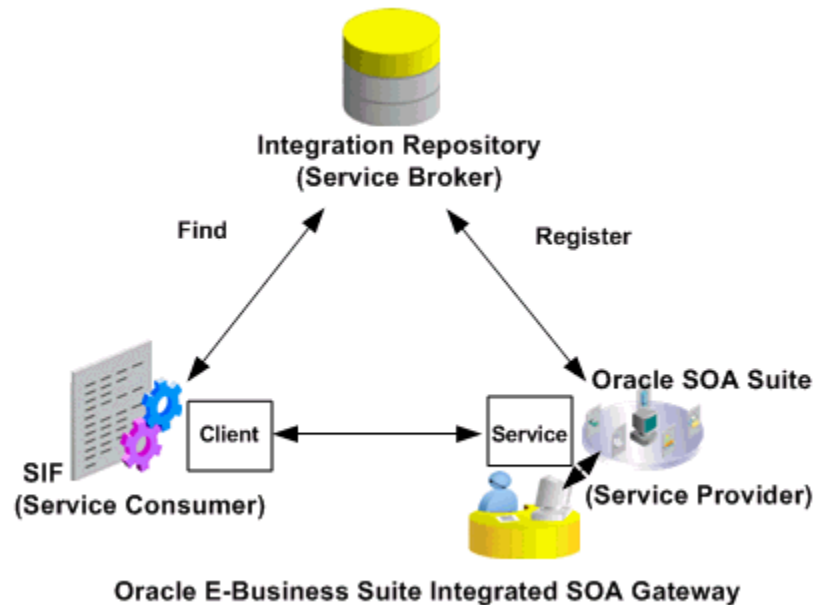
注意: このリリースでは、RESTサービスとして公開できるのは、PL/SQL API、コンカレント・プログラム、Java Beanサービス、アプリケーション・モジュール・サービス、オープン・インタフェース表およびオープン・インタフェース・ビューのみです。

- Webサービスのコンテンツを保護するため、複数の認証タイプでインバウンドのサービス要求を認証できます。
- 機能セキュリティとロールベースのアクセス制御セキュリティにより、認可されたユーザーにのみ管理機能の実行を許可します。
- Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayのサービス・プロバイダを通じて生成されたWebサービス用に、集約型の使いやすいログ記録構成を提供します。
- サービス・モニターを使用して、Oracle E-Business Suiteのインバウンド・サービス操作を監査および監視できます。
- Oracle Workflowビジネス・イベント・システムを利用して、Oracle E-Business SuiteからWebサービスを起動できます。

Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayの主要コンポーネント

Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayには、Oracle E-Business Suiteサービスの有効化に欠かせない次のコンポーネントが含まれています。次の図に、これらの主要コンポーネントの関係性を示します。

Oracle E-Business SuiteのWeb サービス・アーキテクチャ



- **Oracle Integration Repository**(サービス・ブローカ)。Oracle E-Business Suiteの中核をなす集約型のリポジトリです。Oracle E-Business Suiteの各種アプリケーションが公開している膨大な数のインタフェース・エンドポイントが格納されています。PL/SQL、XMLゲートウェイ、コンカレント・プログラム、ビジネス・イベント、オープン・インタフェース表/ビュー、EDI、ビジネス・サービス・オブジェクト(以前のService Bean)、Java APIなど、様々なインタフェース・タイプをサポートしています。

Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayは、Oracle Integration Repositoryを通じてWebサービスの生成および配置機能とサービスのライフサイクル管理機能を提供します。

アプリケーション・ユーザーはこれらのインタフェース定義とサービスをOracle Integration Repositoryを使用して閲覧し、インタフェースの詳細を確認できます。統合管理者ロールを持つユーザーの場合は、設計時の操作やWebサービスの監視、ログ・メッセージの表示を実行できます。

- **サービス・プロバイダ**(以前のSOAプロバイダ)は、Webサービスの下層にある主エンジンです。このエンジンが実際のサービスの生成と配置を背後で行っています。
- **サービス起動フレームワーク**はサービス・コンシューマとして機能し、Oracle E-Business SuiteのWebサービスの起動をとおして要求を送信します。このフレームワークはOracle Workflow Javaビジネス・イベント・システム(JBES)およびシードされているJavaルール関数を利用することで、Oracle E-Business SuiteのWebサービスの起動と消費を促進するインフラストラクチャを提供します。

また、サービス・モニター(以前のSOAモニター)はOracle E-Business Suiteの監視と監査のためのツールです。Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayを通じて提供されるWebサービスの実行時メッセージを確認できます。

注意: サービス・モニターを通じて監視および監査できるのはSOAPサービスのみです。このリリースでは、RESTサービスの実行時の監視および監査機能はサポートされていません。

Oracle E-Business Suite Web サービス開発ライフサイクル

Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayは、サービス開発の全ライフサイクルを通じて様々なユーザーが様々なタスクを実行し、サービス統合を監視および管理するための機能を提供します。

- 開発フェーズでは、統合開発者ロールを持つユーザーはカスタム・インタフェースを作成し、カスタム・インタフェースの定義にアノテーションを付けることができます。統合管理者ロールを持つユーザーはアノテーション付きのカスタム・インタフェースを検証して統合リポジトリにアップロードできます。ここに登録されたインタフェースは、カスタムのインタフェースであろうとOracleでパッケージングされたインタフェースであろうと、すべてのユーザーが表示およびアクセスできます。
- 設計時に、統合管理者ロールを持つユーザーはSOAPサービスを目的の操作パターンで生成し、これに適切なセキュリティ・ポリシーを適用してOracle SOA Suiteに配置できます。RESTサービスとして公開できるインタフェースの場合、管理者は目的のサービス操作を選択してOracle E-Business Suiteに配置できます。
- 実行時に、Webサービス・クライアントが要求メッセージを送信して、ISGのサービス・プロバイダによって有効化されたOracle E-Business Suiteサービスを起動します。サービスを要求したユーザーが認証および認可された後に、サービスの起動が可能になります。

統合管理者ロールを持つユーザーには、サービス開発ライフサイクル全体を監視および管理する責任があります。

サービス有効化の理解

サービス有効化の概要

Oracle E-Business Suiteアプリケーションは、PL/SQLやJava、コンカレント・プログラムなど様々なテクノロジーや形式で開発または記述されています。これらのアプリケーションまたはプログラムはOracle E-Business Suiteデータベースまたは中間層上に配備されています。Oracle Workflowのビジネス・イベント・システムなどの機能やOracle XML Gatewayなどの製品も、Oracle E-Business Suiteと取引先を統合する目的で広く使用されています。

Oracle E-Business Suiteアプリケーションを他のシステムと統合するには、様々な形式で記述されたこれらのプログラムが外部ソースと対話できるようにする必要があります。これを実現するには、サービスを有効化する、つまり、プログラムをWebサービスとして公開する必要があります。

Web サービスは、相互運用可能なマシン間対話をネットワーク経由で実現するために設計されたソフトウェア・システムです。そのインタフェースは、WSDLやWADLといったコンピュータで処理可能な形式で記述されています。他のシステムはその記述に従って、SOAPメッセージ(WSDLベースのサービスの場合)またはRESTサービス(WADLベースのサービスの場合)を使用して、Webサービスと対話します。Webサービスは疎結合、自己記述、再利用の性質を持つソフトウェア・コンポーネントで個々の機能がカプセル化されており、標準ベースのプロトコルを使用してプログラマ的にアクセスすることができます。

サービス有効化のプロセスでは、XSD(XMLメッセージの検証用)やWSDLまたはWADL(Webサービスの記述用)といったサービス・アーティファクトを生成しアプリケーション・サーバーに配置して、クライアントがそれらのサービスをWebを介して使用できるようにします。

SOAPサービス用に記述されたWSDLは、配置済SOAPサービスを直接起動するクライアントを作成する際や、様々なWebサービス間のデータ・フローを調整して特定のビジネス・プロセスを達成するコンポジット・アプリケーションをOracle SOA Suite BPELコンポーネントで作成する際に使用できます。

RESTサービス用に記述されたWADLは、配置済RESTサービスを起動するモバイル・アプリケーションまたはUIアプリケーション用のクライアントを作成する際に使用できます。

疎結合のサービスが集まって標準ベースのテクノロジーを使用して相互に通信するアーキテクチャ形式を **サービス指向アーキテクチャ(SOA)**と呼びます。

Webサービスで使用される一般的な用語

サービス指向アーキテクチャとは、ソフトウェアを相互運用可能なサービスの形式で設計および開発するための原則と手法をまとめたものです。SOAに基づく手法またはテクノロジーで作成されたWebサービスには再利用性と拡張性があり、プラットフォームに依存しません。Webサービスの概念について理解を深めていただくため、この項ではいくつかの一般的な用語について説明します。

Webサービス・ディスカバリ

Webサービスは標準プロトコルを使用してインターネット経由でソフトウェア・システムにアクセスすることを可能にします。そのため少なくとも、コンピュータ修復サービスなど特定のサービスを発行する **サービス・プロバイダ**と、それらのサービスを使用する **サービス・コンシューマ**が存在します。**Webサービス・ディスカバリ**とは、特定のタスクに適したWebサービスを見つけるプロセスを指します。

Simple Object Access Protocol (SOAP)

SOAPはXMLベースのメッセージをネットワーク経由(通常はHTTP/HTTPSを使用)で交換するためのプロトコルです。

Webサービス記述言語(WSDL)

WSDLとは、SOAPベースのサービス・インタフェースを記述する際の形式です。これを使用して、サービスの内容とサービスを特定のネットワーク・アドレスに結びつける方法を記述できます。

Representational State Transfer (REST)

RESTはアーキテクチャ原則の1つで、これよりWebサービスはリソースとして表示され、そのURLで一意に特定できるようになります。RESTサービスの主な特徴の1つに、HTTPメソッド(GET、POST、PUT、DELETE)を明示的に使用して、様々な操作の起動を表現するという点があります。

次の表に、RESTサービスとして公開できるインタフェースとそれらのインタフェースでサポートされるHTTPメソッドを示します。

RESTベースのインタフェースおよびサポートされるHTTPメソッド

インタフェース・タイプ	サポートされるHTTPメソッド
PL/SQL API	POSTのみ
コンカレント・プログラム	POSTのみ
Java Beansサービス	POSTおよびGET

インタフェース・タイプ	サポートされるHTTPメソッド
アプリケーション・モジュール・サービス	POSTおよびGET
オープン・インタフェース表(インバウンド)	POST、GET、PUT、DELETE
オープン・インタフェース表(アウトバウンド)	GETのみ
オープン・インタフェース・ビュー	GETのみ

オープン・インタフェース表の場合、サポートされるHTTPメソッドはインタフェースの方向(インバウンドまたはアウトバウンド)によって異なります。

Webアプリケーション記述言語(WADL)

WADLの目的は、HTTPベースのWebアプリケーションをコンピュータ処理可能な記述で提供することにあります。サービスが提供するリソースとそれらのリソース間の関連をモデル化します。

Webサービス相互作用パターン

相互作用パターンとは、Webサービス・クライアントがサービスと通信する際の方式です。同期と非同期の相互作用パターンがあります。

Webサービス・セキュリティ

Webサービス・セキュリティ(WS-Security)はアプリケーションが安全なメッセージ交換を行うための仕様です。メッセージの整合性、メッセージの秘匿性、単一メッセージ認証を通じて保護の性質を提供します。

XML (Extensible Markup Language)

XMLはマークアップ言語の1つで、ドキュメントを人間とコンピュータが判読できる形式でエンコーディングするためのルールが定義されています。

JSON (JavaScript Object Notation)

JSONとは、人間が判読可能なデータ交換を実現するためのテキストベースのオープン・スタンダードです。JSON形式はRESTサービスと一緒に使用されることが多く、サーバーとWebアプリケーション間で構造化されたデータを伝送し、XMLの代替としての役割を担います。

HTTPクライアント

ハイパーテキスト転送プロトコル(HTTP)はWebで使用される重要なプロトコルの1つです。HTTPクライアントとは、HTTPプロトコルを通じて提供されるHTTPベースのサービス(例: RESTサービスなど)を使用および消費する側を指す用語です。

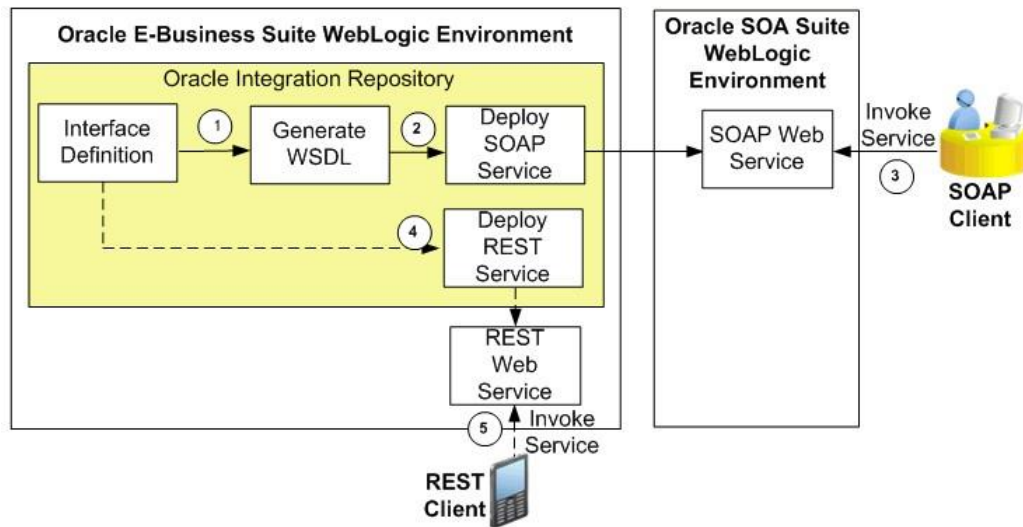
Oracle E-Business Suiteのサービス有効化

サービス有効化はOracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayの重要機能の1つです。

PL/SQLやJavaなどの形式で記述されネイティブでパッケージングされた統合インタフェース定義をOracle Integration Repositoryに格納して、Webサービスに変換できます。これにより、すべてのOracle E-Business SuiteサービスをWeb経由で他のシステムと統合できます。

次の図は、Oracle E-Business Suite内のサービス有効化プロセス・フローを簡単に示したものです。

サービス有効化機能プロセス・フロー



1. 統合管理者または統合開発者が、Oracle Integration Repository内の統合インタフェース定義をWSDLで記述された**SOAP**ベースのサービスに変換します。
2. 統合管理者がSOAPサービスを配置します。SOAPサービスがOracle SOA Suite WebLogic管理対象サーバーに配置されます。
3. 実行時に、Webサービス・クライアントがインバウンド要求を送信し、Oracle SOA Suite経由でOracle E- Business Suite SOAPサービスを起動します。
4. **REST**サービスとして公開できるインタフェースを選択した場合、統合管理者は「配置」というユーザー・アクションを使用してRESTサービスを配置できます。WADLで記述されたRESTサービスはOracle E-Business Suite管理対象サーバーに配置されます。
5. 実行時、主にモバイル・アプリケーションで使用されるRESTサービスはOracle E-Business Suite内でリソースの追加または更新を実行できます。

SOAPサービスのサービス有効化の詳細は、2-5ページのSOAPサービスの有効化を参照してください。

RESTサービスのサービス有効化の詳細は、2-6ページのRESTサービスの有効化を参照してください。

SOAPサービスの有効化

WSDLベースのSOAPサービス

Webサービス環境では、SOAPサービスはXMLドキュメントを構築するための標準の方法を提供し、Webサービス通信の構築ブロックとして機能します。たとえば、サービス・プロバイダはWebサービス・クライアントからサービス起動の要求を受け取り、対応するSOAP応答をそのクライアントに返送します。

設計時、統合管理者または統合開発者は、Oracle Integration Repository内の統合インタフェース定義をWSDLで記述されたSOAPベースのサービスに変換できます。

同期および非同期の相互作用パターンのサポート

サービスを生成する前に目的のサービス操作に使用する相互作用パターンを決定しておく必要があります。Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayは、SOAPベースのサービスについて同期と非同期の両方のサービス処理および実行をサポートしています。

- **同期パターン:** このタイプのサービス実行では、問合せへの応答が即時に返されます。要求がサーバーに発行された後から、クライアント接続は開いた状態で維持されます。クライアントはサーバーから応答メッセージが届くまで待機します。
- **非同期パターン:** 即時に結果を得られる同期型サービス実行と異なり、非同期サービスでは要求の処理に長い時間がかかることがあります。サービス要求の処理が完了すると、クライアントが指定したコールバック・アドレスに応答が送信されます。

相互作用パターンの選択方法の詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway インプリメンテーション・ガイド*のSOAP Webサービスの生成を参照してください。

SOAPサービスのセキュリティ

アプリケーション・データを不正なアクセスから保護するため、Oracle E-Business Suite integrated SOA Gatewayは主体の認証および認可をととしてセキュリティ・ルールを強制します。サービスを配置する前に、管理者は希望する認証方法を1つ選択する必要があります。

- **Oracle E-Business Suite Webサービスを要求するユーザーを認証するには、そのSOAPメッセージをユーザー名トークンまたはSAMLトークン・ベースのセキュリティを使用して認証する必要があります。** 確認された認証情報は、wsse: security Webセキュリティ・ヘッダーに埋め込まれます。
- **ユーザーに特定のサービスまたは操作に対する認可を与えるには、セキュリティ付与を通じてアクセス権限を明示的に付与する必要があります。** 複数組織アクセス管理(MOAC)セキュリティ・ルールも実装されているため、複数の組織に関連するインタフェース実行も認可できます。

認証タイプの指定方法の詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway インプリメンテーション・ガイド*のSOAP Webサービスの配置および配置解除を参照してください。

Webサービス記述言語(WSDL)

SOAPサービスが生成または配置されると、そのサービスに対して生成または配置されたWSDLリンクがユーザーに表示されます。

注意: 配置されたWSDLはサービス・エンドポイントの物理的な場所を示すもので、このリリースではサービスがホストされるsoa-infra内の場所です。

WSDL URLは、配置済SOAPサービスを直接起動するクライアントを作成する際や、様々なWebサービス間のデータ・フローを調整して特定のビジネス・プロセスを達成するコンポジット・アプリケーションをOracle SOA Suite BPELコンポーネントで作成する際に使用できます。実行時に、Webサービス・クライアントがインバウンド要求を送信し、Oracle SOA Suite経由でOracle E-Business Suite SOAPサービスを起動します。

SOAPサービスの生成と配置の方法およびその他の管理タスクの詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway インプリメンテーション・ガイド*のSOAP Webサービスの管理を参照してください。

RESTサービスの有効化

WADLベースのRESTサービス

REST (Representational State Transfer)はアーキテクチャ原則の1つで、これよりWebサービスはリソースとして表示され、そのURLで一意に特定できるようになります。RESTサービスの主な特徴の1つに、HTTPメソッドを明示的に使用して、様々な操作の起動を表現するという点があります。これはSOAPサービスの簡易的な代替物として機能する別形式のWebサービスで、Webを介したサービスへのアクセスを可能にします。

RESTメッセージはXMLおよびJSON (非XMLデータ)形式をサポートしており、その他のWeb関連の標準と組み合わせて使用できます。

同期相互作用パターンのみをサポート

SOAPサービスとは異なり、RESTサービスは、要求-応答および要求のみの同期相互作用パターンをサポートするサービスとして生成されます。このリリースでは、非同期相互作用パターンのRESTサービスはサポートされません。

RESTサービス・セキュリティ

Oracle E-Business Suite RESTサービスを起動するユーザーは、HTTP Basic認証またはトークン・ベースの認証を使用してHTTP転送プロトコル・レベルで認証を受ける必要があります。

Webアプリケーション記述言語(WADL)

RESTサービスとして公開できるインタフェースの場合、対応する配置済WADL記述を別のウィンドウで表示できます。

WADLの目的は、HTTPベースのWebアプリケーションをコンピュータ処理可能な記述で提供することにあります。サービスが提供するリソースとそれらのリソース間の関連をモデル化します。WADLの目的は、Webの既存HTTPアーキテクチャに基づいているWebサービスを簡単に再利用できるようにすることです。プラットフォームや言語に依存せず、Webブラウザ内での基本的な使用という枠組みを超えて、アプリケーションの再利用を促進することを目的としています。

WADL URLは、配置済RESTサービスを起動するクライアントを作成する際に使用できます。

実行時に、Webサービス・クライアントがインバウンドREST要求を送信し、Oracle E- Business Suite RESTサービスを起動します。

RESTサービスの配置方法およびその他の管理タスクの詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway インプリメンテーション・ガイド*のREST Webサービスの管理を参照してください。

Oracle Integration Repositoryの ナビゲーション

この章では、次のトピックについて説明します。

- Oracle Integration Repositoryの概要
- Oracle Integration Repositoryのスタート・ガイド
- インタフェースの発見とレビュー

Oracle Integration Repositoryの概要

Oracle E-Business Suite Integrated SOA GatewayはOracle E-Business Suiteのサービス有効化の本質的な部分をなすものです。Webサービスを起動する機能と、Webサービス・クライアントがOracle E-Business Suiteから提供されるサービスを使用できるようにするための機能が含まれています。

この目的を達成するには、サービス関連のビジネス・インタフェースをまとめて保管する中央的な場所を用意し、アプリケーション・ユーザーがこれらのビジネス・インタフェースを閲覧して消費可能なサービスのタイプを知ることができるようにする必要があります。Oracle E-Business Suiteの主要パーツであるOracle Integration Repositoryが、この目的を達成するためのリポジトリとして使用されます。

Oracle Integration Repositoryには、Oracle E-Business Suiteのあらゆるアプリケーションが公開する膨大な数のインタフェース・エンドポイントが含まれています。Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayにとって不可欠なコンポーネントでありながら、Oracle E-Business Suiteの統合インタフェースの総合カタログの役割も担います。このツールを使用することで、カスタムおよびOracleによってシードされるインタフェースの両方を、簡単に発見したり検索したりできます。

Oracle E-Business Suite内の統合インタフェース・タイプ

Oracle Integration Repositoryでは、次のような様々な統合インタフェース・タイプがサポートされます。

- サービス対応インタフェース・タイプ

- PL/SQL
- XMLゲートウェイ・マップ(インバウンド)
- コンカレント・プログラム

重要: Oracle Integration Repositoryはオープン・インタフェース表およびビューのRESTサービス有効化をサポートしています。コンカレント・プログラムがオープン・インタフェース表またはビューに関連付けられている場合、このコンカレント・プログラムをオープン・インタフェース・タイプの下に表示させ、RESTサービスとして使用することができます。

- オープン・インタフェース表
- オープン・インタフェース・ビュー
- ビジネス・サービス・オブジェクト(以前のService Bean)
- アプリケーション・モジュール・サービス

注意: アプリケーション・モジュール実装クラスはJavaクラスの1つで、OAフレームワークベースのコンポーネントおよびページを管理するビジネス・ロジックへのアクセスを提供します。このようなJavaクラスはアプリケーション・モジュール・サービスと呼ばれ、Javaインタフェースのサブタイプに分類されます。

- Java Beanサービス

注意: Java APIのメソッドが単純データ型またはシリアル化可能Java Beanをパラメータとして使用している場合、そのJava APIはJavaインタフェースのサブタイプであるJava Beanサービスに分類されます。このようなJava APIはRESTベースのWebサービスとして公開できます。

- セキュリティ・サービス

注意: その他のサービス対応インタフェースと異なり、セキュリティ・サービスはOracle Application Object Libraryによって事前に定義および配置されるセキュリティ・サービスのセットです。このタイプのサービスは、モバイル・アプリケーション向けのセキュリティ関連機能を提供します。

- 購読モデル

- ビジネス・イベント
- XMLゲートウェイ・マップ(アウトバウンド)
- コンポジット・サービス-BPEL
- サービス有効化以外のパブリック・インタフェース
 - EDIインタフェース
 - Java API

アプリケーション・モジュール・サービス、Java Beanサービスおよびセキュリティ・サービス以外のJava APIは、Webサービスとして公開できません。

各インタフェース・タイプの詳細は、3-15ページのインタフェース・タイプを参照してください。

主な機能

- すべての統合インタフェース・タイプを公開する統一リポジトリ。
- インタフェースの定義および記述に加えた変更がリリースに自動的に反映されます。
- 強力なユーザー・インタフェースを使用して簡単にインタフェースを閲覧したり、製品ファミリーやタイプ別、または全体的な検索機能を使用してインタフェースを検索したりできます。
- サービス有効化が可能なインタフェースの場合、ソース情報やインタフェース内のメソッド、Webサービス情報などのインタフェース詳細が表示されます。
- ネイティブ・インタフェースのコレクションが含まれたコンポジット・サービスをサポートします。
- セキュリティ・ルールを強制し、認可されたユーザーにのみ管理タスクの実行を許可します。
- カスタムの統合インタフェースをサポートします。

Oracle Integration Repositoryのスタート・ガイド

Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayのユーザー・ロールの理解

Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayでは、次の3つのロールを使用して統合リポジトリにアクセスし必要なタスクを実行できます。各ユーザー・ロールにはデフォルトで、統合リポジトリにアクセスするための特定の職責が関連付けられています。

- 統合アナリスト - 統合リポジトリ職責
- 統合開発者 - Integrated SOA Gateway職責
- 統合管理者 - Integrated SOA Gateway職責

デフォルトで、統合管理者ロールはSYSADMINユーザーに割り当てられます。

次の表のとおり、ユーザーは割り当てられたロールに応じてタスクを実行できます。

権限	統合アナリスト	統合開発者	統合管理者
パブリック・インタフェースの表示	○	○	○
プライベート/内部インタフェースの表示	×	○	○
SOAP Webサービスの生成/再生成	×	○	○
SOAP Webサービスの配置/配置解除	×	×	○
SOAP Webサービスの有効化	×	×	○
SOAP Webサービスのリタイア	×	×	○
SOAP Webサービスのリセット	×	×	○
REST Webサービスの配置/配置解除	×	×	○
ビジネス・イベントの購読	×	×	○
付与の作成	×	×	○
付与の表示	×	○	○
コンポジット・サービスのダウンロード	×	○	○
(構成可能)			

注意: Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayでは権限および権限セットの概念を利用して、データ・アクセス権限をロールを通じてユーザーに付与します。たとえば、管理機能に関連する複数の権限を管理権限セットにまとめ、これらの権限を統合管理者ロールを通じてユーザーに付与できます。このユーザーは統合管理者となり、管理タスクを実行する権限を持ちます。

デフォルトで統合アナリストにはコンポジット・サービスをダウンロードする権限がありません。ダウンロード権限は権限セットを通じて付与する必要があります。ロールを通じたセキュリティの管理方法の詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway インプリメンテーション・ガイド*のロールベースのアクセス制御(RBAC)セキュリティを参照してください。

SOAPおよびREST Webサービスとその他の管理タスクの実行方法の詳細は、4-6ページのSOAP Webサービスの共通情報および4-15ページのREST Webサービスの共通情報を参照してください。

セキュリティ付与の管理方法の詳細は、4-30ページの付与の管理を参照してください。

Oracle Integration Repositoryへのアクセス

このリリースでは、自身に割り当てられているユーザー・ロールに応じ、次のいずれかの職責を通じてOracle Integration Repositoryにアクセスできます。

注意: Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayでは事前定義のユーザー・ロールである統合アナリスト、統合開発者、統合管理者の3つが使用されます。これらのロールの詳細は、3-3ページのOracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayのユーザー・ロールの理解を参照してください。

- **統合アナリスト・ロール:** *統合リポジトリ職責* > *「統合リポジトリ」*

統合アナリストを付与されたユーザーにのみ、統合リポジトリ職責がナビゲーション・メニューに表示されます。

ナビゲーション・メニューから統合リポジトリ職責と統合リポジトリ・リンクを選択すると、統合アナリスト・ロールを持つユーザーは、統合リポジトリ内の既存の統合インタフェースの定義およびサービスをナビゲートし、検索し、表示できます。

この方法で統合リポジトリにアクセスしたユーザーは、統合管理者ロールのユーザーがIntegrated SOA Gateway職責を通じて実行する管理タスクを実行することができません。

- **統合開発者ロールまたは統合管理者ロール: *Integrated SOA Gateway* 職責 > 「統合リポジトリ」**

統合開発者または統合管理者ロールを付与されたユーザーにのみ、*Integrated SOA Gateway* 職責がナビゲーション・メニューに表示されます。

統合リポジトリ職責を通じて統合リポジトリのホーム・ページにアクセスする場合と同じように、ユーザーはリポジトリをとおして既存のインタフェースとサービスの詳細を検索して表示できます。それに加えて統合管理者ロールのユーザーには、さらに多くの権限があり、統合リポジトリのユーザー・インタフェースでWebサービスを生成および配置したり、セキュリティ付与を作成したりできます。

また、統合管理者ロールを持つユーザーの場合、「**統合リポジトリ**」リンクに加えて「**管理**」リンクがナビゲータ・メニューに表示されます。「**管理**」リンクからは、統合リポジトリのユーザー・インタフェースにはない他の管理タスクを実行できます。3-6ページの「**管理**」リンクからの追加管理タスクの実行を参照してください。

「管理」リンクからの追加管理タスクの実行

Oracle E-Business Suiteに*Integrated SOA Gateway*職責を使用してログインすると、統合管理者のナビゲータ・メニューには、「**統合リポジトリ**」リンクに加えて「**管理**」リンクが表示されます。

この「**管理**」リンクは統合管理者のための特別なリンクで、統合リポジトリのユーザー・インタフェースにはない他の管理タスクを実行できます。

「**管理**」リンクを展開すると、次が表示されます。

- **サービス・モニター・リンク:** このリンクを使用してサービス・モニターのユーザー・インタフェースにアクセスし、Oracle SOA Suiteを通じて渡されたOracle E-Business Suite WebサービスのすべてのSOAPメッセージを監視および監査できます。

サービス・モニターは以前SOAモニターと呼ばれていました。サービス・モニターの使用方法の詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway インプリメンテーション・ガイド*のサービス・モニターを使用したSOAPメッセージの監視を参照してください。

- **構成リンク:** このリンクから中央的なログおよび監査構成用ユーザー・インタフェースにアクセスして、ログの構成やサービス監査を統合インタフェース・レベルで追加できます。

ログ構成の詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway インプリメンテーション・ガイド*のWebサービスのログ記録を参照してください。

統合管理者ロールを持つユーザーによって実行される各タスクの詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway インプリメンテーション・ガイド*を参照してください。統合開発者ロールを持つユーザーに関連するタスクの詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway 開発者ガイド*を参照してください。

統合リポジトリの使用

統合リポジトリには、次の主要ユーザー・インタフェースがあります。

- インタフェースのブラウズ(デフォルト)、3-7ページ
- 検索インタフェース、3-9ページ
- 「インタフェース詳細」ページ、3-15ページ

Oracle Integration Repositoryの使用方法について詳しく説明するため、この項には次のトピックも含まれています。

- 含まれているインタフェース・タイプ、3-15ページ
- 統合の標準、3-20ページ
- 特定のインタフェースの検索、3-9ページ

インタフェースの発見とレビュー

この項には、次のトピックが含まれています。

- 統合インタフェースの閲覧、3-7ページ
- 統合インタフェースの検索、3-9ページ
- 「インタフェース詳細」ページ、3-15ページ
- インタフェース・タイプ、3-15ページ
- 統合の標準、3-20ページ

統合インタフェースの閲覧

Oracle Integration Repositoryにアクセスすると、デフォルトで「インタフェースのブラウズ」が表示されます。ブラウズ・インタフェースには、検索ページまたは任意のインタフェース情報ページで「ブラウズ」をクリックする方法でもアクセスできます。

統合する製品ファミリおよび製品と、次のいずれかがわかっている場合は、該当するインタフェースのリストを直接閲覧できます。

- ビジネス・エンティティ

ビジネス・エンティティとは、ビジネス・アクティビティを実行するオブジェクトまたはビジネス・アクティビティの実行対象となるオブジェクトです。販売オーダー、従業員、購買オーダー、顧客、領収書はすべてビジネス・エンティティの例です。1つのインタフェースを複数のビジネス・エンティティで使用することができ、1つのビジネス・エンティティへのアクセスに複数のインタフェースを使用することもできます。

- **インタフェース・タイプ**

Oracle Integration Repository内のビジネス・インタフェース情報は、使用されている統合テクノロジーに基づいてインタフェース・タイプごとに閲覧および検索できるように整理されています。

詳細は、3-15ページのインタフェース・タイプを参照してください。

- **統合の標準**

XMLゲートウェイおよびWebサービスベースのインタフェースは、様々な業界標準に準拠しています。

詳細は、3-20ページの統合の標準を参照してください。

リポジトリで統合エンドポイントを閲覧するかわりに、検索を実行して目的のインタフェースまたはサービスを見つけることもできます。3-9ページの統合インタフェースの検索を参照してください。

Oracle Integration Repositoryのブラウザ・ページ



Oracle Integration Repositoryでは、「表示別」リストから次のいずれかのビューを選択して統合インタフェースまたはサービスを閲覧できます。

- **製品ファミリ**
- **インタフェース・タイプ**
- **標準(統合標準)**

これらのビューの1つでナビゲーション・ツリーを展開すると、使用可能なインタフェースのリストが表示されます。

インタフェースのリストをCSVファイルに保存するには、「**エクスポート**」をクリックします。

インタフェースの詳細を確認するには、インタフェース名のリンクをクリックしてインタフェース詳細ページにアクセスします。

製品ファミリー別の閲覧

製品ファミリー ビューは、**製品ファミリー**、**製品**、**ビジネス・エンティティ**の順で構成されます。

たとえば、Financials、Payables、Payables Invoiceのような順序です。

ビジネス・エンティティ(例: 買掛請求書)を選択した後に、インタフェース・リスト表から目的の統合インタフェース名のリンクをクリックして、インタフェース詳細を表示します。

ビジネス・エンティティには、別の製品によって所有されている別タイプのインタフェースが複数含まれることがあります。たとえば、'仕入先サイト'というビジネス・エンティティに次が含まれる場合があります。

- 仕入先パッケージ
- 仕入先オープン・インタフェース・インポート

インタフェース別の閲覧

インタフェース・タイプ ビューは、**インタフェース・タイプ**、**製品ファミリー**、**製品**の順で構成されます。

たとえば、PL/SQL、Financials、Cash Managementのような順序です。

このビューを使用すると、特定のインタフェース・タイプを使用する特定の製品で使用可能なインタフェースを表示できます。

標準別の閲覧

標準ビューは、**標準およびバージョン**、**製品ファミリー**、**製品**の順で構成されます。

たとえば、OAG7.2、Financials、Payables、Payables Invoiceのような順序です。

このビューを使用すると、製品のXMLゲートウェイ・マップと特定の標準(W3CやOAG 7.2など)に属するWebサービスを閲覧できます。

統合インタフェースの検索

メインの検索ページにアクセスするには、「Oracle Integration Repositoryへようこそ」ページまたは任意のインタフェース詳細ページで、「**検索**」をクリックします。

Oracle Integration Repositoryの検索ページ

Integration Repository

Search Browse

Interface Name Internal Name

Product Family Interface Type

Product Business Entity

[Hide More Search Options](#)

☒ TIP Select Category before a Category Value

Category Interface Subtype

Category Value Application Module Services

Interface Source

Scope

Status

Web Service Type

Web Service Status

Standard

Standard Specification

Name	Internal Name	Product	Type	Source	Status	Description
Approvals List Management	oracle.apps.fnd.wf.worklist.service.rt.server.WFWorklistServiceAMImpl	Oracle Application Object Library	Java	Oracle	Active	Provides services that can be invoked by a client application to retrieve Oracle Workflow approvals summary, get approval lists and save favorite lists for a user.

Copyright (c) 1998, 2016, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved. Privacy Statement

次の基準の任意の組合せでインタフェースを検索できます。

注意: 検索基準を入力する前の「検索」ページには、「製品ファミリ」、「製品」および「インタフェース・タイプ」のフィールドにデフォルト値「すべて」が表示されています。そのためドロップダウン・リストで選択を行わなくても、検索は正しく実行されます。

さらに、デフォルト値「すべて」は、「[検索オプションをさらに表示](#)」リンクをクリックすると表示される「カテゴリ」、「ステータス」、「インタフェース・ソース」、「Webサービス・ステータス」、「標準」、「スコープ」の各フィールドにも設定されています。

- **インタフェース名**

これは、統合リポジトリのユーザー・インタフェースのブラウズ・ツリーに表示されるインタフェース名です。

- **内部名、4-3ページ**

これは、内部で使用するインタフェース名です。PL/SQLパッケージ名、ドキュメント名またはJavaサービス・インタフェース名のいずれかです。

- **インタフェース・タイプ、3-15ページ**

リポジトリ内では、使用されている統合テクノロジーに基づいてインタフェース定義が分類されて表示されます(PL/SQLやコンカレント・プログラム関連のインタフェースなど)。

Oracle Integration Repositoryでサポートされているインタフェース・タイプは、PL/SQL API、コンカレント・プログラム、XMLゲートウェイ・メッセージ、オープン・インタフェース表、オープン・インタフェース・ビュー、ビジネス・サービス・オブジェクト、ビジネス・イベント、EDIインタフェース、Java、コンポジット・サービス-BPELです。

注意: Java Beanサービス、アプリケーション・モジュール・サービス、フォーム用Java API、セキュリティ・サービスはJavaインタフェースのサブタイプです。

- **製品ファミリー**

インタフェースを提供するOracle E-Business Suiteアプリケーション・ファミリーです。製品ファミリーの例としては、Application Technology、Financials、Manufacturingなどがあります。

- **製品**

インタフェースを提供するOracle E-Business Suiteアプリケーションまたはコンポーネントです。製品の例としては、Payables、Cash Management、Order Managementなどがあります。

- **ビジネス・エンティティ**

ビジネス・エンティティとは、ビジネス・アクティビティを実行するオブジェクトまたはビジネス・アクティビティの実行対象となるオブジェクトです。たとえば、販売オーダー、アカウント番号、従業員、購買オーダー、顧客、領収書はすべてビジネス・エンティティです。

次の基準を検索に含める場合は、「**検索オプションをさらに表示**」をクリックします。

- **「カテゴリ」および「カテゴリ値」**

これら2つのフィールドを使用して、製品固有の機能を指定したり、インタフェースのサブタイプを分類したりできます。必要に応じて、次の使用可能なカテゴリ・ドロップダウン値から1つ選択します。

- **すべて(デフォルト)** - カテゴリおよびカテゴリ値に関係なく、すべての統合インタフェースが表示されます。
- **拡張** - このカテゴリは、API機能を拡張する特別なメソッドが製品から提供されていることを示します。拡張機能の例としては、Human Resource Management Systemで提供されるユーザー・フックや、Projectsで提供されるクライアント拡張があります。

拡張カテゴリを選択すると、カテゴリ値(「HRMSユーザー・フック提供済」など)を選択できるようになります。

- **インタフェース・サブタイプ** - このカテゴリはインタフェースのサブタイプがあることを示します。

たとえば、Java Beanサービス、アプリケーション・モジュール・サービス、セキュリティ・サービスはJavaインタフェースのサブタイプです。

インタフェース・サブタイプ・カテゴリを選択すると、「Java Beanサービス」、「アプリケーション・モジュール・サービス」、「フォーム用Java API」、「セキュリティ・サービス」が選択値のリストとして自動的に表示されます。

- **インタフェース・ソース**

ドロップダウン・リストから、次のいずれかの値を選択します。

- すべて(デフォルト) - すべての統合インタフェースが検索で表示されます。
- Oracle - Oracleによってネイティブでパッケージングされた統合インタフェースおよびサービスがこのインタフェース・タイプに分類されます。
- カスタム - 統合リポジトリにアップロードおよび発行されたアノテーション付きのカスタム統合インタフェースを示しています。

- **ステータス**

ドロップダウン・リストから、次のいずれかの値を選択します。

- すべて (デフォルト)
- 有効
- 使用不可
- 廃止
- 予定

ステータスの詳細は、4-4ページの共通情報の表を参照してください。

- **Webサービス・タイプ**

「Webサービス・タイプ」フィールドは、Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayでサポートされる様々なサービス・タイプを検索する場合に使用します。

ドロップダウン・リストから、次のいずれかの値を選択します。

- すべて(デフォルト) - SOAPとRESTのどちらのサービスとして公開できるか(できないか)に関係なく、すべてのインタフェースが表示されます。
- REST - RESTサービスとして公開できるすべてのインタフェースが表示されます。
- SOAP - SOAPサービスとして公開できるすべてのインタフェースが表示されます。

- **Webサービス・ステータス**

「Webサービス・ステータス」フィールドは、サービスの生成および配置ライフサイクルの様々なWebサービス状態を指定する場合に使用します。このフィールドは、サービス有効化が可能なインタフェースにとって重要です。

「Webサービス・ステータス」フィールドに表示されるオプションのリストは、「Webサービス・タイプ」で選択した値によって異なります。

- サービス・タイプで「すべて」を選択した場合、選択できる「Webサービス・ステータス」値は、「すべて」と「配置済」です。
- サービス・タイプで「REST」を選択した場合、選択できる「Webサービス・ステータス」値は、「すべて」、「配置済」および「未配置」です。
- サービス・タイプで「SOAP」を選択した場合、選択できる「Webサービス・ステータス」値は、「すべて」、「生成済」、「未生成」、「配置済有効」および「配置済無効」です。

ドロップダウン・リストから、次のいずれかの値を選択します。

- すべて(デフォルト) - 次のオプションに基づいてインタフェースが表示されます。
 - サービス・タイプとして「すべて」が選択されている場合、サービス有効化が可能なタイプかどうかに関係なく、すべてのインタフェースが表示されます。
 - サービス・タイプとして「SOAP」が選択されている場合、SOAPサービスとして公開可能なインタフェースがサービスのステータスに関係なく表示されます。
 - サービス・タイプとして「REST」が選択されている場合、RESTサービスとして公開可能なインタフェースがサービスのステータスに関係なく表示されます。
- 未生成 - サービス・タイプとして「SOAP」が選択されている場合、サービス対応インタフェースのうちSOAPサービスが生成されていないものがすべて表示されます。
- 生成済 - サービス・タイプとして「SOAP」が選択されている場合、SOAPサービスが生成されているインタフェースのうち未配置のものがすべて表示されます。
- 配置済有効 - サービス・タイプとして「SOAP」が選択されている場合、SOAPサービスが「有効」の状態に配置されているインタフェースがすべて表示されます。これらのインタフェースは、起動して新しいSOAP要求を受け付ける準備ができています。
- 配置済無効 - サービス・タイプとして「SOAP」が選択されている場合、SOAPサービスが「リタイア」の状態に配置されているインタフェースがすべて表示されます。これらのインタフェースは有効化されるまで新しいSOAP要求を受け付けることができません。
- 未配置 - サービス・タイプとして「REST」が選択されている場合、RESTサービスが配置されていないインタフェースがすべて表示されます。
- 配置済 - サービス・タイプとして「REST」が選択されている場合、RESTサービスが配置されているインタフェースがすべて表示されます。

サービス・タイプとして「すべて」が選択されている場合、RESTまたはSOAP Webサービスが配置されているインタフェースがすべて表示されます。配置状態が有効と無効のSOAPサービスの両方が含まれます。

詳細は、4-6ページのWebサービスの共通情報を参照してください。

- **スコープ**

ドロップダウン・リストから、次のいずれかの値を選択します。

- **すべて (デフォルト)** - パブリック、内部、非公開のどれであるかに関係なく、すべての統合インタフェースが表示されます。
- **パブリック** - 誰でも使用できるパブリック統合インタフェースが表示されます。
- **Oracle内部 - Oracle E-Business Suite**のアプリケーション間のビジネス統合に使用できるインタフェースが表示されます。

たとえば、このタイプのインタフェース(Oracle内部)がApplication Object Libraryに所属している場合、このインタフェースはApplication Object Libraryだけでなく、Oracle E-Business Suite内のその他のアプリケーションがプロセス統合の目的で 사용할 수 있습니다。

統合開発者ロールまたは統合管理者ロールを持つユーザーのみが、このタイプのインタフェースにアクセスできます。

- **アプリケーション限定で非公開 - アプリケーション内部でのビジネス統合にのみ使用できる**インタフェースが表示されます。このタイプのインタフェースはそのインタフェースが属するアプリケーション内でしか使用できません。たとえば、このタイプのインタフェースがPurchasingアプリケーションに属している場合、これをPurchasing以外のOracle E-Business Suiteアプリケーションが使用することはできません。

統合開発者ロールまたは統合管理者ロールを持つユーザーのみが、このタイプのインタフェースにアクセスできます。

- **標準および標準仕様**

詳細は、3-20ページの統合の標準を参照してください。

検索結果の表示

基準を選択した後に、「進む」をクリックして検索を実行します。検索結果表に使用可能なインタフェースのリストが表示されます。このインタフェースの表には、1ページに最大10件のレコードが表示されます。検索で10件以上のレコードが見つかった場合、「次」アイコンをクリックすると、次のページのレコードが表示されます。

インタフェース名、内部名、製品、インタフェース・タイプ、ソース、ステータス、説明など、各インタフェースの情報が検索結果表に表示されます。検索結果表でインタフェース名のリンクをクリックするとインタフェース詳細ページが表示されるため、選択したインタフェースまたはサービスの詳細を確認できます。

検索結果を並べ替えるには、ソートの対象にするフィールドの横で上へ矢印または下へ矢印アイコンをクリックすると、検索結果全体をソートできます。結果は当初、インタフェース名を昇順でソートした状態で表示されます。

オプションで、「名前」フィールドの横の下へ矢印アイコンをクリックしてソート順を降順に変更できます。

インタフェースのリストをCSVファイルに保存するには、「エクスポート」をクリックします。「すべて消去」をクリックし、入力した検索フィールドを消去して、必要に応じて新しい検索を実行します。

インタフェース詳細ページ

ブラウザ・ツリーまたは検索結果からインタフェースを選択すると、インタフェース詳細ページが表示されます。ここには、特定のインタフェースに関する次の2種類の情報が表示されます。

- 共通情報

ここには、一般情報が記載されたヘッダー領域、選択したインタフェースの完全な説明、インタフェースのソース情報、選択したインタフェースに含まれているプロシージャおよび関数またはメソッドが表示されます。

- Webサービス情報(オプション)

サービス有効化が可能なインタフェースの場合、Webサービス情報がインタフェース詳細ページに表示されます。ここにはインタフェースまたはサービスの情報に加え、選択したインタフェースにサービスが関連付けられているか、サービスは配置されているかなど、サービスのステータスが表示されます。

このページで統合管理者は選択したインタフェースに対し、Webサービスの生成および配置、ビジネス・イベントの購読、セキュリティ付与の作成といった管理タスクを実行できます。

このインタフェース詳細ページの詳細は、4-1ページのインタフェース詳細の共通情報を参照してください。

インタフェース・タイプ

ビジネス・インタフェースは基になっている統合テクノロジーに従って、**インタフェース・タイプ**に整理されています。

Oracle Integration Repositoryでは、インタフェースが通常どのように形成または構築されるかに基づき、次のインタフェース・タイプがサポートされます。

- ネイティブ・インタフェース

ネイティブ統合インタフェース、つまりOracleによってシードされるインタフェースは、Oracle Integration Repositoryでデフォルトで利用できる統合エンドポイントです。次のインタフェース・タイプが含まれます。

- PL/SQL、3-17ページ
- XMLゲートウェイ、3-17ページ
- コンカレント・プログラム、3-17ページ

- ビジネス・イベント、3-18ページ
- オープン・インタフェース表、3-18ページ
- オープン・インタフェース・ビュー、3-18ページ
- EDI、3-18ページ
- ビジネス・サービス・オブジェクト(Service Bean)、3-19ページ
- Java、3-19ページ

標準のJava APIとは別に、Javaインタフェースには次のサブカテゴリがあります。

- Java Beanサービス、3-19ページ
- アプリケーション・モジュール・サービス、3-19ページ
- セキュリティ・サービス、3-20ページ

このリリースでは、フォーム用Java APIはサービス有効化可能なインタフェースではないため、SOAPサービスとして公開することができません。既存のフォーム用Java APIインタフェースの代替については、My Oracle Supportのナレッジ・ドキュメント 966982.1を参照してください。

- コンポジット・インタフェース、3-20ページ

コンポジット・インタフェースはネイティブ・インタフェースに基づくインタフェースで、統合リポジトリで使用できる特定の製品または製品ファミリーに属するネイティブのインタフェースのコレクションが含まれています。

サポートされるコンポジット・インタフェース・タイプは、「コンポジット - BPEL」です。

注意: Oracle Integration Repositoryでは、統合リポジトリのアノテーション標準に基づいて作成およびアノテーションされたカスタムの統合インタフェースがサポートされます。適切な検証を実施した後、これらのアノテーション付きカスタム・ソース・ファイルをアップロードして、Oracleインタフェースとともに統合リポジトリのブラウザ・ツリーに所属先のインタフェース・タイプに基づいて表示させることができます。

カスタム・インタフェースとOracleインタフェースを簡単に区別できるように、カスタム統合インタフェースは「カスタム」のインタフェース・ソースに分類され、Oracleインタフェースは「Oracle」のインタフェース・ソースのマーキングが付けられます。カスタム統合インタフェースおよびサービスの詳細は、6-1ページのカスタム統合インタフェースおよびサービスの使用を参照してください。

PL/SQLインタフェース

PL/SQLパッケージに基づくビジネス・インタフェースを使用して、統合で使用するプロシージャや関数を起動できます。

PL/SQL APIはサービス有効化が可能なインタフェースで、SOAPベースおよびRESTベースのWebサービスとして公開できます。

統合リポジトリのPL/SQLインタフェース・タイプの詳細は、4-40ページのPL/SQL情報を参照してください。

XMLゲートウェイ・メッセージ・マップ

Oracle XML GatewayにはOracle E-Business Suiteとの統合を容易にするサービスのセットが含まれており、これによりXMLメッセージングをサポートしています。Oracle E-Business SuiteはOracle Workflowビジネス・イベント・システムを使用して、イベントベースのXMLメッセージの作成と消費をサポートしています。

Oracle XML GatewayはOracle E-Business Suiteで発生したイベントを消費し、インバウンド・イベントを購読して処理します。Oracle Advanced Queuingのメッセージ伝播機能を使用してOracle Transport Agentと連携し、ビジネス・パートナーとの間のメッセージの送受信を行います。XMLゲートウェイ・メッセージ・マップは直接使用できるほか、Webサービスとして公開することもできます。

追加情報: メッセージ・マップは.xgm形式のファイルで、作成にはXML Gateway Message Designerが使用されます。メッセージ・マップでは、データのソースとターゲット、ソースとターゲット間の階層、データの変換と処理制御のためのアクションが定義されます。

統合リポジトリのXMLゲートウェイ・マップ・インタフェース・タイプの詳細は、4-35ページのXMLゲートウェイ・マップ情報を参照してください。

Oracle XML Gatewayの詳細は、*Oracle XML Gateway ユーザーズ・ガイド*を参照してください。

コンカレント・プログラム

コンカレント・プログラムは、複数のプログラムをバックグラウンドで実行するコンカレント・プロセスとして実行されます。一般的にコンカレント・プログラムで実行される関数は、仕訳の転記やEDIフラット・ファイルの生成など、大量のデータを扱うもので長い実行時間を要します。

統合リポジトリのコンカレント・プログラム・インタフェース・タイプの詳細は、4-65ページのコンカレント・プログラム情報を参照してください。

コンカレント・プログラムの使用方法の詳細は、*Oracle E-Business Suite セットアップ・ガイド*を参照してください。

ビジネス・イベント

ビジネス・イベントはインターネット・アプリケーション内の発生事象のことで、システム内の他のオブジェクトや外部エージェントにとって重要な事象であることがあります。ビジネス・イベントの例としては、新しい販売オーダーの作成や既存のオーダーへの変更があります。

Oracle Workflowはビジネス・イベント・システムを使用しており、これがOracle Advanced Queuing (AQ)インフラストラクチャを通じてシステム間のビジネス・イベントの通知および管理を行います。ローカル・イベントが発生すると、そのイベントを発生させたコードと同じトランザクション内でイベント購読コードが実行されます。購読処理には、イベント情報に対するカスタム・コードの実行やワークフロー・プロセスへのイベント情報の送信、他のキューやシステムへのイベント情報の送信を含めることができます。

ビジネス・イベント情報の詳細は、*Oracle Workflow開発者ガイド*のイベントを参照してください。

統合リポジトリのビジネス・イベント・インタフェース・タイプの詳細は、4-75ページのビジネス・イベント情報を参照してください。

オープン・インタフェース表

オープン・インタフェースはインタフェース表で構成されています。この表は外部ソースやコンカレント・プログラムからのデータを格納する際や、それらのデータを検証してOracle E- Business Suiteのベース表に適用する際に使用されます。オープン・インタフェースの実装にはコンカレント・プログラムが使用されます。

オープン・インタフェース表はオープン・インタフェースと呼ばれることがあります。

統合リポジトリのオープン・インタフェース表インタフェース・タイプの詳細は、4-69ページのオープン・インタフェース情報を参照してください。

オープン・インタフェース・ビュー

インタフェース・ビューはOracle E-Business Suite製品からのデータを選択できるようにするためのデータベース・オブジェクトです。

統合リポジトリのインタフェース・ビュー・インタフェース・タイプの詳細は、4-72ページのインタフェース・ビュー情報を参照してください。

EDIメッセージ・トランザクション

電子データ交換 (EDI)は電子商取引の形式の1つです。インタフェース・データ・ファイルを標準形式のメッセージとして取引先と電子的に交換できるため、人手による作業を減らすことができます。EDIメッセージ・トランザクションはOracle e- Commerce Gatewayでサポートされます。

Oracle e-Commerce Gatewayは、取引先との取引を電子商取引の標準および手法に従って電子的に行うことを可能にします。EDIソリューションとして使用した場合、Oracle e-Commerce GatewayはEDIトランスレータとの連携を通じて、特定のEDI標準形式およびバージョンを提供します。

統合リポジトリのEDIメッセージの詳細は、4-74ページのEDIメッセージ情報を参照してください。

Oracle e-Commerce Gatewayの詳細は、*Oracle e-Commerce Gateway ユーザーズ・ガイド*を参照してください。

ビジネス・サービス・オブジェクト

ビジネス・サービス・オブジェクトは、以前Service Beanと呼ばれていた高レベルのサービス・コンポーネントです。これを使用してOAフレームワークまたはBC4JのコンポーネントをWebサービスとして配置できます。

ビジネス・サービス・オブジェクト・インタフェースはSOAサービスへのアクセスを提供するため、Oracle E-Business Suiteと取引先間との統合が促進されます。これらはサービス・データ・オブジェクトをパラメータとして使用して複雑なデータを渡します。

注意: サービス・データ・オブジェクトは厳密にはインタフェース・タイプではありません。1つ以上のビジネス・サービス・オブジェクトやその他のサービス・データ・オブジェクトによってデータを渡す用途で使用されます。

統合リポジトリのビジネス・サービス・オブジェクト・インタフェース・タイプの詳細は、4-54ページのビジネス・サービス・オブジェクトを参照してください。

Java

Javaクラスに基づくビジネス・インタフェースを使用して、統合で使用するメソッドを起動できます。

Java Beanサービス

Java BeanサービスもJavaインタフェースのサブタイプの1つです。Java Beanサービスに分類されるのは、シリアル化可能なJava Beanまたは単純データ型(StringやIntなど)をメソッドのパラメータとして使用するJava APIです。このようなJava APIはRESTサービスとしてのみ公開できます。

PL/SQL RESTサービスと同様、Java Beanサービスの開発ライフサイクルは単純で、配置と配置解除しかなく、同じセキュリティ・メカニズムで実装されます。このリリースでは、Java BeanサービスはPOSTおよびGETのHTTPメソッドを使用するRESTサービス操作として配置できます。

Java Beanサービスのアノテーションのガイドラインについては、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway 開発者ガイド*のJava Beanサービスのアノテーションを参照してください。

アプリケーション・モジュール・サービス

アプリケーション・モジュール実装クラスはJavaクラスの1つで、OAフレームワークベースのコンポーネントおよびページを管理するビジネス・ロジックへのアクセスを提供します。このようなJavaクラスはアプリケーション・モジュール・サービスと呼ばれ、Javaインタフェースのサブタイプに分類されます。

Java Beanサービスと同様に、アプリケーション・モジュール・サービスはRESTサービスとしてのみ公開できます。

アプリケーション・モジュール・サービスのアノテーションのガイドラインについては、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway 開発者ガイド*のアプリケーション・モジュール・サービスのアノテーションを参照してください。

セキュリティ・サービス

セキュリティ・サービスはJavaに基づくサービスで、Oracle Application Object Libraryによって事前に定義および配置されるRESTサービスのセットです。認証および認可サービスを含むこれらのサービスはモバイル・アプリケーション用に開発されています。

セキュリティ・サービスは、配置や配置解除といったRESTサービス・ライフサイクルのアクティビティを必要としません。また、これらはすべてのユーザーが使用できます。

統合リポジトリのJavaインタフェース・タイプの詳細は、4-44ページのJava情報を参照してください。

フォーム用Java APIインタフェースはサービス有効化可能なインタフェースではないため、SOAPサービスとして公開することができません。既存のフォーム用Java APIインタフェースの代替については、My Oracle Supportのナレッジ・ドキュメント966982.1を参照してください。

コンポジット・インタフェース

コンポジット・インタフェースには、統合リポジトリで利用できるネイティブでパッケージングされたインタフェースまたサービスが含まれています。

コンポジット・インタフェースはWebサービス構成言語であるBPEL (ビジネス・プロセス実行言語)を通じて、Webサービス起動シーケンスをエンドツーエンドのビジネス・プロセスに編成します。

追加情報: コンポジット・インタフェースはOracle JDeveloperまたはOracle Eclipseで設計および作成できます。コンポジット・サービスには、その作成方法に基づいてBPEL、ESB (エンタープライズ・サービス・バス)、SCA (サービス・コンポーネント・アーキテクチャ)など様々なタイプがあります。このリリースでは、コンポジット-BPELタイプのインタフェースのみがサポートされます。

コンポジット・インタフェースの詳細は、5-1ページのコンポジット・インタフェースの使用を参照してください。

統合の標準

各Webサービス・インタフェースは、OAGISやRosettaNetといった統合標準に準拠しています。完全修飾の標準には名前、バージョン、使用が含まれています。例: OAG 7.2 CONFIRMBOD_004。Oracle Integration Repositoryでは次のような標準が見られます。

- IFX1.2
- OAG6.2

- OAG7.0
- OAG7.1
- OAG7.2
- RosettaNet01.01.00
- RosettaNet01.03.00
- RosettaNet02.02.00
- RosettaNet02.03.00
- UCCnet2.4
- W3C

ネイティブ統合インタフェースの使用

この章では、次のトピックについて説明します。

- 共通情報
- XMLゲートウェイ・マップ情報
- PL/SQL情報
- Java情報
- ビジネス・サービス・オブジェクト
- コンカレント・プログラム情報
- オープン・インタフェース情報
- インタフェース・ビュー情報
- EDIメッセージ情報
- ビジネス・イベント情報

共通情報

各インタフェース詳細ページには、次の2種類の情報が含まれています。

- **インタフェース詳細情報**

インタフェース詳細情報には、一般情報が記載されたヘッダー領域、選択したインタフェースの完全な説明、インタフェースのソース情報、選択したインタフェースに含まれているメソッドまたはプロシージャと関数が表示されます。

インタフェース詳細の詳細は、4-2ページのインタフェース詳細の共通情報を参照してください。

- **Webサービス情報**

選択したインタフェースに応じて、関連付けられているWebサービス情報を表示できます(インタフェース詳細ページで利用できる場合)。

サポートされているインタフェースに、SOAPやRESTベースのサービスなどWebサービス情報がある場合、それらをインタフェース詳細ページで表示できます。選択したインタフェースについて、サービス・ステータスやサービス有効化可能な操作、サービスの説明、サポートされるサービス・メソッドなど、サービス関連の情報を表示できます。

注意: このリリースでは、PL/SQL APIおよびコンカレント・プログラムのみ、SOAPとRESTの両方のサービス公開が可能です。Java Beanサービス、アプリケーション・モジュール・サービス、オープン・インタフェース表およびオープン・インタフェース・ビューはRESTサービスとしての公開しかできません。

重要: SOAPサービスとして公開可能なインタフェースについては、SOAPサービスの設定タスクが完了していない状態で統合リポジトリで閲覧すると、Oracle E-Business Suite Integrated SOA GatewayのSOAPサービスの構成が行われていないことを示すメッセージが表示され、My Oracle Supportのナレッジ・ドキュメント1311068.1で構成情報を確認するよう促されます。

SOAPベースのサービスの詳細は、4-6ページのSOAP Webサービスの共通情報を参照してください。

RESTベースのサービスの詳細は、4-15ページのREST Webサービスの共通情報を参照してください。

各インタフェース詳細ページには「**検索**」と「**印刷可能ページ**」があるため、検索を実行したり、選択したインタフェースの詳細ページを印刷可能な形式で表示したりできます。3-9ページの統合インタフェースの検索を参照してください。

また、「ログ構成」フィールドには、選択したインタフェースに設計時ログが構成されているかどうかを示す値(「使用不可」または「使用可」)が表示されます。デフォルトでは「使用不可」が表示されています。

設計時ログを使用すると、SOAPベースのサービスの生成および配置ライフサイクル中に発生した問題や例外をトラブルシューティングできます。統合管理者ロールを持つユーザーは、「**構成**」をクリックして、選択したインタフェースの設計時ログを有効または無効にできます。「ログおよび監査設定詳細」ページが表示され、ここで新しいログ構成を追加したり、既存の構成を更新したりできます。

ログ記録がサポートされるのはSOAPサービスのみです。

ログ構成の詳細は、Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway *インプリメンテーション・ガイド*のWebサービスのログ記録を参照してください。

インタフェース詳細の共通情報

「インタフェース・リスト」ページまたは「検索インタフェース」ページでインタフェース名のリンクをクリックすると、インタフェース詳細ページが開き、選択したインタフェースの情報が表示されます。

SOAPおよびREST Webサービスの詳細は、4-6ページのSOAP Webサービスの共通情報および4-15ページのREST Webサービスの共通情報を参照してください。

インタフェース詳細ページの共通情報

Integration Repository

Integration Repository >

Business Service Object : Account Merge Service

Browse

Search

Printable Page

Log Configuration

Disabled

Qualified Name

/oracle/apps/ar/hz/service/account/AccountMergeService

Status

Active

Interface

oracle.apps.ar.hz.service.account.AccountMergeService

Scope

Public

Extends

oracle.svc.Service

Interface Source

Oracle

Product

Receivables

Account Merge web service performs two operations.

Full Description

Account Merge web service performs two operations. 1. Create an Account merge request and Submit it. 2. Retrieve Account Merge Details for a merge that has already taken place.

Web Service

Expand All | Collapse All

Display Name	Internal Name	Synchronous
Account Merge Service	/oracle/apps/ar/hz/service/account/AccountMergeService	☒
create Account Merge Request	createAccountMergeRequest	☒
get Account Merge Details	getAccountMergeDetails	☒

☒ TIP To apply any changes in Interaction Pattern, Generate or Regenerate the service.

Web Service Status Generated | [View WSDL](#)

Interaction Pattern Synchronous

* Authentication Type

☐ Username Token

☒ SAML Token (Sender Vouches)

Source Information

Methods

Select All | Select None

Internal Name	Status	Description
createAccountMergeRequest	Active	This operation is to create an Account Merge and Submit it.
getAccountMergeDetails	Active	This operation is used to retrieve Account Merge Details for a merge that has already taken place.

☒ TIP You can assign authorized users to perform XML Gateway inbound messages with a trading partner. Navigate to XML Gateway responsibility > Define Trading Partners > User Setup. Ensure to set profile option "ECX: Enable User Check for Trading Partner" as "Yes" to enable Trading Partner specific security feature. For more details, refer Oracle XML Gateway User's Guide.

次に、ほぼすべてのインタフェース・タイプに共通するフィールドを示します。

フィールド

メモ

内部名

PL/SQLパッケージ名、ドキュメント名またはJavaサービス・インタフェース名のいずれかです。

注意: Javaサービス・インタフェースの場合、これは**修飾名**と呼ばれ、完全なJavaパッケージ名とクラス名が含まれます。

フィールド	メモ
タイプ	ビジネス・インタフェースは基になっている統合テクノロジーに従って、インタフェース・タイプに整理されています。 統合リポジトリでサポートされているインタフェース・タイプの例としては、PL/SQL、XMLゲートウェイ、コンカレント・プログラム、ビジネス・イベント、オープン・インタフェース表、オープン・インタフェース・ビュー、EDI、ビジネス・サービス・オブジェクト(Service Bean)、Java、コンポジット・サービス-BPELがあります。 インタフェース・タイプの詳細は、3-15ページのインタフェース・タイプを参照してください。
製品	インタフェースを提供するOracle E-Business Suiteアプリケーションまたはコンポーネントです。
ビジネス・エンティティ	ビジネス・エンティティとは、ビジネス・アクティビティを実行するオブジェクトまたはビジネス・アクティビティの実行対象となるオブジェクトです。たとえば、販売オーダー、アカウント番号、従業員、購買オーダー、顧客、領収書はすべてビジネス・エンティティです。1つのインタフェースを複数のビジネス・エンティティで使用することができ、1つのビジネス・エンティティへのアクセスに複数のインタフェースを使用することもできます。 「ビジネス・エンティティ」フィールドには、インタフェースでアクセスできるビジネス・エンティティが表示されます。ビジネス・エンティティ名をクリックすると、そのエンティティで使用できるインタフェースのリストが表示されます。
ステータス	有効なステータス・コードは次のとおりです。 - 有効 - 使用不可 - このインタフェースの使用はお勧めしませんが、廃止になるまではサポートされます。 - 廃止 - このインタフェースはサポートされません。 - 予定 - このインタフェースは将来のいずれかの時点で有効になります。
スコープ	スコープは次のいずれかです。 - パブリック - Oracle内部 - アプリケーション限定で非公開 詳細は、3-14ページのOracle Integration Repository検索ページの「スコープ」を参照してください。

フィールド	メモ
インタフェース・ソース	インタフェース・ソースは次のいずれかです。 - Oracle - Oracleによってシードされる統合インタフェースはすべて、このインタフェース・ソース・タイプに分類されます。 - カスタム - インタフェースがカスタムの統合インタフェースまたはサービスであることを表します。
My Oracle Support	インタフェースに関連するMy Oracle Support (以前のOracleMetaLink)ナレッジ・ドキュメントがある場合に表示されます。リンクをクリックし、有効なユーザー名とパスワードでMy Oracle Supportにログオンすると、ナレッジ・ドキュメントが表示されます。
ドキュメント	インタフェースに関連するオンライン・ドキュメントがある場合に表示されます。リンクをクリックしてドキュメントを表示またはダウンロードします。
オンライン・ヘルプ	関連するOracle E-Business Suiteオンライン・ヘルプがある場合に表示されます。リンクをクリックしてインタフェースのオンライン・ヘルプを表示します。

次の表に、「ソース情報」領域に表示される各フィールドの説明を示します。

フィールド	メモ
ソース・ファイル	このインタフェースのソース・コードと、ソース・コードが格納されているファイル・システム内の場所です。
ソース・バージョン	ソース・ファイルのバージョンです。数字の最初の部分はOracle E-Business Suiteのベース・リリース・バージョンを表し、次の部分はファイルのバージョンです。たとえば、120.8はOracle E-Business Suite 12.0であることを表し、8はファイルが8つ目のバージョンであることを表しています。 注意: バージョン番号が変わるのは、Oracle開発で作業が実施された場合のみです。そのため、リリース間でバージョンが数段階上がることもあれば、まったく変わらないこともあります。

フィールド	メモ
ソース製品	ソース製品の製品コードです。ソース製品は、そのファイルが格納されているOracle E-Business Suiteファイル・システム内の製品ディレクトリを表します(製品上位とも呼ばれます)。 ヒント: このフィールドには製品の短縮名が表示されます。対応する完全製品名を確認するには、ナビゲータ・メニューからシステム管理職責を選択し、「Oracle Applications Manager」>「ライセンス・マネージャ」>「レポート」>「ライセンス製品」を選択します。表示された製品リストで、製品の略語(短縮名)またはライセンス・ステータスで結果をフィルタリングできます。

SOAP Webサービスの共通情報

サービス対応インタフェースの場合、そのインタフェースが現在Webサービスとして公開されているかどうかに関係なく、Webサービス領域にSOAPサービス情報が表示されます(RESTサービスとしても公開できるインタフェースの場合は「SOAP Webサービス」タブに表示されます)。

注意: Webサービスの定義では、インタフェースがサービスを形成してインタフェース内のメソッドまたは関数がサービスの操作になるように定義されます。

デフォルトで、インタフェースはSOAPサービスとして公開されていません。そのためサービスのステータスは「未生成」になります。統合管理者は選択した統合インタフェースをSOAP Webサービスに変換できます。選択したインタフェースのサービスが正常に生成されると、サービス・ステータスが「未生成」から「生成済」に変わります。

Integration Repository

Integration Repository >

PLSQL Interface : Invoice Creation
Browse
Search
Printable Page

Log Configuration Disabled

Internal Name
AR_INVOICE_API_PUB
Type
PL/SQL
Product
Receivables
Status
Active
Business Entity
Receivables Invoice
My Oracle Support
See OracleMetaLink note 236938.1

Scope
Public
Interface Source
Oracle

Overview
SOAP Web Service
REST Web Service

SOAP Service Status
Generated | View WSDL

Service Operations
Regenerate
Deploy
Reset

Expand All | Collapse All

Display Name	Internal Name	Synchronous	Asynchronous
Invoice Creation	AR_INVOICE_API_PUB	☐	☒
Create Invoice in a Batch	CREATE_INVOICE	☐	☒
Create Single Invoice	CREATE_SINGLE_INVOICE	☐	☒

TIP To apply any changes in Interaction Pattern, Generate or Regenerate the service.

Web Service Security

Authentication Type
Username Token
SAML Token (Sender Vouches)

Copyright (c) 1998, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.
Privacy Statement

次のフィールドは、「Webサービス」領域または「SOAP Webサービス」タブ内のほぼすべてのインタフェース・タイプに共通するフィールドです。

フィールド	説明
「相互作用パターン」表	この表には、インタフェース名とインタフェースに含まれているメソッド名が表示されます。統合管理者または統合開発者は、サービスを生成する前にインタフェース・レベルまたはメソッド・レベルで適切な相互作用パターンを選択する必要があります。 サービスが生成されると、選択した相互作用パターンがインタフェースまたはインタフェース内の特定のメソッドに表示されます。インタフェース名ノードをクリックして展開すると、インタフェース内のすべてのメソッドの相互作用パターンを確認できます。 この表はサービスが生成された後も更新可能ですが、表に加えた変更はサービスを再生成した後に適用されます。 表内の各フィールドの詳細は、4-12ページの相互作用パターン表を参照してください。

フィールド	説明
Webサービス・ステータス (「SOAP Webサービス」タブ内では「SOAP サービス・ステータス」)	このフィールドは、SOAPサービスの生成および配置ライフサイクル内の様々な状態を表します。 • 未生成: 選択したインタフェースはSOAPサービスが生成されていません。 • 生成済: 選択したインタフェースには利用可能なSOAPサービスがありますが、サービスがまだ配置されていません。そのため、生成されたサービスは起動できません。サービスが正常に生成されると、次のボタンが表示されます。 • 再生成: サービスの配置前にインタフェースの定義が変更された場合または選択されていた相互作用パターン情報が変更された場合、このボタンを使用してサービスを再生成できます。 • 配置: このボタンを使用して、生成済のSOAPサービスを有効の配置状態で配置できます。 • リセット: このボタンを使用して、既存のサービス・アーティファクトを消去して、「Webサービス・ステータス」フィールドを「生成済」から「未生成」に変更できます。 • 配置済: 選択したインタフェースがOracle SOA Suiteに配置されていることを示しています。配置済のサービスの状態は次のいずれかです。 • 「有効」状態で配置済: デフォルトで、配置後のサービスは有効の状態です(「有効」状態で「配置済」)。これは、配置されたサービスは起動可能で、新しいSOAP要求を受け付ける準備ができていることを意味します。サービスが「有効」の状態と正常に配置されると、次のボタンが表示されます。 • リタイア: このボタンを使用して、有効のサービスを無効にできます。「SOAPサービス・ステータス」フィールドがリタイア状態で配置済状態に変わり、この配置済のサービスが新しい要求を受け付けなくなったことを示します。 この操作では、このサービスに対する実行中の要求は完了します。サービスがリタイアされた後(リタイア状態で「配置済」)は、そのサービスは起動できなくなります。 • 配置解除: このボタンを使用して、Oracle SOA SuiteからSOAPサービスを配置解除して、必要に応じてOracle Integration Repositoryに戻すことができます。

フィールド	説明
-------	----

- **リセット:** このボタンを使用して、既存のサービス・アーティファクトを消去して「SOAPサービス・ステータス」フィールドを、「配置済」の「有効」から「未生成」に変更できます。
- **リタイア状態で配置済:** リタイアされたサービス(リタイア状態で「配置済」)は、その後起動することはできません。有効(「有効」状態で「配置済」)になるまで、新しいSOAP要求を受け付けることができません。リタイア状態で「配置済」のサービスには、次のボタンが表示されます。
- **有効化:** このボタンを使用して、リタイア状態のサービスを再び有効の状態に戻せます。
- **配置解除:** このボタンを使用して、リタイア状態のサービスをOracle SOA Suite管理対象サーバーから配置解除してリポジトリに戻すことができます。
- **リセット:** このボタンを使用して、リタイア状態のサービスを、必要に応じて初期の状態である「未生成」に戻せます。

「未生成」や「生成済」、「有効」状態で「配置済」、リタイア状態で「配置済」に加えて、SOAPサービスには中間のステータスがあり、管理者が発行したアクションをサービスが実行して、サービスが別の状態に移移するときに表示されます。次に、Webサービスの中間ステータスに関する情報を示します。

- **生成中:** 選択したインタフェースは、インタフェース定義をSOAPサービスに変換するプロセスの実行中です。このプロセスが正常に完了すると、「Webサービス・ステータス」フィールドに「生成済」が表示されます。
 - **再生成中:** 選択したインタフェースは、サービスを再生成するプロセスの実行中です。このプロセスが完了すると、「Webサービス・ステータス」フィールドに「生成済」が表示されます。
 - **配置しています:** 選択したインタフェースは、サービスを配置するプロセスの実行中です。このプロセスが正常に完了すると、「Webサービス・ステータス」フィールドに「有効」状態で「配置済」が表示されます。
 - **配置を解除しています:** 選択したインタフェースは、サービスを配置解除するプロセスの実行中です。このプロセスが完了すると、「Webサービス・ステータス」フィールドに「生成済」状態が表示されます。
-

フィールド	説明
-------	----

- 再設定しています: 選択したインタフェースは、関連するサービス・アーティファクトを削除するプロセスの実行中です。このプロセスが完了すると、「Webサービス・ステータス」フィールドに「未生成」が表示されます。
- リタイアしています: 選択したインタフェースは、有効なサービスを無効化するプロセスの実行中です。このプロセスが完了すると、「Webサービス・ステータス」フィールドにリタイア状態で「配置済」が表示され、サービスがリタイア状態であり新しいSOAP要求を受け付けないことを示します。
- 有効化しています: 選択したインタフェースは、リタイア状態を有効状態に戻すプロセスの実行中です。このプロセスが完了すると、「Webサービス・ステータス」フィールドに「有効」状態で「配置済」が表示され、配置されたサービスで新しいSOAP要求を受け付ける準備ができたことを示します。

WSDLの表示 このリンクは、選択したインタフェースに使用可能なSOAPサービスが関連付けられている場合に表示されます。このリンクをクリックして、生成済または配置済のサービスのWSDL記述を確認できます。

4-22ページのWebサービスのWSDLソースのレビューを参照してください。

相互作用パターン サービスの生成後に表示される情報です。相互作用パターン表で選択されている相互作用パターンが表示されます。

たとえば、PL/SQLインタフェース内のあるメソッドで「同期」が選択されていて、同じインタフェース内の別のメソッドで「非同期」が選択されている場合、「同期」と「非同期」の両方がこのフィールドに表示されます。

注意: XMLゲートウェイ、コンカレント・プログラム、ビジネス・サービス・オブジェクトのインタフェースの場合、同期パターンのサービス有効化のみがサポートされます。そのため、それらのインタフェースはサービスが利用可能な場合、「相互作用パターン」フィールドに「同期」がデフォルトで表示されます。

フィールド	説明
-------	----

認証タイプ	Webサービスのコンテンツを保護しWebサービスの操作を認証するため、統合管理者は生成したサービスを配置する前に、そのサービスで使用する認証タイプを「認証タイプ」フィールドで選択する必要があります。
-------	---

- ユーザー名トークン: この認証タイプでは、ユーザー名とパスワード情報をセキュリティ・ヘッダーに入力してSOAP要求を認証します。

*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway インプリメンテーション・ガイド*のユーザー名トークン・ベースのセキュリティを参照してください。

- SAMLトークン(Sender Vouches): この認証タイプはSAMLアサーションを通じてユーザー名のみを送信するWebサービスで 사용됩니다。

*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway インプリメンテーション・ガイド*のSAML Sender-Vouchesトークン・ベースのセキュリティを参照してください。

統合管理者ロールを持つユーザーのみが、認証タイプを選択および変更できます。その他のユーザーには、このフィールドが読み取り専用モードで表示されます。

相互作用パターン表

Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayでは、管理者または統合開発者が相互作用パターンで何を選択したかによって、サービスを同期、非同期、または同期と非同期の両方で生成できます。

相互作用パターンの選択

サービスを生成する前に、管理者または統合開発者はインタフェース名ノードを展開してインタフェースに含まれるメソッドを一覧表示し、適切な相互作用パターンをインタフェース・レベルまたはメソッド・レベルで選択する必要があります。

相互作用パターン表はサービスの生成後も更新できますが、変更が適用されるのはサービスが再生成された後です。

注意: このリリースでは、非同期型のSOAPサービス操作がサポートされるのはPL/SQLインタフェースのみです。XMLゲートウェイ、コンカレント・プログラム、ビジネス・サービス・オブジェクトなど、その他のSOAPサービス対応インタフェース・タイプは、同期型SOAPサービスとしての公開のみがサポートされます。

次の表に、相互作用パターン表に表示される各フィールドの説明を示します。

フィールド	説明
表示名	これは、外部で使用するインタフェース名です。
内部名	これは、内部で使用するインタフェース名です。PL/SQLパッケージ名、ドキュメント名またはJavaサービス・インタフェース名のいずれかです。
同期	インタフェースまたは特定のメソッドの「同期」チェック・ボックスが選択されている場合、そのサービスまたは選択されている操作は同期型の相互作用パターンをサポートする形式で生成されます。 つまり、Webサービス・クライアントがこのサービスにSOAP要求を送信すると、サービスが実行されて応答が即時にWebサービス・クライアントに返されます。
非同期	インタフェースまたは特定のメソッドの「非同期」チェック・ボックスが選択されている場合、そのサービスまたは選択されている操作は非同期型の相互作用パターンをサポートする形式で生成されます。このタイプのサービス実行は要求の処理に長い時間がかかることがあります。しかし、Oracle E-Business Suite Webサービスを起動したクライアントは応答を待機するのではなく、その他の処理を継続できます。 このリリースでは、非同期型のSOAPサービス操作がサポートされるのはPL/SQLインタフェースのみです。
付与	特定のユーザーやユーザー・グループまたはすべてのユーザーにアクセス権限が付与されている操作の場合、「付与」アイコンが表示されます。「付与」アイコンが表示されて付与の詳細を確認できるのは、統合管理者または統合開発者のロールを持つユーザーのみです。 「付与」アイコンは「SOAP Webサービス」タブにのみ表示されます。

SOAP Webサービスに対する管理アクティビティの実行

統合管理者ロールを持つユーザーは管理タスクを実行できます。これにはSOAPサービスの生成や配置、配置解除、リセット、リタイア、有効化などのタスクが含まれ、インタフェース詳細ページで次のボタンをクリックすることで、これらのタスクを実行できます。

- **生成:** これを使用して、統合管理者または統合開発者はSOAPサービスを生成できます。

注意: 統合管理者にはサービスを生成する権限がありますが、その他の管理タスク、たとえばSOAPサービスの配置や配置解除、ライフサイクル全体を通じた管理などの実行権限はありません。

これらのロールおよび関連付けられているSOAPサービスの管理および表示の権限の詳細は、3-5ページのOracle Integration Repositoryへのアクセスを参照してください。

サービス生成の詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway* インプリメンテーション・ガイドのSOAP Webサービスの生成を参照してください。

- **配置:** SOAPサービスが正常に生成されている場合、管理者は「Webサービス」領域(または、SOAPとRESTの両方のサービス公開が可能なインタフェースの場合は「SOAP Webサービス」タブ)で「配置」をクリックして、生成済のサービスをOracle SOA Suiteに「有効」の状態に配置できます。

サービスの配置の詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway* インプリメンテーション・ガイドのSOAP Webサービスの配置および配置解除を参照してください。

- **リタイア:** 配置済の有効のサービスを無効にして、そのサービスで新しい要求を受け付けないようにします。有効のサービスをリタイア状態にした後、管理者は必要に応じて、そのサービスを有効化、配置解除またはリセットできます。

サービスのリタイアの詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway* インプリメンテーション・ガイドのSOAP Webサービスのリタイアを参照してください。

- **有効化:** Oracle SOA Suiteでリタイア状態のサービスを、有効化できます。サービスの起動が再び可能となり、新しいSOAP要求を受け付けられるようになります。

サービスの有効化の詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway* インプリメンテーション・ガイドのSOAP Webサービスの有効化を参照してください。

- **リセット:** サービスが正常に生成または配置された後に、管理者は「リセット」をクリックして、既存のサービス・アーティファクトをいつでも消去できます。

サービスのリセットの詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway* インプリメンテーション・ガイドのSOAP Webサービスのリセットを参照してください。

- **付与の作成:** インタフェース・メソッドへのアクセス権限をユーザー、ユーザー・グループまたはすべてのユーザーに許可することで、セキュリティ付与を作成できます。

SOAPとRESTの両方のサービス公開が可能なインタフェースの場合、付与機能はSOAPとRESTの両方のサービス操作に適用されます。セキュリティ付与の詳細は、4-30ページの付与の管理を参照してください。

- **Configure:** 「ログおよび監査設定詳細」ページが表示され、ここで選択したインタフェースに対して新しい設計時ログを構成したり、既存の構成を更新したりできます。

ログ構成の詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway* インプリメンテーション・ガイドのログ構成ユーザー・インタフェースへのアクセスを参照してください。

- **ログの表示:** 「ログおよびエラー詳細」ページが表示され、ここでログ詳細を確認できます。

設計時に記録されたログの表示の詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway* インプリメンテーション・ガイドの生成および配置時ログの表示を参照してください。

Oracle E-Business Suite SOAPサービスの起動時にサービス・モニターに書き込まれたログを表示する方法は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway* インプリメンテーション・ガイドのサービス処理ログの表示を参照してください。

追加情報:「統合リポジトリ」タブで行うサービス管理アクティビティに加え、統合管理者は統合リポジトリのユーザー・インタフェースにはないその他のタスクを「管理」タブで実行できます。これには次のタスクが含まれます。

- 「サービス・モニター」サブタブでのSOAPメッセージの監視と監査

サービス・モニターを使用して、Oracle SOA SuiteがOracle E-Business SuiteのWebサービス用に送受信するすべてのSOAPメッセージを監視および監査できます。

サービス・モニターの使用方法の詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway* インプリメンテーション・ガイドのサービス・モニターを使用したSOAPメッセージの監視および管理を参照してください。

- 「構成」サブタブでのログおよび監査設定の管理

ログの設定とサービスの監査機能を統合インタフェース・レベルで構成できます。管理者は簡単にサービスのアクティビティを監視したり、ログ・メッセージを追跡して表示したりできるほか、SOAPサービスの開発ライフサイクルの各ステージで発生した問題をトラブルシューティングできます。

ログ構成の詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway* インプリメンテーション・ガイドのWebサービスのログ記録を参照してください。

REST Webサービスの共通情報

RESTサービスとして公開可能なインタフェースを選択した場合、インタフェース詳細ページに「REST Webサービス」タブが表示されます。これに該当するのは、PL/SQL、コンカレント・プログラム、オープン・インタフェース表、オープン・インタフェース・ビュー、Java Beanサービス、アプリケーション・モジュール・サービスといったインタフェース・タイプです。

Java Bean サービスの「REST Web サービス」タブ

Integration Repository

Integration Repository >

Java Details : Metadata Provider
Browse Search Printable Page

Log Configuration Disabled

Internal Name oracle.apps.fnd.rep.ws.service.EbsMetadataProvider

Type Java

Product Application Object Library

Status Active

Scope Public

Interface Source Oracle

Interface Subtype Java Bean Services

Overview
REST Web Service

* Service Alias

REST Service Status Not Deployed

Service Operations

Expand All Collapse All

Display Name	Internal Name	GET	POST
Metadata Provider	oracle.apps.fnd.rep.ws.service.EbsMetadataProvider	☒	☐
GETINTERFACES	getInterfaces	☒	☐
GETMETHODS	getMethods	☒	☐
GETPRODUCTFAMILIES	getProductFamilies	☒	☐

REST Service Security

REST Web Service is secured by HTTP Basic Authentication at HTTP Transport level. Send either of the following in "Authorization header as per HTTP Basic scheme:
- Username:Password
- Security Token.
Tip: Use [Login Service](#) to obtain Security Token for given user credentials.

統合管理者は「**配置**」をクリックし、API内で選択した操作をRESTサービス操作として配置できます。RESTサービスが正常に配置されると、「RESTサービス・ステータス」フィールドが「未配置」から「配置済」に変わります。

次のフィールドは、「REST Web サービス」タブに共通するフィールドです。

フィールド	説明
-------	----

サービス別名	各RESTサービスは一意の別名に関連付けられている必要があります。RESTサービスを配置する前に、管理者はこのフィールドに入力する必要があります。この名前はサービス・エンドポイント、WADL、XSDおよびネームスペースで使用されます。
--------	---

サービス別名を指定する際は、次のガイドラインに従ってください。

- "person"、"employee"など、サービスを表現する簡単で意味のある名前を使用します。
 - 別名に"rest"、"soap"、"webservices"などの単語を使用しないようにします。
 - 先頭文字として、数字と特殊文字(#、\$、%、_、-など)を使用しないようにします。
 - 末尾に特殊文字を使用しないようにします。
 - .、_、-などの文字はサービス別名で使用できます。
-

フィールド	説明
REST サービス・ ステータス	このフィールドは、RESTサービスのライフサイクル内の様々な状態を表します。 未配置: 選択したインタフェースは配置されていません。 「配置」をクリックして、RESTサービスを配置できます。RESTのWebサービス・ステータスが「未配置」から「配置済」に変わります。 配置済: 選択したインタフェースはOracle E-Business Suite管理対象サーバーに配置されています。 RESTサービスが正常に配置された後に、管理者は「配置解除」をクリックしてサービスを配置解除できます。この操作により、RESTサービスがOracle E-Business Suite管理対象サーバーから配置解除され、Oracle Integration Repositoryに戻り、これと同時に既存のサービス・アーティファクトが消去されます。「RESTサービス・ステータス」フィールドは「配置済」から「未配置」に変わります。 「未配置」および「配置済」のサービス・ステータスに加えて、サービスには中間のステータスがあり、管理者が発行したアクションをサービスが実行して、サービスが別の状態に移移するときに表示されます。次に、サービスの中間ステータスに関する情報を示します。 配置しています: 選択したインタフェースは、サービスを配置するプロセスの実行中です。このプロセスが完了すると、「RESTサービス・ステータス」フィールドに「配置済」が表示されます。 配置を解除しています: 選択したインタフェースは、関連するサービス・アーティファクトを配置解除して削除するプロセスの実行中です。このプロセスが完了すると、「RESTサービス・ステータス」フィールドに「未配置」が表示されます。
WADLの 表示	このリンクは、選択したインタフェースに配置済のRESTサービスが関連付けられている場合に表示されます。このリンクをクリックして、配置済のRESTサービスのWADL記述を確認できます。 このフィールドは、RESTサービスが「配置済」ステータスで正常に配置されている場合にのみ表示されます。 4-26ページのWebサービスのWADLソースのレビューを参照してください。

フィールド	説明
動詞	「動詞」の値は、RESTサービスがHTTPメソッドを使用してどのように実装されるかを示します。 PL/SQL APIおよびコンカレント・プログラムについては、選択したインタフェースがRESTサービスとして配置されている場合(「配置済」ステータス)、このフィールドに"POST"のHTTPメソッドが表示されます。 注意: PL/SQL APIおよびコンカレント・プログラムでサポートされるHTTPメソッドはPOSTのみです。 Java Beanサービス、アプリケーション・モジュール・サービス、オープン・インタフェース表、オープン・インタフェース・ビューについては、サポートされている動詞が「サービス操作」表に表示されます。
RESTサービス・セキュリティ	RESTサービスのコンテンツを保護するため、すべてのRESTサービスは次のいずれかのセキュリティ手段で保護されています。 HTTP Basic認証: この認証タイプでは、HTTPクライアント・アプリケーションがREST要求を発行する際にユーザー名とパスワードを提供します。要求には通常HTTPSが使用されます。 <i>Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway</i> インプリメンテーション・ガイドのHTTP Basic認証を参照してください。 トークン・ベース認証: セキュリティ・ログイン・サービスを使用して取得したセキュリティ・トークンを使用して、ユーザーを認証します。ユーザーがサーバーへのログオンを試みる際、トークン(Oracle E-Business SuiteセッションIDなど)がcookieとしてHTTPヘッダーで送信されます。この認証方法は複数の連続するREST起動で使用できます。<i>Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway</i> インプリメンテーション・ガイドのトークン・ベースの認証を参照してください。
「サービス操作」表	この表には、選択したインタフェースに含まれている、RESTサービス操作として公開可能なプロシージャまたは関数のリストが表示されます。 表内の各フィールドの詳細は、4-19ページの「サービス操作」表を参照してください。

「サービス操作」表

この「サービス操作」表には、選択したインタフェースに含まれている各メソッド(またはプロシージャまたは関数)と、サービス操作として公開が可能なかどうかの情報が表示されます。統合管理者ロールを持つユーザーは管理タスクを実行できるため、目的の操作が含まれているサービスを配置または配置解除したり、セキュリティ付与を作成または取消したりできます。

次の表に、「サービス操作」表に表示される各フィールドの説明を示します。

フィールド	説明
表示名	これは、外部で使用するインタフェース名です。
内部名	これは、内部で使用するインタフェース名です。
含まれる操作 (PL/SQL API およびコンカ レント・プログ ラムのみ)	この列は、選択したPL/SQL APIまたはコンカレント・プログラムがRESTサービスとして公開される場合に表示されます。この列にチェックマークのアイコンがある場合、そのメソッドまたは操作はRESTサービス操作として公開されます。 注意: コンカレント・プログラムにはメソッドが1つしか含まれていません。コンカレント・プログラムに含まれているメソッドは、RESTサービスとして配置されたときに自動的にデフォルトでチェックマークのアイコンが付き、POST HTTPメソッドでの配置になります。
GET (Java Bean サービス、ア プリケーショ ン・モジュー ル・サービス、 オープン・イン タフェース 表、オープ ン・インタ フェース・ ビューのみ)	このGETメソッド列は、選択したインタフェースのタイプがオープン・インタフェース表、オープン・インタフェース・ビュー、Java Beanサービスまたはアプリケーション・モジュール・サービスの場合に表示されます。 Java Beanサービスおよびアプリケーション・モジュール・サービスについては、Javaまたはアプリケーション・モジュールのメソッドにGET HTTPメソッドのアノテーションがある場合、このGETチェック・ボックスが事前に選択されます。GETメソッドで発行しないJavaまたはアプリケーション・モジュールのメソッドの場合、管理者は事前選択されたGETのチェック・ボックスの選択を解除できます。ただし、POSTメソッドと異なり、GETメソッドのアノテーションがない場合、このGETチェック・ボックスは非アクティブまたは無効になり選択できなくなります。 インバウンド方向のオープン・インタフェース表の場合、4つのHTTPメソッド(GET、POST、PUTおよびDELETE)がすべて表示されます。アウトバウンド方向のオープン・インタフェース表およびオープン・インタフェース・ビューの場合、GETメソッドのみが表に表示されます。

フィールド	説明
POST (Java Bean サービス、 アプリケー ション・モ ジュール・ サービス、 オープン・イ ンタフェース 表(インバウド 方向のみ))	このPOSTメソッド列は、選択したインタフェースのタイプがJava Beanサービス、アプリケーション・モジュール・サービスまたはオープン・インタフェース表(インバウド方向)の場合に表示されます。 Java Beanサービスおよびアプリケーション・モジュール・サービスについては、GETメソッドと同様、Javaまたはアプリケーション・モジュールのメソッドにPOSTメソッドのアノテーションがある場合に、このPOSTチェック・ボックスが事前に選択されます。POSTメソッドで発行しないJavaまたはアプリケーション・モジュールのメソッドの場合、管理者は事前選択されたチェック・ボックスの選択を解除したうえでサービスを配置できます。GETメソッドと異なり、POSTメソッドのアノテーションがなくても、このPOSTチェック・ボックスはデフォルトでアクティブまたは有効の状態です。メソッドが必要であれば、管理者はPOSTのチェック・ボックスを選択したままにしておくことができます。 インバウンド方向のオープン・インタフェース表については、RESTサービス操作として配置するインタフェース表のPOSTチェック・ボックスを必要に応じて選択します。
PUT (オープ ン・インタ フェース表(イ ンバウド方向 のみ))	このHTTPメソッド列は、選択したインタフェースがオープン・インタフェース表(インバウド方向)の場合にのみ表示されます。
DELETE (オープン・イ ンタフェース 表(インバウド 方向のみ))	このHTTPメソッド列は、選択したインタフェースがオープン・インタフェース表(インバウド方向)の場合にのみ表示されます。
付与	特定のユーザーやユーザー・グループまたはすべてのユーザーにアクセス権限が付与されている操作の場合、「付与」アイコンが表示されます。「付与」アイコンが表示されて付与の詳細を確認できるのは、統合管理者または統合開発者のロールを持つユーザーのみです。

REST Webサービスに対する管理アクティビティの実行

RESTサービスのサービス開発ライフサイクルは単純です。統合管理者ロールを持つユーザーは、インタフェース詳細ページで次の管理タスクを実行できます。

注意: これらのユーザー・ロールおよび関連付けられているRESTサービスの管理および表示の権限の詳細は、3-5ページのOracle Integration Repositoryへのアクセスを参照してください。

- **配置**(「REST Webサービス」タブ): これを使用して統合管理者は、RESTサービスを配置できます。

サービスを配置する前に、統合管理者は「サービス別名」フィールドに一意の名前を入力し、目的のサービス操作を選択する必要があります。選択したインタフェースのタイプがJava Beanサービスまたはアプリケーション・モジュール・サービスである場合、RESTサービス操作として公開するJavaまたはアプリケーション・モジュールのメソッドについて、使用するHTTPメソッドのチェック・ボックスを選択します。

RESTサービスが正常に配置されると、サービス・ステータスが「配置済」に変わります。これは、配置されたサービスは起動可能で、新しいサービス要求を受け付ける準備ができていることを意味します。

RESTサービスの配置の詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway インプリメンテーション・ガイド*のREST Webサービスの配置を参照してください。

- **配置解除** (「REST Webサービス」タブ): このアクションを使用すると、Oracle E-Business Suite管理対象サーバーからサービスが配置解除され統合リポジトリに戻されるだけでなく、ステータスが初期の状態「未配置」にリセットされます。

RESTサービスの配置解除の詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway インプリメンテーション・ガイド*のREST Webサービスの配置解除を参照してください。

- **付与の作成**(「付与」タブ): 管理者は目的のサービス操作を選択して、「付与の作成」をクリックします。「付与の作成」ページが表示され、ここでユーザー、ユーザー・グループまたはすべてのユーザー用の付与を作成できます。

管理者は目的のサービス操作を選択して、「付与の取消」をクリックします。「付与の取消」ページが開き、管理者はこのページでユーザーやユーザー・グループ、すべてのユーザーの既存の付与を削除できます。

付与機能はSOAPサービスとRESTサービスの両方に適用されます。セキュリティ付与の詳細は、4-30ページの付与の管理を参照してください。

WebサービスのWSDLソースのレビュー

WSDLで表現されているWebサービスが正常に生成されると、SOAPサービス・ステータスが「未生成」から「生成済」に変わります。WSDLリンクが「Webサービス」領域(または、SOAPとRESTの両方のサービス公開が可能なインタフェースの場合は「SOAP Webサービス」タブ)に表示され、ここからWSDL記述を表示できます。

生成済WSDL記述と配置済WSDL記述

生成済でまだ配置されていないサービスの場合、WSDL記述は伝送されたメッセージの抽象定義です。サービスが正常に配置されると、WSDL記述に具体的なサービス・バインディングと転送詳細が格納されます。

たとえば、生成されて配置されたWSDL記述内の次の要素には、様々なURL情報が格納されます。

- メッセージ・スキーマの場所(schemaLocation)
 - 生成済のサービスでは、生成されたWSDL記述内に一時的なスキーマの場所が表示されます(例: schemaLocation="http://<hostname>:<port>/ISG-ISG-context-root/iscapp/plsql/pa_cost_plus/APPS_PA_COST_PLUS_GET_BURDEN_AMOUNT.xsd")。
 - 配置済のサービスでは、配置されたWSDL記述内にサービス・エンドポイントの物理的な場所が表示されます。これはサービスがホストされているsoa-infra内の場所です(例: schemaLocation="http://<soa_suite_hostname>:<port>/soa-infra/services/default/<jndi_name>_PLSQL_PA_COST_PLUS/PA_COST_PLUS_Service?XSD=xsd/APPS_PA_COST_PLUS_GET_BURDEN_AMOUNT.xsd")。
- サービス・アドレスの場所(soap:address location)
 - 生成済のWSDLでは、soap:address location要素に「Not_Deployed」が表示されます。(例: <soap:address location="#NOT_DEPLOYED#"/>)。
 - 配置済のサービスでは、配置されたWSDL記述内にサービス・エンドポイントの物理的な場所が表示されます。これはサービスがホストされているsoa-infra内の場所です(例: <soap:address location="http://<soa_suite_hostname>:<port>/soa-infra/services/default/<jndi_name>_PLSQL_PA_COST_PLUS/PA_COST_PLUS_Service"/>)。

WSDL要素の詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway 開発者ガイド*のWSDL要素詳細のレビューを参照してください。

生成済のWSDLファイルの表示方法

1. 統合アナリスト・ロールを持つユーザーとして、Oracle E-Business Suiteにログインします。統合リポジトリ職責を選択し、ナビゲーション・メニューから「統合リポジトリ」リンクを選択します。
「統合リポジトリ」ホーム・ページが表示されます。
2. 目的のインタフェース定義を検索で見つけるか、リポジトリ内のインタフェース・ツリー構造を閲覧して見つけます。
3. インタフェース名をクリックして、インタフェース詳細を開きます。
4. 「Webサービス」領域(または、SOAPとRESTの両方のサービス公開が可能なインタフェースの場合は「SOAP Webサービス」タブ)で、「WSDLの表示」リンクをクリックしてWSDLソース・コードを表示します。

次のサンプルは、同期型の相互作用パターンを持つPL/SQLインタフェースPA_COST_PLUSの生成済のWSDL記述です。

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no" ?>
<definitions xmlns:tns="http://xmlns.oracle.
com/apps/pa/soapprovider/plsql/pa_cost_plus/"
xmlns="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/"
xmlns:soap="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/soap/"
xmlns:tns1="http://xmlns.oracle.
com/apps/pa/soapprovider/plsql/pa_cost_plus/get_burden_amount/"
name="PA_COST_PLUS"
targetNamespace="http://xmlns.oracle.
com/apps/pa/soapprovider/plsql/pa_cost_plus/">
<types>
<schema xmlns="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
elementFormDefault="qualified"
targetNamespace="http://xmlns.oracle.
com/apps/pa/soapprovider/plsql/pa_cost_plus/get_burden_amount/">
<include schemaLocation="http://<hostname>:<port>/ISG-ISG-context-
root/isgapp/plsql/pa_cost_plus/APPS_PA_COST_PLUS_GET_BURDEN_AMOUNT.
xsd"/>
</schema>
<schema xmlns="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
elementFormDefault="qualified"
targetNamespace="http://xmlns.oracle.
com/apps/pa/soapprovider/plsql/pa_cost_plus/">
<element name="SOAHeader">
<complexType>
<sequence>
<element name="Responsibility" minOccurs="0" type="string" />

<element name="RespApplication" minOccurs="0" type="string"
/>
<element name="SecurityGroup" minOccurs="0" type="string" />
<element name="NLSLanguage" minOccurs="0" type="string" />
<element name="Org_Id" minOccurs="0" type="string" />
</sequence>
</complexType>
</element>
</schema>
</type>
<message name="GET_BURDEN_AMOUNT_Input_Msg">
<part name="header" element="tns:SOAHeader" />
<part name="body" element="tns1:InputParameters" />
</message>
<message name="GET_BURDEN_AMOUNT_Output_Msg">
<part name="body" element="tns1:OutputParameters" />
</message>
<portType name="PA_COST_PLUS_PortType">
<operation name="GET_BURDEN_AMOUNT">
<input message="tns:GET_BURDEN_AMOUNT_Input_Msg" />
<output message="tns:GET_BURDEN_AMOUNT_Output_Msg" />
</operation>
</portType>
<binding name="PA_COST_PLUS_Binding" type="tns:
PA_COST_PLUS_PortType">
<soap:binding style="document" transport="http://schemas.xmlsoap.
org/soap/http" />
<operation name="GET_BURDEN_AMOUNT">
<soap:operation soapAction="GET_BURDEN_AMOUNT" />
<input>
<soap:header message="tns:GET_BURDEN_AMOUNT_Input_Msg" part="header"
use="literal" />
<soap:body parts="body" use="literal" />
</input>
<output>
<soap:body use="literal" />
</output>

```

```

</operation>
</binding>
<service name="PA_COST_PLUS_Service">
<port name="PA_COST_PLUS_Port" binding="tns:PA_COST_PLUS_Binding">
<soap:address location="#NOT_DEPLOYED#" />
</port>
</service>
</definitions>

```

注意: "SOAHeader"の下にあるResponsibility、Responsibility Application、Security Group、NLS LanguageおよびOrganization IDからなる複合型で渡される値は、サービス実行時にアプリケーション・コンテキストの設定で使用されます。

NLS LanguageとOrganization IDの値の引き渡しは任意です。ただし、サービスの実行が特定の組織に依存する場合、そのSOAP要求の"SOAHeader"でORG_ID要素を渡す必要があります。

詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway* インプリメンテーション・ガイドのその他の入力メッセージ・パートの設定を参照してください。

ユーザー名とパスワード情報はWebサービス・セキュリティ・ポリシーで定義されます(例: oracle/wss_username_token_service_policy)。SOAP要求でセキュリティ・ヘッダーを渡す方法の詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway* 開発者ガイドのWebサービス・ポリシーの構成を参照してください。

WSDL要素の詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway* 開発者ガイドのWSDL要素詳細のレビューを参照してください。

配置済のWSDLファイルの表示方法

サービスがOracle SOA Suite WebLogic管理対象サーバーに正常に配置されると、SOAPサービスのステータスが「未生成」から「有効」状態の「配置済」になり、選択した認証タイプが設定されます。「**WSDLの表示**」リンクをクリックすると、配置済のWSDLファイルが表示されます。

次のサンプルは、同期型の相互作用パターンを持つ前述のPL/SQLインタフェースPA_COST_PLUSの配置済のWSDL記述です。

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
...
<wsp:Policy xmlns:wsp="http://schemas.xmlsoap.org/ws/2004/09/policy"
...
</wsp:Policy>
<types>
<schema xmlns="http://www.w3.org/2001/XMLSchema" elementFormDefault="
qualified"
  targetNamespace="http://xmlns.oracle.
com/apps/pa/soapprovider/plsql/pa_cost_plus/get_burden_amount/">
<include schemaLocation=http://<soa_suite_hostname>:<port>/soa-
infra/services/default/<jndi_name>_PLSQL_PA_COST_PLUS/PA_COST_PLUS_Servi
ce?XSD=xsd/APPS_PA_COST_PLUS_GET_BURDEN_AMOUNT.xsd" />
</schema>
<schema xmlns="http://www.w3.org/2001/XMLSchema" elementFormDefault="
qualified"
...
</schema>
</type>
...
<service name="PA_COST_PLUS_Service">
<port name="PA_COST_PLUS_Port" binding="tns:PA_COST_PLUS_Binding">
<soap:address location="http://<soa_suite_hostname>:<port>/soa-
infra/services/default/<jndi_name>_PLSQL_PA_COST_PLUS/PA_COST_PLUS_Servi
ce" />
</port>
</service>
</definitions>

```

WebサービスのWADLソースのレビュー

WADLで表現されているREST Webサービスが正常に配置されると、「RESTサービス・ステータス」フィールドが「未配置」から「配置済」に変わります。WADLリンクが「REST Webサービス」タブに表示され、ここからWADL記述を表示できます。

たとえば、次に示すのはPL/SQL API請求書作成(AR_INVOICE_API_PUB)のWADL記述で、'CREATE_INVOICE'と'CREATE_SINGLE_INVOICE'のRESTサービス操作が含まれています。

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no" ?>
<application xmlns:tns="http://xmlns.oracle.
com/apps/ar/soapprovider/plsql/rest/ar_invoice_api_pub/" xmlns="http:
//wadl.dev.java.net/2009/02"
xmlns:tns1="http://xmlns.oracle.com/apps/ar/rest/ar/create_invoice/"
name="AR_INVOICE_API_PUB"
targetNamespace="http://xmlns.oracle.
com/apps/ar/soapprovider/plsql/rest/ar_invoice_api_pub/">
  <grammars>
    <include xmlns="http://www.w3.org/2001/XMLSchema" href="https:
//<hostname>:<port>/webservices/rest/Invoice/?
XSD=CREATE_INVOICE_SYNCH_TPEDEF.xsd" />
    <include xmlns="http://www.w3.org/2001/XMLSchema" href="https:
//<hostname>:<port>/webservices/rest/Invoice/?
XSD=CREATE_SINGLE_INVOICE_SYNCH_TPEDEF.xsd" />
  </grammars>
  <resources base="http://<hostname>:<port>/webservices/rest/Invoice/">
    ...
  </resources>
</application>

```

注意: サービスを配置する前に入力したサービス別名の値Invoice が、サービス操作('CREATE_INVOICE'と'CREATE_SINGLE_INVOICE')のスキーマの一部として表示されています。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no" ?>
<application xmlns:tns=...
...
  <resources base="http://<hostname>:<port>/webservices/rest/Invoice/">
    <resource path="/create_invoice/">
      <method id="CREATE_INVOICE" name="POST">
        <request>
          <representation mediaType="application/xml" type="tns1:
InputParameters" />
          <representation mediaType="application/json" type="tns1:
InputParameters" />
        </request>
        <response>
          <representation mediaType="application/xml" type="tns1:
OutputParameters" />
          <representation mediaType="application/json" type="tns1:
OutputParameters" />
        </response>
      </method>
    </resource>
    <resource path="/create_single_invoice/">
      <method id="CREATE_SINGLE_INVOICE" name="POST">
        <request>
          <representation mediaType="application/xml" type="tns2:
InputParameters" />
          <representation mediaType="application/json" type="tns2:
InputParameters" />
        </request>
        <response>
          <representation mediaType="application/xml" type="tns2:
OutputParameters" />
          <representation mediaType="application/json" type="tns2:
OutputParameters" />
        </response>
      </method>
    </resource>
  </resources>
</application>
```

注意: 2つのサービス操作'CREATE_INVOICE'と'CREATE_SINGLE_INVOICE'のメソッド名としてPOSTが表示されています。このリリースでは、これがPL/SQL RESTサービスでサポートされる唯一のHTTPメソッドです。

両方のサービス操作で、入力と出力のメッセージをXMLとJSONの両形式で交換できます。

配置されているRESTサービスのインタフェース・タイプがJava Beanサービスまたはアプリケーション・モジュール・サービスである場合、GETとPOSTの両方が、RESTサービス操作でサポートされるメソッドとして表示されます。たとえば次のWADL記述には、従業員情報サービスに含まれている様々なメソッドが表示されています。getPersonInfo操作は、POSTとGETの両方のHTTPメソッドで実装されています。

```

<xml version="1.0" encoding="UTF-8">
<application name="EmployeeInfo" targetNamespace="http://xmlns.oracle.
com/apps/per/soapprovider/pojo/employeeinfo/"
  xmlns:tns="http://xmlns.oracle.
com/apps/per/soapprovider/pojo/employeeinfo/"
  xmlns="http://w3.org/2001/XMLSchema" xmlns:xsd="http://www.w3.
org/2001/XMLSchema"
  xmlns:tns1="http://xmlns.oracle.
com/apps/fnd/rest/empinfo/getallreports/"
  xmlns:tns2="http://xmlns.oracle.
com/apps/fnd/rest/empinfo/getdirectreports/"
  xmlns:tns3="http://xmlns.oracle.
com/apps/fnd/rest/empinfo/getpersoninfo/">

<grammars>
  <include href="http://<hostname>:<port>/webservicess/rest/empinfo/?
XSD=getallreports.xsd" xmlns="http://www.w3.org/2001/XMLSchema" />
  <include href="http://<hostname>:<port>/webservicess/rest/empinfo/?
XSD=getdirectreports.xsd" xmlns="http://www.w3.org/2001/XMLSchema" />
  <include href="http://<hostname>:<port>/webservicess/rest/empinfo/?
XSD=getpersoninfo.xsd" xmlns="http://www.w3.org/2001/XMLSchema" />
</grammars><resources base="http://<hostname>:
<port>/webservicess/rest/empinfo/">
  <resource path="/getAllReports/">
    <method id="getAllReports" name="GET">
      <request>
        <param name="ctx_responsibility" type="xsd:string" style="query"
required="false" />
        <param name="ctx_respapplication" type="xsd:string" style="
query" required="false" />
        <param name="ctx_securitygroup" type="xsd:string" style="query"
required="false" />
        <param name="ctx_nlslanguage" type="xsd:string" style="query"
required="false" />
        <param name="ctx_orgid" type="xsd:int" style="query" required="
false" />
      </request>
      <response>
        <representation mediaType="application/xml" type="tns1:
getAllReports_Output" />
        <representation mediaType="application/json" type="tns1:
getAllReports_Output" />
      </response>
    </method>
  </resource>
  <resource path="/getDirectReports/">
    <method id="getDirectReports" name="GET">
      <request>
        <param name="ctx_responsibility" type="xsd:string" style="query"
required="false" />
        <param name="ctx_respapplication" type="xsd:string"
style="query" required="false" />
        <param name="ctx_securitygroup" type="xsd:string" style="query"
required="false" />
        <param name="ctx_nlslanguage" type="xsd:string" style="query"
required="false" />
        <param name="ctx_orgid" type="xsd:int" style="query" required="
false" />
      </request>
      <response>
        <representation mediaType="application/xml" type="tns2:
getDirectReports_Output" />
        <representation mediaType="application/json" type="tns2:
getDirectReports_Output" />
      </response>
    </method>
  </resource>
</resources>

```

```

</resource>
<resource path="/"><getPersonInfo/ {personId}/>
  <param name="personId" style="template" required="true" type="xsd:int"
/>
  <method id="getPersonInfo" name="GET">
    <request>
      <param name="ctx_responsibility" type="xsd:string" style="query"
required="false" />
      <param name="ctx_respapplication" type="xsd:string" style="
query" required="false" />
      <param name="ctx_securitygroup" type="xsd:string" style="query"
required="false" />
      <param name="ctx_nlslanguage" type="xsd:string" style="query"
required="false" />
      <param name="ctx_orgid" type="xsd:int" style="query" required="
false" />
    </request>
    <response>
      <representation mediaType="application/xml" type="tns3:
getPersonInfo_Output" />
      <representation mediaType="application/json" type="tns3:
getPersonInfo_Output" />
    </response>
  </method>
</resource>
<resource path="/"><getPersonInfo/>
  <method id="getPersonInfo" name="POST">
    <request>
      <representation mediaType="application/xml" type="tns3:
getPersonInfo_Input" />
      <representation mediaType="application/xml" type="tns3:
getPersonInfo_Output" />
    </request>
    <response>
      <representation mediaType="application/xml" type="tns3:
getPersonInfo_Input" />
      <representation mediaType="application/xml" type="tns3:
getPersonInfo_Output" />
    </response>
  </method>
</resource>
</resource path>
</application>

```

- {personId}はパス変数で、<resource>タグと<method>タグの間で、<param>タグを使用して定義します。クライアント・プログラム側では、実行時にパス変数を実際の値に置き換える必要があります。たとえば、getPersonInfoサービス操作が起動されるときには、従業員のIDがHTTP GET要求で渡されます。これにより、関連付けられている従業員の名前とそのマネージャの名前が返されます。

パス変数の定義方法の詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway 開発者ガイド*のJava Beanサービスのアノテーションまたは*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway 開発者ガイド*のアプリケーション・モジュール・サービスのアノテーションを参照してください。

- GETメソッドの場合、アプリケーション・コンテキスト値(Responsibility、Responsibility Application、Security Group、NLS LanguageおよびOrganization IDの複合型)がRESTHeader要素の問合せ文字列として渡されます。

WADL記述の詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway開発者ガイド*のWADL要素詳細のレビューを参照してください。

配置済のWADLファイルの表示方法

1. 統合アナリスト・ロールを持つユーザーとして、Oracle E-Business Suiteにログインします。統合リポジトリ職責を選択し、ナビゲーション・メニューから「統合リポジトリ」リンクを選択します。
「統合リポジトリ」ホーム・ページが表示されます。
2. 目的のインタフェース定義を検索で見つけるか、リポジトリ内のインタフェース・ツリー構造を閲覧して見つけます。
3. インタフェース名をクリックして、インタフェース詳細を開きます。
4. 「REST Webサービス」タブで「**WADLの表示**」リンクをクリックし、WADLソース・コードを表示します。

付与の管理

統合管理者つまり統合管理者ロールを持つユーザーのみがセキュリティ付与を作成できます。これを行うには、インタフェース・メソッド(またはプロシージャおよび関数)へのアクセス権限をユーザー、ユーザー・グループまたはすべてのユーザーに許可します。同様に管理者は、認可されているユーザー、ユーザー・グループまたはすべてのユーザーから特定のメソッドまたはサービスの付与を取り消すことができます。

セキュリティ付与機能を使用できるインタフェース・タイプは、PL/SQL、コンカレント・プログラム、ビジネス・サービス・オブジェクト、Java Beanサービス、アプリケーション・モジュール・サービス、オープン・インタフェース表、オープン・インタフェース・ビューです。

「メソッド」領域での付与の管理

SOAPサービスとしてのみ公開できるインタフェースの場合、セキュリティ付与は「メソッド」領域で管理します。たとえば、「メソッド」領域を使用して、ビジネス・サービス・オブジェクトのセキュリティ付与を管理します。

「メソッド」領域での付与の管理

Integration Repository
Administration

Integration Repository >
Business Service Object : Email Business Object Services
Browse Search Printable Page

Log Configuration Disabled **Configure**

Qualified Name	/oracle/apps/ar/hz/service/party/EmailService	Status	Active
Interface	oracle.apps.ar.hz.service.party.EmailService	Scope	Public
Extends	oracle.svc.Service	Interface Source	Oracle
Product	Oracle Receivables		

Documentation [Email Business Object API, Oracle Trading Community Architecture Technical Implementation Guide](#)

Extracts a particular Email business object from TCA.

Full Description

Extracts a particular Email business object from TCA. You pass the object's identification information to the operation, and it returns the identified business object as it exists in TCA.

▶ **Web Service**

▶ **Source Information**

Methods

Select Object and **Create Grant**

☐	Details	Internal Name	Status	Description
☐	▶	createEmail	Active	Creates a Email business object.
☐	▶	getEmail	Active	Extracts a particular Email business object from TCA.
☐	▶	saveEmail	Active	Saves a Email business object.
☐	▶	updateEmail	Active	Updates a Email business object.

TIP You can assign authorized users to perform XML Gateway inbound messages with a trading partner. Navigate to XML Gateway responsibility > Define Trading Partners > User Setup. Ensure to set profile option 'ECX: Enable User Check for Trading Partner' as 'Yes' to enable Trading Partner specific security feature. For more details, refer Oracle XML Gateway User's Guide.

注意: XMLゲートウェイ・インタフェースはSOAPサービスとしてのみ公開できるインタフェースですが、セキュリティ付与は「取引先ユーザー設定」フォームで管理します。4-34ページの「取引先ユーザー設定」フォームでのXMLゲートウェイ・ユーザー・セキュリティの管理を参照してください。

「付与」タブでの付与の管理

RESTサービスとして公開できるインタフェースの場合、セキュリティ付与は「付与」領域で管理します。これに該当するインタフェースは、PL/SQL API、コンカレント・プログラム、Java Bean サービス、アプリケーション・モジュール・サービス、オープン・インタフェース表、オープン・インタフェース・ビューです。

「付与」タブでの付与の管理

Administration: Configuration >

PLSQL Interface : Invoice Creation [Browse](#) [Search](#) [Printable Page](#)

Log Configuration Enabled [Configure](#)

[View Log](#)

Internal Name AR_INVOICE_API_PUB
 Type PL/SQL
 Product Receivables
 Status Active
 Business Entity [Receivables Invoice](#)
 My Oracle Support [See OracleMetaLink note 236938.1](#)

Scope Public
 Interface Source Oracle

Overview SOAP Web Service REST Web Service **Grants**

Select Object and [Create Grant](#) [Revoke Grant](#) [Refresh](#) [Reset](#) [Help](#)

Select All | Select None

Select	Name ▲	Internal Name ▲	SOAP Service Operation ▲	REST Service Operation ▲	Grant ▲
☐	Create Invoice in a Batch	CREATE_INVOICE	✓		
☐	Create Single Invoice	CREATE_SINGLE_INVOI...		✓	

Copyright (c) 1998, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved. [Privacy Statement](#)

付与機能は、SOAPとRESTの両方のサービス公開が可能なインタフェースに適用されます。たとえば、あるユーザー(OPERATIONS)に'Change User Name'というPL/SQL APIへのアクセス権限が認められている場合、このユーザーは同一の付与でSOAPとRESTの両方のサービス・タイプの'Change User Name'サービス操作にアクセスする権限があります。

セキュリティ付与の作成

付与を作成するには、「メソッド」領域または「付与」タブ(RESTサービスとして公開できるインタフェースの場合)で適切なメソッド名のチェック・ボックスを選択します。「付与の作成」をクリックして「付与の作成」ページを開きます。

「付与の作成」ページで、被付与者タイプと被付与者名(該当する場合)を選択します。「適用」をクリックします。これにより、選択したメソッドのセキュリティ付与が作成されます。

付与アクションはSOAPとRESTのPL/SQLサービスの両方に適用されます。

セキュリティ付与の取消

「メソッド」領域で付与を取り消すには、付与を表示または取り消すメソッドの「表示」リンクを選択します。選択したメソッドの「付与詳細」セクションが表示され、被付与者付与者と被付与者タイプ情報が表示されます。取り消す付与の「取消」アイコンをクリックします。

「付与」タブで付与を取り消すには、次の2つの方法があります。

- **単一のプロシージャおよび関数に対する付与の取消**

「サービス操作」領域で目的のプロシージャおよび関数を選択してから、「付与の取消」をクリックします。「付与の取消」ページに、選択したプロシージャおよび関数に割り当てられている既存の付与の詳細が表示されます。

Integration Repository
Administration

Integration Repository >
PLSQL Interface : Create Credit Request >

Create Grants
Cancel!
Create Grant

Selected Methods

Name	Internal Name
Create Credit Request	CREATE_CREDIT_REQUEST

Grant All Selected

Grantee Type
Specific User

Grantee Name
operations@computer

Copyright (c) 1998, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.
Privacy Statement

選択したプロシージャの表から既存の付与を1つ以上選択し、「付与の取消」をクリックして付与を取り消します。

- すべてのプロシージャに共通して割り当てられている付与の取消

付与が作成されているプロシージャおよび関数名を1つ以上選択し、「付与」タブの「付与の取消」をクリックします。「付与の取消」ページが開き、選択したプロシージャおよび関数に共通して割り当てられている既存の付与が表示されます。

たとえば、2つのプロシージャと関数(例: 'Create Credit Request'と'Get Application Number')が、同じUser(被付与者タイプ) 'operations' (被付与者名)に割り当てられているとします。この共通する付与、User 'operations'が「付与の取消」ページの2つ目の表に表示されます。

Integration Repository Administration

Integration Repository > PLSQL Interface : Create Credit Request >

Revoke Grants Cancel Revoke Grant

Selected Procedures and Functions

Name	Internal Name
Create Credit Request	CREATE_CREDIT_REQUEST
Get Application Number	GET_APPLICATION_NUMBER

Select All | Select None

Select	Granted Via	Grantee Type	Grantee
☐	Direct	GLOBAL	All Users

Copyright (c) 1998, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved. Privacy Statement

管理者は目的の共通する付与(前述の例のUser 'operations')を選択し、「付与の取消」をクリックします。指定した共通の付与が選択したプロシージャおよび関数から削除されます。

「メソッド」領域で付与を管理する方法の詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayインプリメンテーション・ガイド*のSOAP Webサービスのみのセキュリティ付与の管理を参照してください。

「付与」タブで付与を管理する方法の詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayインプリメンテーション・ガイド*のSOAPおよびREST Webサービスのセキュリティ付与の管理を参照してください。

「取引先ユーザー設定」フォームでのXMLゲートウェイ・ユーザー・セキュリティの管理

XMLゲートウェイ・インタフェースの場合、取引先とのXMLゲートウェイ・インバウンド・トランザクションの実行をユーザーに認可するには、Oracle XML Gatewayを使用します。管理者は次を実行する必要があります。

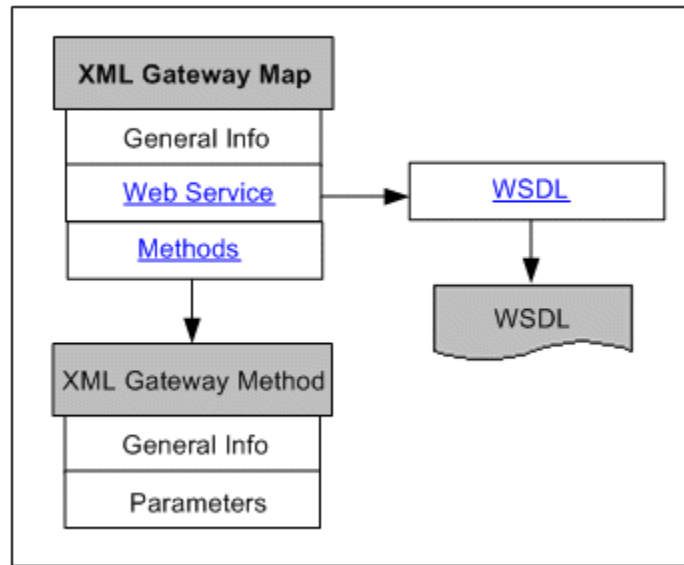
- 「ECX: 取引先に対するユーザー・チェックを有効化」プロファイル・オプションを「Yes」に設定し、取引先特有のセキュリティ機能を有効にします。
- ユーザーを取引先に関連付けます。

XMLゲートウェイ職責を持つユーザーとして、Oracle E-Business Suiteにログインします。「設定」にナビゲートして、ナビゲーション・メニューから「取引先の定義」を選択します。取引先ユーザーの定義設定フォームで「ユーザー設定」ボタンをクリックして「取引先ユーザー設定」フォームにアクセスし、このフォームでユーザーを取引先に関連付けます。

取引先ユーザー・セキュリティの詳細は、*Oracle XML Gateway* ユーザーズ・ガイドのXMLゲートウェイの設定の章の、取引先の設定を参照してください。

XMLゲートウェイ・マップ情報

次の図は、XMLゲートウェイ・マップ情報ページの基本的な構造と、関連するページとの接続を示しています。



XMLゲートウェイ・マップ情報ページには、選択したXMLゲートウェイ・インタフェースの共通領域に表示される標準フィールドと、「Webサービス」領域および「メソッド」領域があります。

XMLゲートウェイ・インタフェースにはインバウンドとアウトバウンドの方向があります。インバウンドXMLゲートウェイ・マップは、インタフェースが着信のトランザクションまたはメッセージを受信してOracle E-Business Suiteに渡すことを意味します。アウトバウンド・マップは、インタフェースが発信のトランザクションまたはメッセージを別のシステムに送信することを意味します。インタフェース詳細ページに表示される共通情報の詳細は、4-2ページのインタフェース詳細の共通情報を参照してください。

XML ゲートウェイ・インタフェース詳細ページ

Integration Repository

Integration Repository >
XML Gateway : Confirm BOD
Browse Search Printable Page

Log Configuration Disabled

Internal Name XNB:CBODI
Type XML Gateway Map
Product Telecommunications Billing Integrator
Status Active
Business Entity [XML Gateway Confirmation Message](#)
Scope Public
Interface Source Oracle

Standard OAG 7.2 Confirm_BOD_004

Full Description

Confirmation BOD map annotation public description.

Web Service

Web Service Status Deployed | Active | [View WSDL](#)
Interaction Pattern Synchronous

* Authentication Type
☒ Username Token
☐ SAML Token (Sender Vouches)

▶ [Show Generic XML Gateway Service](#)

▶ **Source Information**

Methods

Name	Internal Name	Status	Description
CBODI	CBODI	Active	Process transaction.

TIP You can assign authorized users to perform XML Gateway inbound messages with a trading partner. Navigate to XML Gateway responsibility > Define Trading Partners > User Setup. Ensure to set profile option 'ECX: Enable User Check for Trading Partner' as 'Yes' to enable Trading Partner specific security feature. For more details, refer Oracle XML Gateway User's Guide.

Copyright (c) 1998, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.
Privacy Statement

- 「Webサービス」領域

「Webサービス」領域は、インバウンドXMLゲートウェイ・マップの場合にのみ表示されます。ここには、特定のインタフェースのインタフェース情報またはサービス情報が含まれています。

この領域には選択したXMLゲートウェイ・マップのSOAPサービス詳細(サービス・ステータス、WSDL記述、認証タイプ情報など)が格納されます。

XMLゲートウェイ・マップには相互作用パターン表は表示されません。これは、XMLゲートウェイ・インタフェースには1つのメソッドしか含まれず、このインタフェース・タイプのサービス有効化は同期型の操作パターンしか許可されないためです。選択したXMLゲートウェイ・インタフェースがWebサービスとして公開される場合、インタフェースに含まれている単一のメソッドはデフォルトで同期型パターンでしか生成できません。

「Webサービス」領域内の各フィールドの詳細は、4-6ページのSOAP Webサービスの共通情報を参照してください。

「一般XMLゲートウェイ・サービス」サブ領域

以前のOracle E-Business Suiteリリースからアップグレードした場合で、それまで一般XMLゲートウェイWebサービスを使用していた場合は、それらの一般XMLゲートウェイ・サービスの情報を、選択したXMLゲートウェイ・マップの「Webサービス」領域に表示できます。

設定タスク

一般XMLゲートウェイ・サービスとそのWSDL URLを「一般XMLゲートウェイ・サービス」サブ領域に正常に表示するには、次のタスクを実行します。

- 「FND: XMLゲートウェイ・マップ一般サービス」プロファイル値を「Yes」に設定します。

このプロファイル・オプションを使用して、選択したXMLゲートウェイ・インタフェースで「一般XMLゲートウェイ・サービス」サブ領域を表示または非表示にします。「Yes」に設定した場合、「一般XMLゲートウェイ・サービス」サブ領域が「Webサービス」領域に表示されます。

- 一般XMLゲートウェイ・サービスを配置します。これを行わないとWSDL URLは表示されません。

一般XMLゲートウェイ・サービスを配置すると、配置したサービスのWSDL URLに「ISG: XMLGの一般サービスWSDL URL」プロファイル・オプションのプロファイル値が入力されます。WSDL URLは「一般XMLゲートウェイ・サービス」サブ領域にも表示されます。

一般XMLゲートウェイ・サービスが配置されていないと、プロファイル値が表示されません。そのため、WSDL URLはサブ領域に表示されず、「Webサービス・ステータス」フィールドに「未配置」と表示されます。

一般XMLゲートウェイ・サービスの設定の詳細は、My Oracle Supportのナレッジ・ドキュメント1311068.1から入手できるOracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayリリース12.2のインストールを参照してください。

プロファイル・オプションの設定の詳細は、Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayインプリメンテーション・ガイドのプロファイル・オプションの設定を参照してください。

一般XMLゲートウェイ・サービスの表示

「一般XMLゲートウェイ・サービスの表示」または「一般XMLゲートウェイ・サービスの非表示」リンクをクリックし、選択したXMLゲートウェイ・インタフェースの「一般XMLゲートウェイ・サービス」サブ領域を表示または非表示にします。

「一般XMLゲートウェイ・サービス」サブ領域

▲ Web Service

Web Service Status **Deployed | Active** | [View WSDL](#)
Interaction Pattern **Synchronous**

* Authentication Type
☒ Username Token
☐ SAML Token (Sender Vouches)

▲ Hide Generic XML Gateway Service

Web Service Status **Not Deployed**

Interaction Pattern **Synchronous**
Authentication Type **Username Token**

このサブ領域には次のフィールドが含まれています。

- **Webサービス・ステータス:** このフィールドは一般XMLゲートウェイ・サービスの現在の状態を示しています。

一般XMLゲートウェイ・サービスの設定が完了していない場合、「Webサービス・ステータス」フィールドに「未配置」が表示されます。

- **一般WSDLの表示:** 「一般WSDLの表示」リンクをクリックすると、選択したXMLゲートウェイ・インタフェースの配置済の一般WSDL URLが表示されます。

配置済の一般WSDL URLの構文は次のとおりです。

```
http://<SOA server host>:<SOA Suite managed server  
port>/soa-infra/services/default/XMLGatewayService!<version  
chosen while deploying>XMLGateway?WSDL
```

- <SOA Suite managed server port>: SOAコンポジットが配置されているサーバーのポートです。
- <version chosen while deploying>: 配置時に、配置バージョンを尋ねられます。デフォルトのバージョン値は1.0です。

例: `http://<SOA server host>:<SOA Suite managed server
port>/soa-
infra/services/default/XMLGatewayService!1.0/XMLGateway?
WSDL.`

Oracle E-Business Suiteリリース12.2へのアップグレード後は、配置済WSDL URL情報が以前のリリースから変更されています。そのため、一般XMLゲートウェイ・サービスを起動するときにWebサービス・クライアント側で、新しいWSDL URLとサービスの場所またはアドレスに適宜置き換える必要があります。

一般XMLゲートウェイ・サービスの設定タスクが正しく完了していれば、更新されたWSDL URLが「*ISG: XMLGの一般サービスWSDL URL*」プロファイル・オプションにもデフォルトで移入されます。

- **相互作用パターン:** デフォルトで、「同期」が読取り専用モードで表示されます。
- **認証タイプ:** デフォルトで、「ユーザー名トークン」が読取り専用モードで表示されます。

「Webサービス」領域でのWebサービス・アクティビティの実行

Webサービスが正常に生成された後、統合管理者は追加の管理タスクを実行できます。生成されたサービスの配置やサービスの再生成のほか、生成されたサービス・アーティファクトの消去も可能で、これにより「Webサービス・ステータス」フィールドは「生成済」から「未生成」に変わります。

Webサービスが有効なサービスとして正常にOracle SOA Suiteに配置された後、統合管理者はその有効なサービスを配置解除したり、配置済サービスを初期状態(「未生成」)にリセットしたりできるほか、サービスをリタイア状態にして新しいSOAP要求を受け付けないようにしたり、リタイア状態のサービスを再度有効にしたりできます。

これらの管理タスクの詳細は、4-13ページのSOAP Webサービスに対する管理アクティビティの実行を参照してください。

- **「メソッド」領域**

「メソッド」領域でメソッド名をクリックすると、XMLゲートウェイ・メソッド詳細ページが表示されます。

「XML ゲートウェイ・メソッド詳細」ページ

Integration Repository > XML Gateway : Confirmation Message >

XML Gateway Method Details : CBODI

[Browse](#) [Search](#) [Printable Page](#)

Internal Name: CBODI
 Interface: [ECX:CBODI](#)
 Type: XML Gateway Map
 Direction: Inbound
 Business Entity: [XML_Gateway_Confirmation_Message](#)

Status: Active
 Scope: Public

▲ Full Description

Process transaction.

Parameters

Name	Type	Required	Description
No Parameters.			

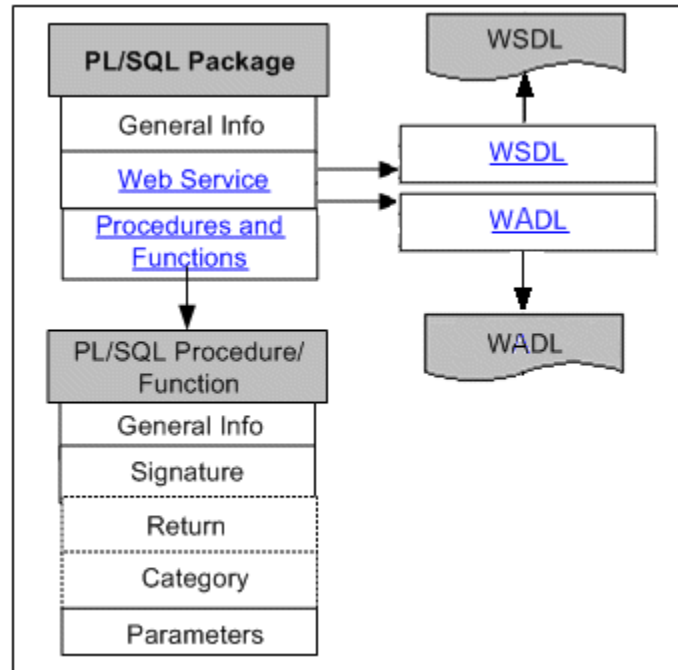
Copyright (c) 1998, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved. [Privacy Statement](#)

「メソッド」領域にはXMLゲートウェイ・メソッドのパラメータを一覧した表があり、各パラメータのデータ型やパラメータが必須か否かの情報が記載されています。

注意: XMLゲートウェイ・インタフェースはSOAPサービスとして公開できるインタフェースですが、セキュリティ付与は「取引先ユーザー設定」フォームで管理します。4-34ページの「取引先ユーザー設定」フォームでのXMLゲートウェイ・ユーザー・セキュリティの管理を参照してください。

PL/SQL情報

次の図は、PL/SQL情報ページの基本的な構造と、関連するPL/SQLプロシージャおよび関数詳細への接続を示しています。



PL/SQLインタフェースは、SOAPとRESTの両方のサービス公開が可能です。そのため、PL/SQLインタフェース詳細ページには、選択したPL/SQLインタフェースの一般セクション、「概要」タブ、「SOAP Webサービス」タブおよび「REST Webサービス」タブが表示されます。

統合管理者ロールを持つユーザーの場合、インタフェース詳細ページに「付与」タブも表示されます。このタブを使用して管理者は、セキュリティ付与の作成と取消を実行できます。セキュリティ付与の管理方法の詳細は、4-30ページの付与の管理を参照してください。

一般セクションの詳細は、4-1ページの共通情報を参照してください。

PL/SQL インタフェース詳細ページ

Integration Repository

Integration Repository >

PL/SQL Interface : Trading Partner Setup

[Browse](#) [Search](#) [Printable Page](#)

Log Configuration Disabled

Internal Name: ECX_TP_SETUP_API
Type: PL/SQL
Product: Oracle XML Gateway
Status: Active
Business Entity: [XML Gateway Trading Partner](#)

Scope: Public
Interface Source: Oracle

Overview SOAP Web Service **REST Web Service**

Service Alias: ecx
REST Service Status: Deployed | [View WADL](#)
Verb: POST

Service Operations

Name	Internal Name	Included Operations
Create Trading Partner	CREATE_TRADING_PARTNER	✓
Delete Trading Partner	DELETE_TRADING_PARTNER	✓
Get Trading Partner	GET_TRADING_PARTNER	✓
Update Trading Partner	UPDATE_TRADING_PARTNER	✓

☒ TIP To apply any changes in Operation, Undeploy the service.

REST Service Security

REST Web Service is secured by HTTP Basic Authentication at HTTP Transport level. Send either of the following in "Authorization" header as per HTTP Basic scheme:

- Username:Password
- Security Token.

Tip: Use Login Service to obtain Security Token for given user credentials.

Copyright (c) 1998, 2016, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved. [Privacy Statement](#)

注意: Webサービスの詳細は、2-1ページのWebサービスの理解を参照してください。

- 「概要」タブ

このタブには、選択したPL/SQL APIに関する情報が読取り専用で表示されます。ここには、選択したインタフェースの完全な説明、インタフェースのソース情報、含まれているメソッド(またはプロシージャと関数)が表示されます。

インタフェースのソース情報の詳細は、4-2ページのインタフェース詳細の共通情報を参照してください。

- 「SOAP Webサービス」タブ

このタブには、選択したPL/SQLインタフェースのSOAPサービス情報が含まれています。これには、サービス・ステータス、WSDL記述、相互作用パターン、認証タイプ情報が含まれます。

SOAPサービスの詳細は、4-6ページのSOAP Webサービスの共通情報を参照してください。

WSDL記述の表示方法の詳細は、4-22ページのWebサービスのWSDLソースのレビューを参照してください。

SOAPサービスが正常に生成された後、統合管理者は追加の管理タスクを実行し、生成されたサービスを配置したりサービスを再生成したりできます。生成されたサービス・アーティファクトの消去も可能です。

Webサービスが有効なサービスとして正常にOracle SOA Suiteに配置された後、統合管理者はその有効なサービスを配置解除したり、配置済サービスを初期状態(「未生成」)にリセットしたりできるほか、サービスをリタイア状態にしたり、リタイア状態のサービスを再度有効にしたりできます。

これらの管理タスクの詳細は、4-13ページのSOAP Webサービスに対する管理アクティビティの実行を参照してください。

- 「REST Webサービス」タブ

このタブには、選択したPL/SQL APIのRESTサービス情報が含まれています。これには、サービス別名、サービス・ステータス、WADL記述、動詞、サービス操作情報が含まれます。

このリリースでは、POSTのみがHTTP動詞としてサポートされます。RESTサービスの詳細は、4-15ページのREST Webサービスの共通情報を参照してください。

すべてのRESTサービスはHTTP Basic認証またはトークン・ベースの認証を使用して、HTTPまたはHTTPS転送レベルで保護されます。RESTサービス・セキュリティの詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayインプリメンテーション・ガイド*のWebサービス・セキュリティの管理を参照してください。

注意: HTTP Basic認証セキュリティを使用してユーザー資格情報(ユーザー名とパスワード)を認証する場合は、安全な転送プロトコルとしてHTTPSを使用することをお勧めします。

RESTサービスがOracle E-Business Suite WebLogicサーバーに正常に配置された後、統合管理者はサービスを配置解除して、サービスを初期の状態「未配置」にリセットできます。

これらの管理タスクの詳細は、4-21ページのREST Webサービスに対する管理アクティビティの実行を参照してください。

PL/SQLメソッド詳細ページ

PL/SQLメソッド詳細ページは、「概要」タブ、「SOAP Webサービス」タブまたは「REST Webサービス」タブでメソッド名をクリックすると表示されます。

PL/SQLメソッド詳細ページ

Integration Repository

Integration Repository > PLSQL Interface : Trading Partner Setup >

PLSQL Method Details : Update Trading Partner
Browse Search Printable Page

Internal Name UPDATE_TRADING_PARTNER Status Active
Interface [ECX_TP_SETUP_API](#) Scope Public
Type PL/SQL
Business Entity [XML Gateway Trading Partner](#)

Full Description

This procedure is used for the modification of details part of TP-Setup corresponding to the party_site_id passed or for all the sites in party depending on the parameter passed. First all the input data will be validated, if it is not valid, Warning message will be return and no modification will take place untill the complete data passed in valid. For Modification of TP setup atleast one site should exist in the party.

Signature

Parameters

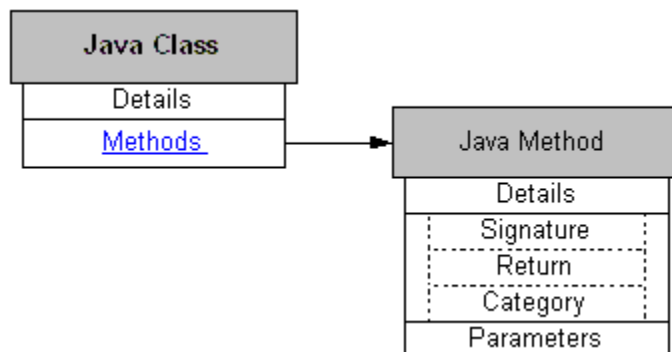
Name	Type	Direction	Precision/Size	Default Value	Description
X_RETURN_STATUS	PLS_INTEGER	Out			Return status of program execution
X_MSG	VARCHAR2	Out			Error message of program execution
X_RETURN_STATUS_LIST	T_RETURN_STATUS_TYPE	Out			It is list of arrays of all the ids that updated successfully
P_PARTY_TYPE	VARCHAR2	In			Party Type like S, C, B, I, CARRIER.
P_ORG_ID	NUMBER	In			Organization ID.
P_ORG_NAME	VARCHAR2	In			Organization Name. Preferrce will be given to p_org_id passed as parameter
P_PARTY_ID	NUMBER	In			Party ID.
P_PARTY_NAME	VARCHAR2	In			Party Name. Preferrce will be given to p_party_id
P_PARTY_SITE_DETAILS	T_PARTY_SITE_TYPE	In			This is list. It contains the party site details, transaction, code conversion and user details.

Copyright (c) 1998, 2016, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.
Privacy Statement

このページには、選択したメソッドのシグネチャと、パラメータおよびその属性が記載された表が表示されます。

Java情報

次の図は、Java情報ページの基本的な構造と、関連するJavaメソッド情報ページとの接続を示しています。



Java情報ページの一般セクションには、選択したJavaクラスの共通情報(4-1ページ)が表示されます。このページにはクラス・メソッドの表も含まれており、有効のステータスや内部名が表示されます。Javaメソッド名のリンクをクリックすると、「Javaメソッド詳細」ページにアクセスできます(4-45ページ)。

統合管理者ロールを持つユーザーには、「付与」タブが表示されます。ここでは、選択したメソッドへのアクセス権限をユーザー、ユーザー・グループまたはすべてのユーザーに付与できます。セキュリティ付与の作成方法の詳細は、4-30ページの付与の管理を参照してください。

Javaメソッド情報

Javaインタフェース詳細ページでメソッド名をクリックすると、Javaメソッド詳細ページが表示されます。

Javaメソッド情報ページの一般セクションには、選択したメソッドの共通情報に加え、次のフィールドが表示されます。

- **インタフェース**

この「インタフェース」フィールドには、このJavaメソッドを使用するインタフェースが表示されます。リンクをクリックすると、インタフェースの詳細が表示されます。

- **参照**

「参照」フィールドには関連するJavaメソッドが表示されます。関連するJavaメソッド名のリンクをクリックすると、Javaメソッドの詳細が表示されます。

このページには、選択したメソッドのシグネチャと、戻りタイプの情報、メソッドのパラメータが記載された表が表示されます。

Java APIのサブタイプ

Java APIはJavaインタフェースのサブタイプに分類されます。これらのJava APIを見つけるには、「カテゴリ」と「カテゴリ値」フィールドの組合せで検索を実行する必要があります。

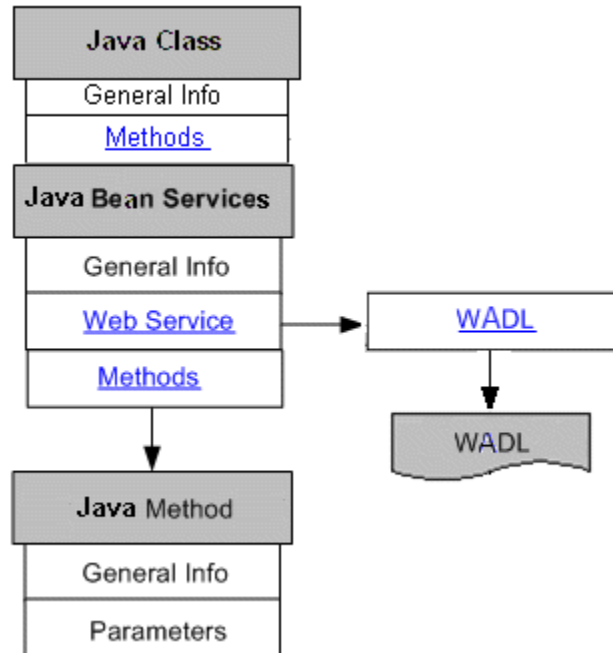
検索でこれらのJava APIを見つける方法の詳細は、3-9ページの統合インタフェースの検索を参照してください。

これらのJava APIのサブタイプに属するインタフェースを選択した場合、そのインタフェースがサービスとして公開されていれば、Webサービス情報がインタフェース詳細ページに表示されます。これらのAPIのインタフェース詳細ページの詳細は、次を参照してください。

- Java Beanサービス、4-46ページ
- アプリケーション・モジュール・サービス、4-48ページ
- セキュリティ・サービス、4-51ページ
- フォーム用Java API、4-54ページ

Java Beanサービス

次の図は、Java Beanサービス情報ページの基本的な構造と、関連するJavaメソッド詳細との接続を示しています。



Java Beanサービス・インタフェースの検索

検索ページでJava Beanサービスを簡単に見つけるには、「**検索オプションをさらに表示**」をクリックして追加の検索フィールドを表示します。

検索基準として、次の主要検索値を入力します。

- カテゴリ: インタフェース・サブタイプ
- カテゴリ値: Java Beanサービス

「カテゴリ」および「カテゴリ値」フィールドの詳細は、3-11ページの「カテゴリ」および「カテゴリ値」を参照してください。

Java Beanサービスの表示

Java BeanサービスはRESTサービスとしてのみ公開できます。インタフェース詳細ページには、「概要」タブと「REST Webサービス」タブが表示されます。統合管理者の場合は、このページに「付与」タブも表示されます。この「付与」タブを使用して統合管理者は、セキュリティ付与の作成と取消を実行できます。セキュリティ付与の管理方法の詳細は、4-30ページの付与の管理を参照してください。

一般セクションの詳細は、4-1ページの共通情報を参照してください。

注意: Webサービスの詳細は、2-1ページのWebサービスの理解を参照してください。

Integration Repository

Integration Repository >

Java Details : Metadata Provider

BrowseSearchPrintable Page

Log Configuration Disabled

Internal Name oracle.apps.fnd.rep.ws.service.EbsMetadataProvider

Scope Public

Type Java

Interface Source Oracle

Product Application Object Library

Interface Subtype Java Bean Services

Status Active

OverviewREST Web Service

* Service Alias

REST Service Status Not Deployed

Service Operations

Expand All | Collapse All

Display Name	Internal Name	GET	POST
Metadata Provider	oracle.apps.fnd.rep.ws.service.EbsMetadataProvider	☒	☐
GETINTERFACES	getInterfaces	☒	☐
GETMETHODS	getMethods	☒	☐
GETPRODUCTFAMILIES	getProductFamilies	☒	☐

REST Service Security

REST Web Service is secured by HTTP Basic Authentication at HTTP Transport level. Send either of the following in "Authorization header as per HTTP Basic scheme:
- Username:Password
- Security Token.
Tip: Use [Login Service](#) to obtain Security Token for given user credentials.

- 「概要」タブ

このタブには、選択したインタフェースに関する情報が読取り専用で表示されます。ここには、インタフェースの完全な説明、インタフェースのソース情報、インタフェースに含まれているメソッドが表示されます。

インタフェースのソース情報の詳細は、4-2ページのインタフェース詳細の共通情報を参照してください。

- 「REST Webサービス」タブ

このタブには、選択したインタフェースのRESTサービス情報が含まれています。これには、サービス別名、サービス・ステータス、WADL記述、動詞、サービス操作情報が含まれます。

RESTサービスの詳細は、4-15ページのREST Webサービスの共通情報を参照してください。

Java Beanサービスのアノテーションの詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway 開発者ガイド*のJava Beanサービスのアノテーションを参照してください。

PL/SQL RESTサービスと同様に、すべてのJava BeanサービスはHTTP Basic認証またはトークン・ベースの認証を使用して、HTTPまたはHTTPS転送レベルで保護されます。

RESTサービス・セキュリティの詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway インプリメンテーション・ガイド*のWebサービス・セキュリティの管理を参照してください。

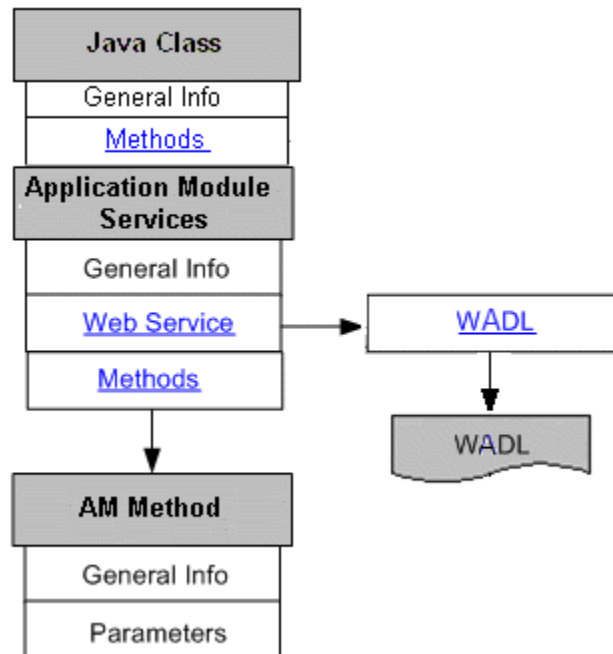
注意: HTTP Basic認証セキュリティを使用してユーザー資格情報(ユーザー名とパスワード)を認証する場合は、安全な転送プロトコルとしてHTTPSを使用することをお勧めします。

RESTサービスがOracle E-Business Suite WebLogicサーバーに正常に配置された後、統合管理者はサービスを配置解除して、サービスを初期の状態「未配置」にリセットできます。

これらの管理タスクの詳細は、4-21ページのREST Webサービスに対する管理アクティビティの実行を参照してください。

アプリケーション・モジュール・サービス

次の図は、アプリケーション・モジュール・サービス情報ページの基本的な構造と、関連するJavaメソッド詳細との接続を示しています。



アプリケーション・モジュール・サービス・インタフェースの検索

検索ページでアプリケーション・モジュール・サービスを簡単に見つけるには、「**検索オプションをさらに表示**」をクリックして追加の検索フィールドを表示します。

検索基準として、次の主要検索値を入力します。

- カテゴリ: インタフェース・サブタイプ
- カテゴリ値: アプリケーション・モジュール・サービス

「カテゴリ」および「カテゴリ値」フィールドの詳細は、3-11ページの「カテゴリ」および「カテゴリ値」を参照してください。

アプリケーション・モジュール・サービスの表示

RESTサービスとしての公開のみが可能なJava Beanサービスと同様に、インタフェース詳細ページには、「概要」タブと「REST Webサービス」タブが表示されます。統合リポジトリ管理者の場合は、セキュリティ付与を管理できる「付与」タブも表示されます。セキュリティ付与の管理方法の詳細は、4-30ページの付与の管理を参照してください。

一般セクションの詳細は、4-1ページの共通情報を参照してください。

注意: Webサービスの詳細は、2-1ページのWebサービスの理解を参照してください。

Integration Repository

Integration Repository >

Java Details : WF Worklist Service

[Browse](#) [Search](#) [Printable Page](#)

Log Configuration Disabled

Internal Name oracle.apps.fnd.wf.worklist.service.rt.server.WFWorklistServiceAMImpl

Type Java
Product Application Object Library
Status Active

Scope Public
Interface Source Custom
Interface Subtype Application Module Services

Overview **REST Web Service**

Service Alias amrest

REST Service Status Deployed | [View WADL](#)

Service Operations

Expand All | Collapse All

Display Name	Internal Name	GET	POST
WF Worklist Service	oracle.apps.fnd.wf.worklist.service.rt.server.WFWorklistServiceAMImpl		
setPreferredLists2	setPreferredLists2	✓	✓

REST Service Security

REST Web Service is secured by HTTP Basic Authentication at HTTP Transport level. Send either of the following in "Authorization" header as per HTTP Basic scheme:

- Username:Password
- Security Token.

Tip: Use [Login Service](#) to obtain Security Token for given user credentials.

Copyright (c) 1998, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved. [Privacy Statement](#)

- 「概要」タブ

このタブには、選択したインタフェースに関する情報が読取り専用で表示されます。ここには、インタフェースの完全な説明、インタフェースのソース情報、インタフェースに含まれているメソッドが表示されます。

インタフェースのソース情報の詳細は、4-2ページのインタフェース詳細の共通情報を参照してください。

- 「REST Webサービス」タブ

このタブには、選択したインタフェースのRESTサービス情報が含まれています。これには、サービス別名、サービス・ステータス、WADL記述、動詞、サービス操作情報が含まれます。

RESTサービスの詳細は、4-15ページのREST Webサービスの共通情報を参照してください。

アプリケーション・モジュール・サービスのアノテーションの詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway* 開発者ガイドのアプリケーション・モジュール・サービスのアノテーションを参照してください。

アプリケーション・モジュール・サービスはHTTP Basic認証またはトークン・ベースの認証を使用して、HTTPまたはHTTPS転送レベルで保護されます。RESTサービス・セキュリティの詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway* インプリメンテーション・ガイドのWebサービス・セキュリティの管理を参照してください。

注意: HTTP Basic認証セキュリティを使用してユーザー資格情報(ユーザー名とパスワード)を認証する場合は、安全な転送プロトコルとしてHTTPSを使用することをお勧めします。

RESTサービスが正常に配置された後、管理者はサービスを配置解除して、サービスを初期の状態「未配置」にリセットできます。

これらの管理タスクの詳細は、4-21ページのREST Webサービスに対する管理アクティビティの実行を参照してください。

セキュリティ・サービス

セキュリティ・サービスはOracle Application Object Libraryによって事前に定義および配置されるRESTサービスのセットです。これらのサービスには認証と認可サービスが含まれ、これらはモバイル・アプリケーションで使用されます。

たとえば、ログイン・サービスはユーザー資格情報を検証しアクセス・トークンを返します。ログアウト・サービスは、アクセス・トークンに関連する認証セッションを無効化します。これら2つのサービスは認証サービスに含まれており、セキュリティまたはアプリケーションのコンテキスト情報を使用したセッションの初期化を支援します。認可サービスは、すべてのログイン・ユーザーの割当済の職責、ロールおよび権限が格納されているアクセス管理リストを取得します。

RESTセキュリティ・サービスの詳細は、*Oracle E-Business Suite セキュリティ・ガイド*を参照してください。

セキュリティ・サービスの検索と表示

検索ページでセキュリティ・サービスを簡単に見つけるには、「**検索オプションをさらに表示**」をクリックして、「カテゴリ」(サブタイプ)と「カテゴリ値」(セキュリティ・サービス)フィールドの組合せで検索情報を入力します。

セキュリティ・サービスの検索

Integration Repository

Search
Browse

Interface Name
Internal Name
Product Family
All
Interface Type
All
Product
All
Business Entity

Hide More Search Options

TIP Select Category before a Category Value

Category
Interface Subtype
Web Service Type
All
Category Value
Security Services
Web Service Status
All
Interface Source
All
Standard
All
Scope
All
Standard Specification
Status
All

Go
Clear All

Export
Name
Internal Name
Product
Type
Source
Status
Description

Authentication Services	oracle.apps.fnd.services.rest.impl.security.AuthnServices	Application Object Library	Java	Oracle	Active	This class provides a set of pre-deployed Security Services for Oracle E-Business Suite. It includes Login, Logout and Context Initialization services.
Authorization Service	oracle.apps.fnd.services.rest.impl.security.ACSServices	Application Object Library	Java	Oracle	Active	This class gives EBS authorization data like all available roles and responsibilities of a user and all accessible privileges of a user for a given responsibility.

Copyright (c) 1998, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.
Privacy Statement

「カテゴリ」および「カテゴリ値」フィールドの詳細は、3-11ページの「カテゴリ」および「カテゴリ値」を参照してください。

セキュリティ・サービス・インタフェース詳細の表示

検索後、検索結果表から目的のセキュリティ・サービスを選択します。選択したセキュリティ・サービスのインタフェース詳細ページが表示されます。ここには、共通インタフェース情報、「REST Webサービス」領域および「メソッド」領域が含まれています。

Integration Repository

Integration Repository >

Java Details : Authentication Services

Browse
Search
Printable Page

Internal Name
oracle.apps.fnd.services.rest.impl.security.AuthnServices

Type
Java

Product
Application Object Library

Status
Active

Business Entity
[Single Sign On Manager](#)

Scope
Public

Interface Source
Oracle

Interface Subtype
Security Services

Full Description

This class provides a set of pre-deployed Security Services for Oracle E-Business Suite. It includes Login, Logout and Context Initialization services. These services help in authentication and session management of Oracle E-Business Suite user via web service calls. The Login and Logout services URLs can be used as remote authentication server URL for E-Business Suite mobile applications.

REST Web Service

REST Service Status
Deployed | [View WADL](#)

Verb
POST

Source Information

Methods

Name	Internal Name	Status	Description
AuthnServicesInitializeGetterMethod	initialize	Active	This method fetches the complete application context information like respId, respAppId, securityGroupId, orgId with which the requestor has previously initialized the underlying EBS session.
AuthnServicesInitializeSetterMethod (2)	initialize	Active	The payload for this service would be complete application context information like respId, respAppId, securityGroupId, orgId with which the requestor wants to initialize the underlying EBS session.
AuthnServicesLogin	login	Active	This method is used for login service which authenticates EBS * mobile apps user against EBS authentication model.
AuthnServicesLogout	logout	Active	This method is used to log-out the authenticated user, invalidates the authenticated session and releases the resources created during login service.

TIP You can assign authorized users to perform XML Gateway inbound messages with a trading partner. Navigate to XML Gateway responsibility > Define Trading Partners > User Setup. Ensure to set profile option 'ECX: Enable User Check for Trading Partner' as 'Yes' to enable Trading Partner specific security feature. For more details, refer Oracle XML Gateway User's Guide.

Copyright (c) 1998, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

Privacy Statement

一般セクションの詳細は、4-1ページの共通情報を参照してください。

「REST Webサービス」領域

「REST Webサービス」領域には、選択したセキュリティ・サービスの情報が表示されます。

- RESTサービス・ステータス:** セキュリティ・サービスは事前配置されるRESTサービスであるため、常に「配置済」が表示されます。

「WADLの表示」リンクをクリックすると、選択したセキュリティ・サービスのWADL記述が別ウィンドウに表示されます。

- 動詞:** このフィールドには、HTTPメソッドを使用してRESTサービスがどのように実装されるかを示す動詞値が表示されます。

このリリースでは、POSTがサポートされる唯一のメソッドです。

セキュリティ・サービスはすべてのOracle E-Business Suiteユーザーに最初から許可されるため、すべてのユーザーがこれらのサービスを起動できます。

「メソッド」領域

「メソッド」領域でメソッド名のリンクをクリックすると、選択したメソッドのJavaメソッド詳細ページが開きます。

フォーム用Java API

フォーム用Java APIは、JavaクラスでラップされているXMLドキュメントベースの統合ポイントで、Oracle Forms内のビジネス・ロジックを実行できます。

フォーム用Java APIインタフェースの検索と表示

他のJava APIサブタイプと同様に、「**検索オプションをさらに表示**」をクリックして、「カテゴリ」(インタフェース・サブタイプ)および「カテゴリ値」(フォーム用Java API)フィールドの組合せを使用して、フォーム用Java APIを簡単に見つけることができます。

「カテゴリ」および「カテゴリ値」フィールドの詳細は、3-11ページの「カテゴリ」および「カテゴリ値」を参照してください。

インタフェース詳細を表示するには、検索結果表から目的のフォーム用Java APIを選択します。選択したインタフェースの詳細が表示されます。

フォーム用Java APIインタフェースはサービス有効化可能なインタフェースではないため、SOAPサービスとして公開することができません。既存のフォーム用Java APIインタフェースの代替については、My Oracle Supportのナレッジ・ドキュメント966982.1を参照してください。

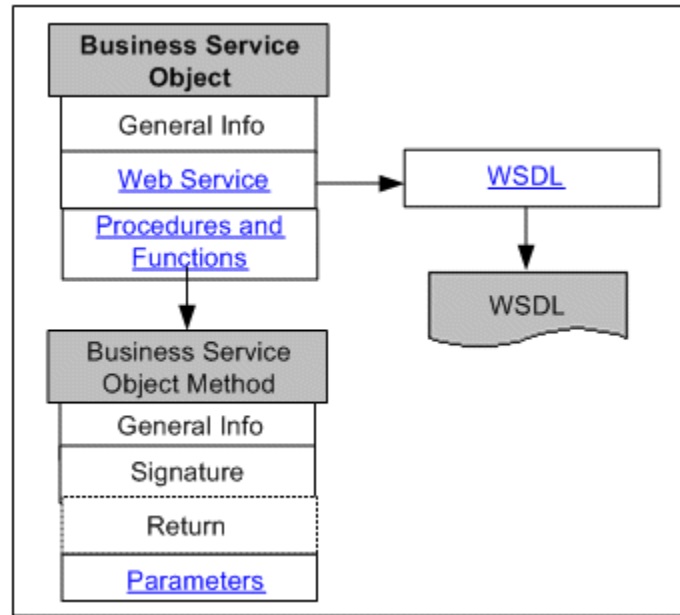
ビジネス・サービス・オブジェクト

ビジネス・サービス・オブジェクト(BSO)インタフェース(以前のService Bean)はSOAサービスへのアクセスを提供し、Oracle E-Business Suiteと取引先間との統合を促進します。このタイプのインタフェースは直接使用することも、Web サービスとして公開することもできます。BSOインタフェース・タイプは多くの場合、サービス・データ・オブジェクトをパラメータとして使用して複雑なデータを渡します。

サービス・データ・オブジェクト(SDO)は構造化データへのアクセスと操作に使用される一般APIを定義したものです。アプリケーションがデータを処理するときの方法を簡素化および統一するために設計されました。SDO APIは実際のデータ・ソースには依存しません。たとえば、SDOを使用してXMLデータやSQLデータにアクセスできます。SDOの詳細は、4-62ページのサービス・データ・オブジェクトのレビューを参照してください。

注意: ビジネス・サービス・オブジェクトは厳密にはインタフェース・タイプではありません。1つ以上のJavaサービス・インタフェースやその他のサービス・データ・オブジェクトによってデータを渡す用途で使用されます。Oracle Integration Repositoryではこれがインタフェース・タイプのリストに含まれているため、どのビジネス・サービス・オブジェクトを使用しているかに基づいてJavaサービス・インタフェースを閲覧または検索できます。

次の図は、ビジネス・サービス・オブジェクトのインタフェース情報ページの基本的な構造と、関連するページとの接続を示しています。



ビジネス・サービス・オブジェクト・インタフェース詳細ページ

ビジネス・サービス・オブジェクト・インタフェース詳細ページには、選択したBSOインタフェースの一般セクション、「Webサービス」領域および「メソッド」領域が含まれています。

ビジネス・サービス・オブジェクト・インタフェース詳細ページ

Integration Repository

Integration Repository >

Business Service Object : Account Merge Service

Browse Search Printable Page

Log Configuration Disabled

Qualified Name	/oracle/apps/ar/hz/service/account/AccountMergeService	Status	Active
Interface	oracle.apps.ar.hz.service.account.AccountMergeService	Scope	Public
Extends	oracle.svc.Service	Interface Source	Oracle
Product	Receivables		

Account Merge web service performs two operations.

Full Description

Account Merge web service performs two operations. 1. Create an Account merge request and Submit it. 2. Retrieve Account Merge Details for a merge that has already taken place.

Web Service

Expand All Collapse All

Display Name	Internal Name	Synchronous
Account Merge Service	/oracle/apps/ar/hz/service/account/AccountMergeService	☒
create Account Merge Request	createAccountMergeRequest	☒
get Account Merge Details	getAccountMergeDetails	☒

☒ TIP To apply any changes in Interaction Pattern, Generate or Regenerate the service.

Web Service Status Generated | View WSDL
Interaction Pattern Synchronous

* Authentication Type

☐ Username Token

☐ SAML Token (Sender Vouches)

Source Information

Methods

Internal Name	Status	Description
createAccountMergeRequest	Active	This operation is to create an Account Merge and Submit it.
getAccountMergeDetails	Active	This operation is used to retrieve Account Merge Details for a merge that has already taken place.

☒ TIP You can assign authorized users to perform XML Gateway inbound messages with a trading partner. Navigate to XML Gateway responsibility > Define Trading Partners > User Setup. Ensure to set profile option 'ECX: Enable User Check for Trading Partner' as 'Yes' to enable Trading Partner specific security feature. For more details, refer Oracle XML Gateway User's Guide.

一般セクションには、選択したビジネス・サービス・オブジェクト・インタフェースの共通情報と、インタフェース名および拡張するインタフェースが表示されます。

インタフェース詳細ページに表示される共通情報の詳細は、4-2ページのインタフェース詳細の共通情報を参照してください。

- 「Webサービス」領域

「Webサービス」領域には、特定のインタフェースのインタフェース情報またはSOAPサービス情報が含まれています。サービス情報には、選択したビジネス・サービス・オブジェクト・インタフェースのサービス・ステータス、WSDL記述、相互作用パターン、認証タイプ情報が含まれます。

「Webサービス」領域内の各フィールドの詳細は、4-6ページのSOAP Webサービスの共通情報を参照してください。

Webサービスが正常に生成された後、統合管理者は追加の管理タスクを実行できます。生成されたサービスの配置やサービスの再生成(必要な場合)のほか、生成されたサービス・アーティファクトの消去も可能で、これにより「Webサービス・ステータス」フィールドは「生成済」から「未生成」に変わります。

Webサービスが有効なサービスとして正常にOracle SOA Suiteに配置された後、統合管理者はその有効なサービスを配置解除したり、配置済サービスを初期状態(「未生成」)にリセットしたりできるほか、サービスをリタイア状態にして新しいSOAP要求を受け付けないようにしたり、リタイア状態のサービスを再度有効にしたりできます。

これらの管理タスクの詳細は、4-13ページのSOAP Webサービスに対する管理アクティビティの実行を参照してください。

- 「メソッド」領域

このインタフェース詳細ページには、ビジネス・サービス・オブジェクト・インタフェースのメソッドが記載された表が表示されます。メソッド名をクリックして、そのメソッドの情報ページにアクセスできます。

ビジネス・サービス・オブジェクトの「メソッド」領域の詳細は、4-59ページのビジネス・サービス・オブジェクト・インタフェースのメソッド情報を参照してください。

WSDL記述の表示

「WSDLの表示」リンクをクリックすると、WSDLファイルが表示されます。次のサンプルは、統合リポジトリ・サービスのWSDL記述を示しています。

```

<?xml version="1.0"?>
<definitions name="IntegrationRepositoryService"
targetNamespace="http://xmlns.oracle.
com/oracle/apps/fnd/rep/ws/IntegrationRepositoryService"
xmlns="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/"
xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
xmlns:soap="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/soap/"
xmlns:tns2="http://xmlns.oracle.com/apps/fnd/ServiceBean"
xmlns:tns1="http://xmlns.oracle.com/apps/fnd/rep/ws"
xmlns:tns="http://xmlns.oracle.
com/oracle/apps/fnd/rep/ws/IntegrationRepositoryService">
<types>
<xsd:schema>
  <xsd:import namespace="http://xmlns.oracle.com/apps/fnd/rep/ws"
schemaLocation="http://<hostname>:<port>/ISG-ISG-context-
root/isgapp/apps/bso/ws/IntegrationRepositoryService.xsd"/>
</xsd:schema>
<xsd:schema elementFormDefault="qualified" targetNamespace="http:
//xmlns.oracle.com/apps/fnd/ServiceBean" >
  <xsd:element name="ServiceBean_Header">
    <xsd:complexType>
      <xsd:element name="RESPONSIBILITY_NAME" minOccurs="0" type="xsd:
string"/>
      <xsd:element name="RESPONSIBILITY_APPL_NAME" minOccurs="0" type="
xsd:string"/>
      <xsd:element name="SECURITY_GROUP_NAME" minOccurs="0" type="xsd:
string"/>
      <xsd:element name="NLS_LANGUAGE" minOccurs="0" type="xsd:string"/>
      <xsd:element name="ORG_ID" minOccurs="0" type="xsd:string"/>
    </xsd:sequence>
    </xsd:complexType>
  </xsd:element>
</xsd:schema>
. . .

```

注意: ServiceBean_Headerの下にあるResponsibility Name、Responsibility Application Name、Security Group、NLS LanguageおよびOrganization ID要素で渡される値は、サービス実行時にアプリケーション・コンテキストの設定で使用されます。

NLS LanguageとOrganization IDの値の引き渡しは任意です。ただし、ビジネス・サービス・オブジェクト・インタフェースの実行が特定の組織に依存する場合、そのSOAP要求のServiceBean_HeaderでORG_ID要素を渡す必要があります。

詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway* インプリメンテーション・ガイドのその他の入力メッセージ・パートの設定を参照してください。

ユーザー名とパスワード情報はWebサービス・セキュリティ・ポリシーで定義されます(例: oracle/wss_username_token_service_policy)。SOAP要求でセキュリティ・ヘッダーを渡す方法の詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway* 開発者ガイドのWebサービス・ポリシーの構成を参照してください。

エラーが発生した場合、次のエラー・メッセージ情報が<Method>_Responseの下に表示されます。

```
...
<xsd:complexType name="
IntegrationRepositoryService_GetServiceDescription_Response">
  ...
  <xsd:sequence>
    <xsd:element name="serviceDescription" type="oans3:
ServiceDescription" minOccurs="0" nillable="true"/>
    <xsd:element name="Message" type="oans1:ServiceMessage" minOccurs="
0" maxOccurs="unbounded"/>

    <xsd:element name="ErrorMessage" type="oans1:ServiceMessage"
minOccurs="0" maxOccurs="unbounded"/>
  </xsd:sequence>
</xsd:complexType name>
```

注意: <Method>_Responseの下のMessageおよびErrorMessage要素は、エラー・メッセージに使用されます。Message要素はSOAP応答の警告メッセージとして表示されます。これはAPIから返される警告メッセージを表示するために使用されます。ErrorMessage要素はメソッドの起動時に発生したOAExceptionsに対応します。一般に、サービス・メソッドの応答には次が含まれます。

- 元の出力データ
- 存在する場合は、警告メッセージ(<Message>要素内)
- 存在する場合は、メソッド起動時に発生したOAExceptions(<ErrorMessage>要素内)

エラー・メッセージの詳細は、My Oracle Supportのナレッジ・ドキュメント 1315485.1から入手できる*Oracle Application Framework開発者ガイド*のOA Frameworkアプリケーションの構築(基本)章のエラー処理の項を参照してください。

ビジネス・サービス・オブジェクト・インタフェースのメソッド情報

「メソッド」領域でメソッド名のリンクをクリックすると、ビジネス・サービス・オブジェクト・インタフェースのメソッド詳細ページが表示されます。

ビジネス・サービス・オブジェクトのメソッド詳細ページ

Integration Repository

Integration Repository > Business Service Object : Account Merge Service >

Service Bean Method Details : **getAccountMergeDetails**

BrowseSearchPrintable Page

Internal NamegetAccountMergeDetailsScope Public

Interface[/oracle/apps/ar/hz/service/account/AccountMergeService](#)

TypeBusiness Service Object

StatusActive

Full Description

This operation is used to retrieve Account Merge Details for a merge that has already taken place.

Signature

Return

Type[oracle.apps.ar.hz.service.account.AccountMerge](#)

DescriptionAccount Merge result information.

Parameters

Sequence	Name	Type	Description
1	initMsgList	java.lang.String	The List that indicates if FND message stack within the API is initialized. Default value is T.
2	customerMergeHeaderId	oracle.jbo.domain.Number	Indicates the customer merge header numbers.
3	getMergeDetailFlag	java.lang.String	Indicates whether to fetch account merge details, default value is N.

Copyright (c) 1998, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved. Privacy Statement

共通情報に加え、メソッド詳細ページの一般セクションには、このメソッドを使用しているインタフェースへのリンクが表示されます。

メソッド詳細ページには、次の領域も表示されます。

- 署名

この領域には、インタフェース・メソッド、パラメータ・タイプ、値、戻り値情報が表示されます。

- 戻る

戻りタイプがサービス・データ・オブジェクトの場合、「タイプ」フィールド内のリンクをクリックしてサービス・データ・オブジェクトの詳細ページにアクセスできます。

- パラメータ

パラメータがサービス・データ・オブジェクトの場合、「タイプ」列内のリンクをクリックするとサービス・データ・オブジェクトの詳細ページが表示されます。4-62ページのサービス・データ・オブジェクトのレビューを参照してください。

注意: XMLスキーマはXMLドキュメントの構造と、すべての入力および出力メッセージの定義およびデータ・タイプを説明するものです。選択したビジネス・サービス・オブジェクトに関連付けられている「XMLスキーマ」リンクをクリックすると、XMLスキーマ・ドキュメントが別ウィンドウで表示されます。

統合管理者には「メソッド」領域で「付与の作成」をクリックしてセキュリティ付与を作成する権限があります。これにより、選択したメソッドへのアクセス権限をユーザー、ユーザー・グループまたはすべてのユーザーに許可できます。

セキュリティ付与の作成方法の詳細は、4-30ページの付与の管理を参照してください。

統合リポジトリ・サービス

ビジネス・サービス・オブジェクト・インタフェースに基づく統合リポジトリ・サービスは、統合リポジトリのサービス・コンポーネントです。統合リポジトリ・データに対して問合せを行い、すべてのインタフェース定義に関する情報を提供し、Oracle E-Business Suiteと取引先の間の統合を促進します。

ビジネス・サービス・オブジェクトのインタフェース・タイプで統合リポジトリ・サービスを検索すると、統合リポジトリ・サービスに含まれているすべてのビジネス・サービス・オブジェクトが表示されます。

統合管理者つまり統合管理者ロールを持つユーザーはセキュリティ付与を作成できます。これを行うには、サービスに含まれている各ビジネス・サービス・オブジェクトをユーザー、ユーザー・グループまたはすべてのユーザーに認可します。詳細は、4-30ページの付与の管理を参照してください。

統合リポジトリ・サービスを見つけるには、次の手順を使用します。

1. 統合アナリスト・ロールを持つユーザーとして、Oracle E-Business Suiteにログインします。統合リポジトリ職責を選択し、ナビゲーション・メニューから「統合リポジトリ」リンクを選択します。
2. 「検索」をクリックします。
3. 「検索」ページに次の情報を入力します。
 - 製品ファミリ: Application Technology
 - インタフェース・タイプ: ビジネス・サービス・オブジェクト
4. 「進む」をクリックして、検索を実行します。
5. 検索結果表から「統合リポジトリ・サービス」リンクをクリックします。
ビジネス・サービス・オブジェクト・インタフェース詳細ページが開きます。
4-55ページのビジネス・サービス・オブジェクト・インタフェース詳細ページを参照してください。
6. 「メソッド」領域でメソッド名のリンクをクリックすると、ビジネス・サービス・オブジェクトのメソッド詳細が表示されます。
4-59ページのビジネス・サービス・オブジェクトのメソッド情報を参照してください。

サービス・データ・オブジェクトのレビュー

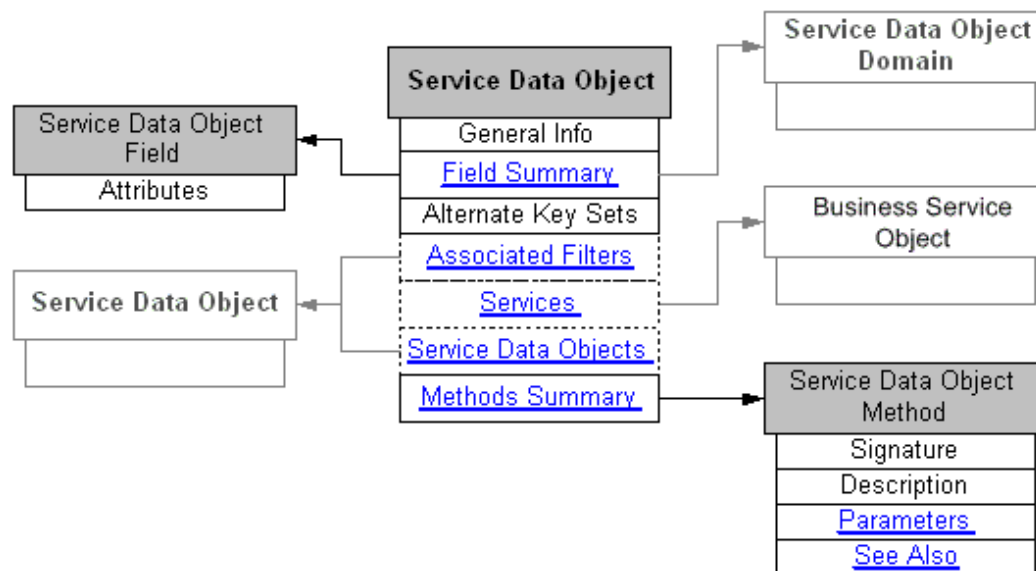
サービス・データ・オブジェクト(SDO)は構造化データへのアクセスと操作に使用される一般APIを定義したものです。アプリケーションがデータを処理するときの方法を簡素化および統一するために設計されました。SDO APIは実際のデータ・ソースには依存しません。たとえば、SDOを使用してXMLデータやSQLデータにアクセスできます。

ビジネス・サービス・オブジェクトに関連付けられているデータ・オブジェクトには、サービス・データ・オブジェクト(SDO)とフィルタ・データ・オブジェクト(FDO)があります。

サービス・データ・オブジェクト情報

サービス・データ・オブジェクト詳細ページには、統合リポジトリ・ブラウザ・インタフェースのインタフェース・タイプ・リストから直接アクセスできます。getDataListおよびprocessDataListメソッドの詳細ページからもアクセスできます。

次の図は、サービス・オブジェクト情報ページの基本的な構造と、関連するページとの接続を示しています。



サービス・データ・オブジェクト・ページの一般セクションには、共通情報に加え、データ・オブジェクト・クラス名、実装名および関連付けられているXMLスキーマが表示されます。

XMLスキーマ名のリンクをクリックすると、スキーマ・ドキュメントが別ウィンドウで表示されます。

注意: XMLスキーマはXMLドキュメントの構造と、すべての入力および出力メッセージの定義およびデータ・タイプを説明するものです。

サービス・オブジェクト詳細ページには、次の領域も表示されます。

- フィールド

「名前」列内のリンクをクリックすると、フィールドのすべての属性が表示されます。

フィールド・タイプがフィルタである場合、「タイプ」列内のリンクをクリックすると、そのフィルタのフィルタ・データ・オブジェクト情報ページが表示されます。

- **代替キー・セット**

このデータ・オブジェクトのインスタンスの特定に使用できるキーのセットで主キーがない場合に使用されます。このキーのセットは指定された順序で評価されます。

- **フィルタ**

「フィルタ」領域に表示されるフィルタを使用して、このサービス・データ・オブジェクトに基づくデータ・ソースをフィルタリングできます。

たとえば、BaseDataSourceNameDomainサービス・データ・オブジェクトに基づくデータ・ソースは、BaseDataSourceNameFilterフィルタ・データ・オブジェクトを使用してフィルタリングできます。

フィルタの名前(BaseDataSourceNameFilterなど)をクリックすると、選択したフィルタ・データ・オブジェクトの詳細ページが表示されます。

- **サービス**

「サービス」領域には、このサービス・データ・オブジェクトを直接使用するサービスが表示されます。

サービス名をクリックすると、このサービス・オブジェクトを使用するビジネス・サービス・オブジェクト・インタフェース情報ページが表示されます。

- **サービス・データ・オブジェクト**

「サービス・データ・オブジェクト」領域には、このサービス・データ・オブジェクトを直接参照するデータ・オブジェクトが表示されます。

サービス・データ・オブジェクトの名前をクリックすると、オブジェクト詳細ページが表示されます。

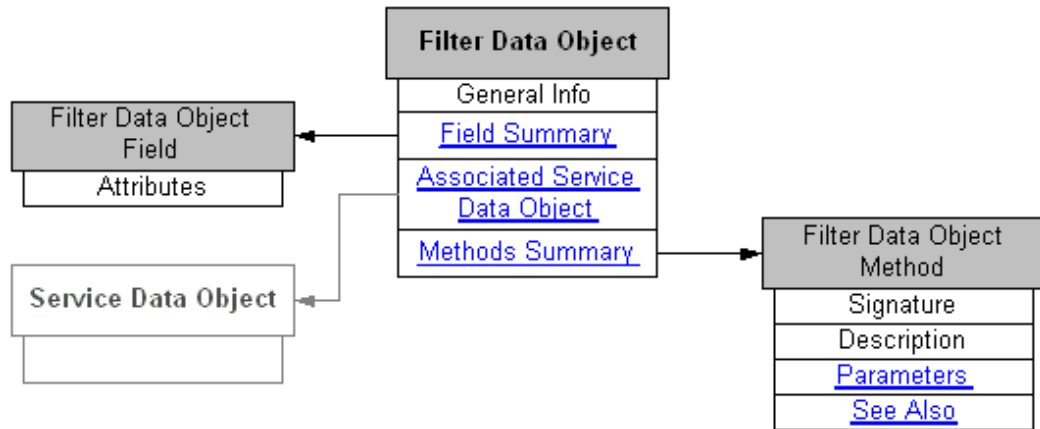
- **メソッド**

「名前」列内のリンクをクリックすると、サービス・オブジェクト・メソッド詳細ページが表示されます。

フィルタ・データ・オブジェクト情報

フィルタ・データ・オブジェクト詳細ページは、getDataListメソッド詳細ページからのみアクセスが可能です。

次の図は、フィルタ・データ・オブジェクト詳細ページの基本的な構造と、関連するページとの接続を示しています。



フィルタ・データ・オブジェクトはサービス・オブジェクトのタイプの1つです。フィルタ・データ・オブジェクト・ページの一般セクションには、共通情報に加え、データ・オブジェクト・クラス名、実装名、フィルタ・タイプおよび関連付けられているXMLスキーマ情報が表示されます。

注意: フィルタには2つのタイプがあります。

- 式フィルタ: クライアント・プログラム側で単純または複雑な式(ネスト式を含む)を作成できます。
- 固定フィルタ: 単純な属性リストを使用できます。これはビュー・オブジェクトでフィルタ属性のカスタム処理を実行しなければならない場合で、ネスト式や複雑なフィルタ式の作成をクライアント・プログラムに許可できない場合に使用します。

フィルタの詳細は、My Oracle Supportのナレッジ・ドキュメント1315485.1から入手できる**Oracle Application Framework 開発者ガイド**を参照してください。

XMLスキーマ名のリンクをクリックすると、スキーマ・ドキュメントが別ウィンドウで表示されます。

フィルタ・オブジェクト詳細ページには、次の領域も表示されます。

- **フィールド**

「名前」列内のリンクをクリックすると、フィールドのすべての属性が表示されます。

- **関連付けられたサービス・データ・オブジェクト**

この領域には、選択したフィルタ・データ・オブジェクトを使用してフィルタリングできるサービス・データ・オブジェクトの名前が表示されます。

サービス・データ・オブジェクトの名前をクリックすると、サービス・データ・オブジェクト詳細ページが表示されます。

- **メソッド**

「名前」列内のリンクをクリックすると、オブジェクト・メソッド詳細ページが表示されます。

サービス・データ・オブジェクト・メソッド情報

フィルタ・データ・オブジェクト・メソッドで提供される情報と同じタイプの情報が、サービス・データ・オブジェクト・メソッドでも提供されます。サービス・データ・オブジェクト詳細ページまたはフィルタ・データ・オブジェクト詳細ページでメソッド名をクリックすると、データ・オブジェクト・メソッド詳細ページが表示されます。

説明に加えて、サービス・データ・オブジェクト・メソッド詳細ページには、次の領域も表示されます。

- **署名**

この領域には、インタフェース・メソッド、パラメータ・タイプ、値、戻りタイプの情報が表示されます。

- **パラメータ**

この領域には、「署名」領域に表示されたパラメータの説明が表示されます。

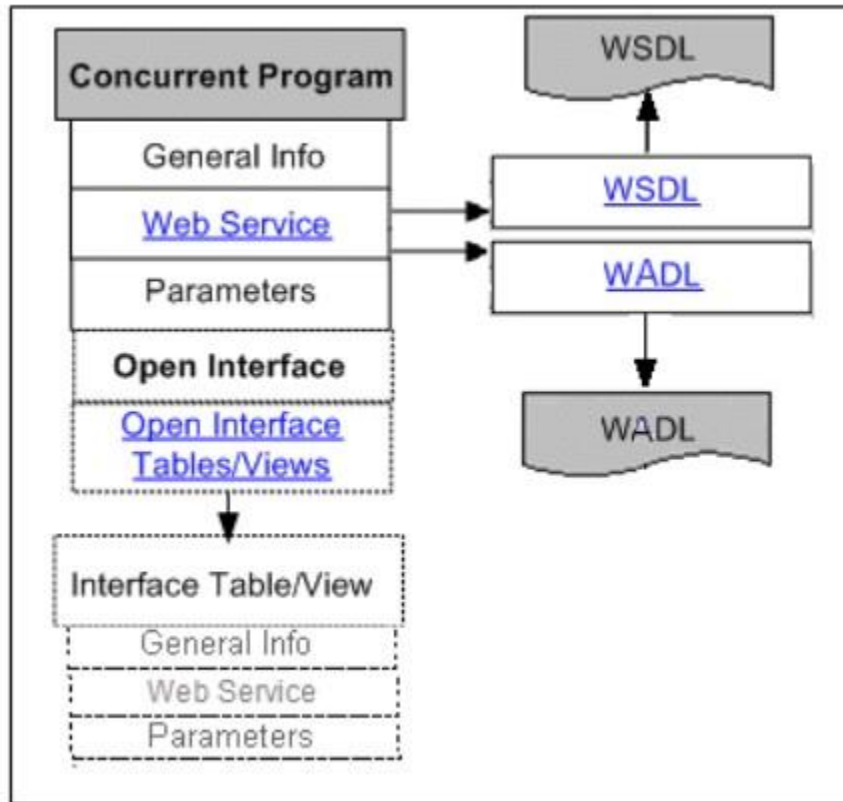
- **参照**

この領域には、関連するサービス・オブジェクト・メソッドが表示されます。関連するオブジェクト・メソッドのリンクをクリックすると、選択したサービス・オブジェクト・メソッドの詳細が表示されます。

コンカレント・プログラム情報

次の図は、コンカレント・プログラム情報ページの基本的な構造を示しています。

コンカレント・プログラム情報ページの基本的な構造



コンカレント・プログラムは、SOAPとRESTの両方のサービス公開が可能です。そのため、インタフェース詳細ページには、選択したコンカレント・プログラムの一般セクション、「概要」タブ、「SOAP Webサービス」タブおよび「REST Webサービス」タブが表示されます。

統合管理者ロールを持つユーザーの場合、インタフェース詳細ページに「付与」タブも表示されます。このタブを使用して管理者は、セキュリティ付与の作成と取消を実行できます。セキュリティ付与の管理方法の詳細は、4-30ページの付与の管理を参照してください。

一般セクションの詳細は、4-1ページの共通情報を参照してください。

コンカレント・プログラム・インタフェース詳細ページ

Integration Repository

Integration Repository >

Concurrent Program : Departure Shipment Notice Outbound [Browse](#) [Search](#) [Printable Page](#)

Log Configuration Disabled

Internal Name WSHDSNO Scope Public
Type Concurrent Program Interface Source Oracle
Product Shipping Execution Common
Status Active
Business Entity [Trip](#)

Overview SOAP Web Service **REST Web Service**

Service Alias Shipment
REST Service Status Deployed | [View WSDL](#)
Verb POST

Service Operations

Name	Internal Name	Included Operations
Process	Process	✓

☒ TIP To apply any changes in Operation, Undeploy the service.

REST Service Security

REST Web Service is secured by HTTP Basic Authentication at HTTP Transport level. Send either of the following in "Authorization" header as per HTTP Basic scheme:
- Username:Password
- Security Token.

Tip: Use [Login Service](#) to obtain Security Token for given user credentials.

[Browse](#) [Search](#) [Printable Page](#)

Copyright (c) 1998, 2016, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved. [About this Page](#) [Privacy Statement](#)

コンカレント・プログラム詳細ページには、次の情報が含まれています。

- 「概要」タブ

このタブには、選択したコンカレント・プログラムに関する情報が読取り専用で表示されます。ここには、選択したコンカレント・プログラムの完全な説明、インタフェースのソース情報、そのコンカレント・プログラム特有のパラメータが表示されます。

インタフェースのソース情報の詳細は、4-2ページのインタフェース詳細の共通情報を参照してください。

- 「SOAP Webサービス」タブ

このタブには、選択したコンカレント・プログラムのSOAPサービス情報が含まれています。これには、サービス・ステータス、WSDL記述、相互作用パターン、認証タイプ情報が含まれます。

SOAPサービスの詳細は、4-6ページのSOAP Webサービスの共通情報を参照してください。

WSDL記述の表示方法の詳細は、4-22ページのWebサービスのWSDLソースのレビューを参照してください。

SOAPサービスが正常に生成された後、統合管理者は追加の管理タスクを実行できます。生成されたサービスの配置やサービスの再生成のほか、生成されたサービス・アーティファクトの消去も可能です。

これらの管理タスクの詳細は、4-13ページのSOAP Webサービスに対する管理アクティビティの実行を参照してください。

- 「REST Webサービス」タブ

このタブには、選択したコンカレント・プログラムのRESTサービス情報が含まれています。これには、サービス別名、サービス・ステータス、WADL記述、動詞、サービス操作情報が含まれます。

このリリースでは、POSTのみがHTTP動詞としてサポートされます。RESTサービスの詳細は、4-15ページのREST Webサービスの共通情報を参照してください。

すべてのRESTサービスはHTTP Basic認証またはトークン・ベースの認証を使用して、HTTPまたはHTTPS転送レベルで保護されます。RESTサービス・セキュリティの詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway インプリメンテーション・ガイド*のWebサービス・セキュリティの管理を参照してください。

注意: HTTP Basic認証セキュリティを使用してユーザー資格情報(ユーザー名とパスワード)を認証する場合は、安全な転送プロトコルとしてHTTPSを使用することをお勧めします。

RESTサービスがOracle E-Business Suite WebLogicサーバーに正常に配置された後、統合管理者はサービスを配置解除して、サービスを初期の状態「未配置」にリセットできます。

これらの管理タスクの詳細は、4-21ページのREST Webサービスに対する管理アクティビティの実行を参照してください。

メソッド詳細ページ

コンカレント・プログラム・メソッド詳細ページは、「概要」タブ、「SOAP Webサービス」タブまたは「REST Webサービス」タブでメソッド名をクリックすると表示されます。

注意: Oracle Integration Repositoryはオープン・インタフェース表およびビューのRESTサービス有効化をサポートしています。コンカレント・プログラムがオープン・インタフェース表またはビューに関連付けられている場合、このコンカレント・プログラムをオープン・インタフェース・カテゴリの下に表示させ、RESTサービスとして使用することができます。

オープン・インタフェース統合タイプの詳細は、4-69ページのオープン・インタフェース情報を参照してください。

「パラメータ」領域には、選択したインタフェースで使用されているパラメータが表内に表示されます。パラメータ名、パラメータ・タイプ、必須か否か、表示か非表示か、および記述の情報が含まれています。

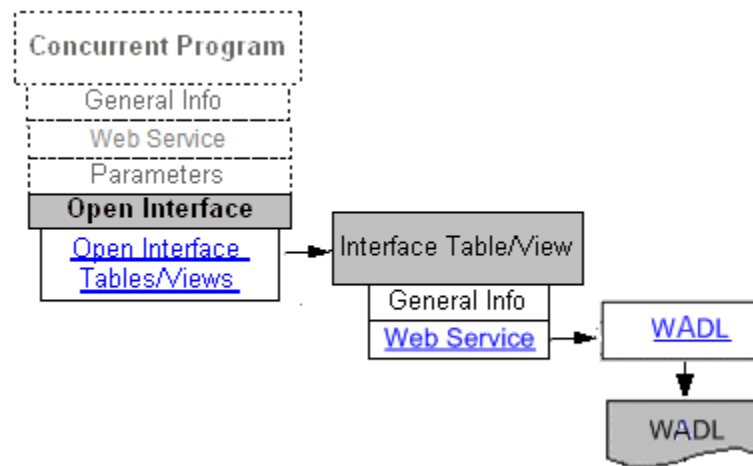
オープン・インタフェース情報

オープン・インタフェース統合は常にコンカレント・プログラムを使用して実装されるため、オープン・インタフェース詳細ページのヘッダー領域の「インタフェース・タイプ」は「コンカレント・プログラムとオープン・インタフェース」になります。

このタイプのインタフェースにはインタフェース・データが格納され、有効ステータスのほか、Oracle E-Business Suiteへのインバウンド・データを格納するのか、それとも他のシステムへのアウトバウンド・データを格納するのかといった情報が格納されます。

次の図は、オープン・インタフェース情報の基本的な構造と、関連するインタフェース表またはビュー情報ページとの接続を示しています。

オープン・インタフェース情報ページの基本的な構造



オープン・インタフェース統合はRESTベースのWebサービスとして実現できます。インタフェース詳細ページには、選択したオープン・インタフェースの一般セクション、「概要」タブおよび「REST Webサービス」タブが表示されます。

統合管理者ロールを持つユーザーの場合、インタフェース詳細ページに「付与」タブも表示されます。このタブを使用して管理者は、セキュリティ付与の作成と取消を実行できます。セキュリティ付与の管理方法の詳細は、4-30ページの付与の管理を参照してください。

一般セクションの詳細は、4-1ページの共通情報を参照してください。

オープン・インタフェース情報

統合リポジトリのインタフェース・リスト表でオープン・インタフェース表名をクリックすると、オープン・インタフェース詳細ページが表示されます。

オープン・インタフェース詳細ページ

Integration Repository

Integration Repository >

Open Interface : AR Autoinvoice

Browse Search Printable Page

Internal Name RAXMTR Status Active

Type Concurrent Program and Open Interface Scope Public

Product Receivables

Business Entities [Credit Memo](#), [Debit Memo](#), [Receivables Invoice](#)

Online Help [Importing Transaction Information Using Autoinvoice](#), [Oracle Receivables Help](#)

Overview REST Web Service

* Service Alias RAXMTR

REST Service Status Deployed [View WADL](#)

Service Operations

Name	Direction	Get	Post	Put	Delete
AR Autoinvoice					
RA_INTERFACE_ERRORS_ALL	Inbound				
RA_INTERFACE_SALESCREDITS_ALL	Inbound	✓			
RA_INTERFACE_DISTRIBUTIONS_ALL	Inbound	✓			
RA_INTERFACE_LINES_ALL	Inbound	✓			
SUBMIT_CP_RAXMTR					

☒ TIP To apply any changes in Operation, Undeploy the service.

REST Service Security

REST Web Service is secured by HTTP Basic Authentication at HTTP Transport level. Send either of the following in "Authorization" header as per HTTP Basic scheme:

- Username:Password
- Security Token.

Tip: [Login](#) to obtain Security Token for given user credentials.

Use [Service](#)

Copyright (c) 1998, 2016, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved. About this Page Privacy Statement

オープン・インタフェース詳細ページには、次の情報が含まれています。

- 「概要」タブ

このタブには、選択したオープン・インタフェース表に関する情報が読取り専用で表示されます。ここには、完全な説明、インタフェースのソース情報、そのコンカレント・プログラム特有のパラメータが表示されます。

インタフェースのソース情報の詳細は、4-2ページのインタフェース詳細の共通情報を参照してください。

- 「REST Webサービス」タブ

選択したオープン・インタフェースがオープン・インタフェース表である場合、「REST Webサービス」タブをクリックするとRESTサービス情報が表示されます。これには、サービス別名、サービス・ステータス、WADL記述、動詞、サービス操作情報が含まれます。

サポートされるHTTP動詞は、オープン・インタフェース表またはビューの方向によって決まります。

- インバウド方向のオープン・インタフェース表の場合、GET、POST、PUT、DELETEの4つすべてのHTTPメソッドが(サービスの配置時に選択されている場合)RESTサービス操作として表示されます。

- アウトバウンド方向のオープン・インタフェース表の場合、GET HTTPメソッドのみが表示されます。
- 表内の最後のエントリとして表示される関連するコンカレント・プログラム (SUBMIT_CP_<関連するコンカレント・プログラムの内部名>。例: SUBMIT_CP_RAXMTR)には、POST HTTPメソッドのみが表示されます。

RESTサービスの詳細は、4-15ページのREST Webサービスの共通情報を参照してください。

すべてのRESTサービスはHTTP Basic認証またはトークン・ベースの認証を使用して、HTTPまたはHTTPS転送レベルで保護されます。RESTサービス・セキュリティの詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayインプリメンテーション・ガイド*のWebサービス・セキュリティの管理を参照してください。

注意: HTTP Basic認証セキュリティを使用してユーザー資格情報(ユーザー名とパスワード)を認証する場合は、安全な転送プロトコルとしてHTTPSを使用することをお勧めします。

RESTサービスがOracle E-Business Suite WebLogicサーバーに正常に配置された後、統合管理者はサービスを配置解除して、サービスを初期の状態「未配置」にリセットできます。

これらの管理タスクの詳細は、4-21ページのREST Webサービスに対する管理アクティビティの実行を参照してください。

オープン・インタフェース表詳細ページ

オープン・インタフェース表の表内で名前のリンクをクリックすると、選択したオープン・インタフェース表の詳細ページが表示されます。このページにはインタフェース表の列と属性(データ・タイプ、データ長、データ精度、データ・スケール、データ要件など)が含まれています。

オープン・インタフェース表詳細ページ

Integration Repository
Administration

Integration Repository > Open Interface : AR Autoinvoice > Open Interface Table Details : AR Interface Lines >

Open Interface Table Details : AR Interface Errors
Browse Search Printable Page

Internal Name RA_INTERFACE_ERRORS_ALL
Type Interface Table
Product Receivables
Business Entities [Credit Memo](#) , [Debit Memo](#) , [Receivables Invoice](#)
Status Active
Scope Public

Online Help [See the related online help](#)

Source Information

Source File patch/115/odf/arati.odf
Source Version 120.14
Source Product AR

Full Description

Columns

Name	Type	Data Length	Data Precision	Data Scale	Required	Description
INTERFACE_CONTINGENC...	NUMBER	22	15	0	No	Identifies the contingency
INTERFACE_DISTRIBUTION...	NUMBER	22	15	0	No	Identifies the distribution line
INTERFACE_LINE_ID	NUMBER	22	15	0	Yes	Identifies the interface line
INTERFACE_SALESCREDIT...	NUMBER	22	15	0	No	Identifies the sales credit
INVALID_VALUE	VARCHA...	240			No	The invalid value that failed validation
LINK_TO_LINE_ID	NUMBER	22	15	0	No	The INTERFACE_LINE_ID of the line to which this line that failed validation is linked
MESSAGE_TEXT	VARCHA...	2000			No	Error message text
ORG_ID	NUMBER	22	15	0	No	Organization identifier

Copyright (c) 1998, 2016, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.
About this Page Privacy Statement

インタフェース・ビュー情報

統合リポジトリのインタフェース・リスト表でオープン・インタフェース・ビュー名をクリックすると、オープン・インタフェース・ビュー詳細ページが表示されます。

オープン・インタフェース・ビュー詳細ページ

Integration Repository

Integration Repository >

View Details : Active Subscriptions View

[Browse](#) [Search](#) [Printable Page](#)

Internal Name: WF_ACTIVE_SUBSCRIPTIONS_V
Type: Interface View
Product: Workflow
Business Entity: [Business Event](#)

Status: Active
Scope: Public

Overview **REST Web Service**

* Service Alias: subscription
REST Service Status: Deployed [View WADL](#)

Service Operations

Name	Get
WF_ACTIVE_SUBSCRIPTIONS_V	

☒ **TIP** To apply any changes in Operation, Undeploy the service.

REST Service Security

REST Web Service is secured by HTTP Basic Authentication at HTTP Transport level. Send either of the following in "Authorization" header as per HTTP Basic scheme:

- Username:Password
- Security Token.

Tip: [Login](#) to obtain Security Token for
Use [Service](#) given user credentials.

Copyright (c) 1998, 2016, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved. [About this Page](#) [Privacy Statement](#)

オープン・インタフェース表のインタフェース詳細ページと同様に、オープン・インタフェース・ビュー詳細ページには次の情報が含まれています。

- 「概要」タブ

このタブには、選択したオープン・インタフェース・ビューに関する情報が読取り専用で表示されます。ここには、完全の説明、インタフェースのソース情報および列の情報が表示されます。

インタフェースのソース情報の詳細は、4-2ページのインタフェース詳細の共通情報を参照してください。

- 「REST Webサービス」タブ

この「REST Webサービス」タブには、選択したインタフェース・ビューのRESTサービス情報が含まれています。これには、サービス別名、サービス・ステータス、WADL記述、動詞、サービス操作情報が含まれます。

オープン・インタフェース表の場合、様々なHTTPメソッドを使用するRESTサービス操作として公開できますが、オープン・インタフェース・ビューの場合はGETしかサポートされません。

RESTサービスの詳細は、4-15ページのREST Webサービスの共通情報を参照してください。

すべてのRESTサービスはHTTP Basic認証またはトークン・ベースの認証を使用して、HTTPまたはHTTPS転送レベルで保護されます。

RESTサービス・セキュリティの詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayインプリメンテーション・ガイド*のWebサービス・セキュリティの管理を参照してください。

注意: HTTP Basic認証セキュリティを使用してユーザー資格情報(ユーザー名とパスワード)を認証する場合は、安全な転送プロトコルとしてHTTPSを使用することをお勧めします。

RESTサービスがOracle E-Business Suite WebLogicサーバーに正常に配置された後、統合管理者はサービスを配置解除して、サービスを初期の状態「未配置」にリセットできます。

これらの管理タスクの詳細は、4-21ページのREST Webサービスに対する管理アクティビティの実行を参照してください。

EDIメッセージ情報

Oracle E-Business Suite Integrated SOA GatewayではEDIメッセージのサービス有効化がサポートされていないため、EDIインタフェース詳細ページには一般インタフェース情報のみが表示されます。

The screenshot shows the 'Integration Repository' interface. The main heading is 'OUT: Application Advice (824/APERAK)'. Below this, there are buttons for 'Browse', 'Search', and 'Printable Page'. A table lists the following details:

Internal Name	EC:ADVO	Status	Active
Type	EDI	Scope	Public
Product	e-Commerce Gateway		
Direction	Outbound		
Business Entities	Advanced Shipment Notification , Payables Invoice , Shipment / Billing Notice		

Full Description

This is the source file to support the Application Advice transaction, diagnostic message used in response to the inbound ship notice, shipment/billing notice, and invoice transactions. The ASC X12 name is 824. The EDIFACT name is APERAK.

Source Information

Source File	patch/115/sql/ECADVO2.sql
Source Version	120.1
Source Product	EC

At the bottom, there is a copyright notice: 'Copyright (c) 1998, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.' and a link to the 'Privacy Statement'.

EDIメッセージ・インタフェース詳細ページの「方向」フィールドに、メッセージの方向が表示されます。

- **インバウンド:** Oracle E-Business Suiteへの着信のトランザクションまたはメッセージを受け取るインタフェースです。
- **アウトバウンド:** 別のシステム向けの発信のトランザクションまたはメッセージを送信するインタフェースです。

一般セクションの詳細は、4-1ページの共通情報を参照してください。

ビジネス・イベント情報

ビジネス・イベントの一般セクションには、ビジネス・イベントの共通情報(4-1ページ)が表示されます。

The screenshot shows the 'Integration Repository' interface. The main heading is 'Business Event Details : Accept Applicant Assignment'. Below this, there are buttons for 'Browse', 'Search', and 'Printable Page'. The details are organized into two columns. The left column lists: Internal Name (oracle.apps.per.api.assignment.accept_apl_asg), Type (Business Event), Product (Human Resources), Status (Active), and Business Entity (Applicant Assignment). The right column lists: Scope (Public) and Interface Source (Oracle). Below these details is a 'Full Description' section stating: 'This event is raised when the assignment status of an applicant is changed to Accepted.' Underneath is a 'Source Information' section with a triangle icon, listing: Source File (patch/115/xml/US/peasgabe.wfx), Source Version (120.3), and Source Product (PER). At the bottom of the page, there is a copyright notice: 'Copyright (c) 1998, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.' and a link to the 'Privacy Statement'.

Internal Name	oracle.apps.per.api.assignment.accept_apl_asg	Scope	Public
Type	Business Event	Interface Source	Oracle
Product	Human Resources		
Status	Active		
Business Entity	Applicant Assignment		

Full Description
This event is raised when the assignment status of an applicant is changed to Accepted.

Source Information
Source File patch/115/xml/US/peasgabe.wfx
Source Version 120.3
Source Product PER

統合管理者ロールを持つユーザーのみが管理タスクを実行できます。

- イベントの購読

購読していないビジネス・イベントを選択した場合、統合管理者に表示されるイベント詳細ページに「購読」ボタンが表示されます。「購読」ボタンをクリックすると、選択したビジネス・イベントを購読できます。内部的にはそのイベントに対するイベント購読が、WF_BPEL_QAGENTをアウト・エージェントとして自動的に作成されます。イベント購読が正常に作成されると、ビジネス・イベント・インタフェース詳細ページに確認メッセージが表示されます。

ビジネス・イベント・メッセージを消費するには、拡張キューWF_BPEL_Qからのイベントのデキューに登録する必要があります。ビジネス・イベントが有効で、少なくとも1つ以上のサブスクライバがWF_BPEL_Qキューのリスニングに登録している場合、イベント・メッセージがWF_EVENT_T構造で拡張キューWF_BPEL_Qにエンキューされます。

メッセージのデキュー方法の詳細は、*Oracle Streams アドバンスト・キューイング・ユーザーズ・ガイド*を参照してください。

- イベントの購読解除

すでに購読しているイベントを選択した場合、詳細ページの「購読解除」ボタンが有効になります。「購読解除」ボタンをクリックすると、イベントが削除または購読解除されます。

ビジネス・イベントの購読の詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway* インプリメンテーション・ガイド ビジネス・イベントの購読を参照してください。

コンポジット・サービス-BPELの使用

この章では、次のトピックについて説明します。

- コンポジット・サービス-BPELの概要
- コンポジット・サービス-BPELの表示
- コンポジット・サービス-BPELのダウンロード

コンポジット・サービス-BPELの概要

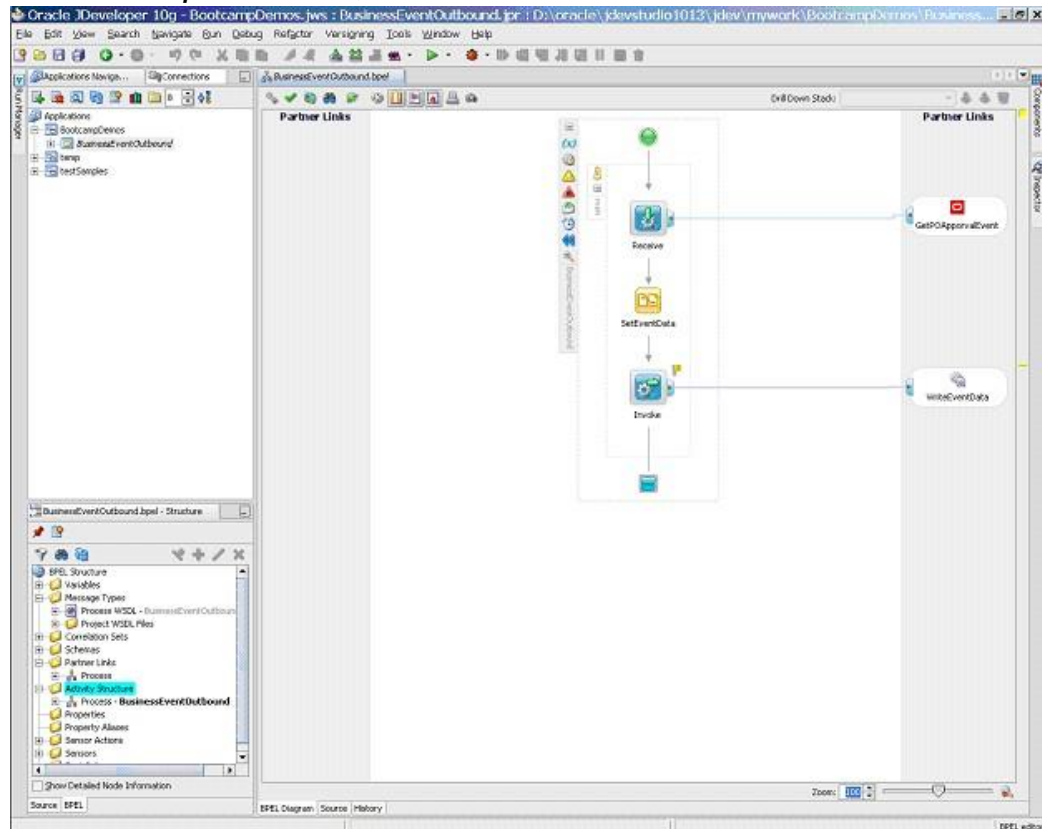
コンポジット・サービスはネイティブのインタフェースを構築ブロックとして使用して、一続きのビジネス・フローを作成します。基本的にこのインタフェース・タイプはWebサービス構成言語であるBPEL (ビジネス・プロセス実行言語)を通じて、Webサービス起動シーケンスを有意義なエンドツーエンドのビジネス・プロセスに編成します。たとえば、Oracle JDeveloperでBPELコンポーネントを使用して、各種のアプリケーションで処理されるサブプロセス(販売オーダーの入力や品目可用性チェック、梱包と出荷、Accounts Receivableへの請求など)を、オーダーから受領というビジネス・プロセスに統合できます。この方法は個々のプロセス制御のつながりを効果的に強化し、ビジネス・フロー全体の効率性を高めます。

コンポジット・サービスは独自のWSDL定義とサービス・エンドポイントを持ち、外部のWebサービス・クライアントはこれらのサービスを実行時に起動できます。

Oracle SOA Suite 11gおよびOracle SOA Suite 12cでは、BPELプロセスは関連付けられているSOAコンポジット・アプリケーションとともに管理および配置されます。Oracle SOA Suite 10gでは別々のコンポーネントとして開発および配置されます。

このリリースでは、Oracle SOA Suite 10gの'コンポジット・サービス-BPEL'はカタログとして統合リポジトリに表示されます。

Oracle JDeveloper内のコンポジット・サービス-BPEL



コンポジット・サービス-BPELの作成および管理方法の詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway 開発者ガイド*および*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway インプリメンテーション・ガイド*を参照してください。

追加情報: コンポジット・インタフェースの設計と作成にはOracle JDeveloperとOracle Eclipseの両方を使用できるため、コンポジット・インタフェースはその作成方法に応じて、BPELやESB (エンタープライズ・サービス・バス)、SCA (サービス・コンポーネント・アーキテクチャ)などのタイプが存在します。しかし、このリリースでサポートされるインタフェース・タイプはコンポジット-BPELのみです。

コンポジット・サービス-BPELの表示

アノテーション付きのカスタム・コンポジット-BPEL定義が統合リポジトリにアップロードされると、「コンポジット - BPEL」オプションがリポジトリに表示され、すべてのユーザーが使用できるようになります。

コンポジット・インタフェースを表示するには、Oracle Integration Repositoryのブラウザ・ウィンドウから「表示別」の「インタフェース・タイプ」を使用して直接「コンポジット - BPEL」にナビゲートするか、「検索」ページで検索を実行します。

ナビゲーション・ツリーまたは検索結果からコンポジット-BPELインタフェース名のリンクをクリックすると、コンポジット・サービス-BPELインタフェース詳細ページが表示され、このページにインタフェース名、説明、BPELファイル、抽象WSDL、その他のアノテーション情報が表示されます。

コンポジット・サービス-BPELインタフェース詳細ページでは、「BPELファイル」領域で次のタスクを実行できます。

- 「**要約WSDLの表示**」リンクをクリックして、コンポジット・サービスの抽象WSDLファイルを表示します。
4-22ページのWebサービスのWSDLソースのレビューを参照してください。
- 「**BPELファイルの表示**」リンクをクリックして、コンポジット-BPELファイルを表示します。
BPELコードがポップアップ・ウィンドウに表示されます。ここには選択したコンポジット・サービスに含まれている主なBPELプロセス・コンポーネントとアクティビティが含まれています。

コンポジット・サービスのダウンロード権限を持つユーザーの場合は、インタフェース詳細ページで「**サービスのダウンロード**」をクリックしてサービスをダウンロードできます。これにより対応するコンポジット・サービスのプロジェクト・ファイル(BPELファイルなど)がローカル・ディレクトリにダウンロードされます。5-4ページのコンポジット・サービス-BPELのダウンロードを参照してください。

コンポジット-BPEL定義を統合リポジトリにアップロードする方法の詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway インプリメンテーション・ガイド*のカスタム統合インタフェースの有効化のプロセス・フローを参照してください。

コンポジット・サービス-BPELの表示方法

1. 統合アナリスト・ロールを持つユーザーとしてOracle E-Business Suiteにログインし、統合リポジトリ職責を通じて統合リポジトリにアクセスします。統合リポジトリのリンクを選択します。
2. 「統合リポジトリ」タブで、「表示別」ドロップダウン・リストから「インタフェース・タイプ」を選択します。
3. 「コンポジット - BPEL」インタフェース・タイプ・ノードを展開し、目的のコンポジット・サービスを見つけます。
4. 表示するコンポジット-BPELインタフェースをクリックして、コンポジット・サービス-BPELインタフェース詳細ページを開きます。
5. 「**要約WSDLの表示**」リンクをクリックすると、WSDL記述が表示されます。
6. 「**BPELファイルの表示**」リンクをクリックすると、BPELコードが表示されます。

コンポジット・サービス-BPELのダウンロード

ダウンロード権限があるユーザーは、コンポジット・サービス-BPELの詳細とWSDLファイルを表示できるだけでなく、コンポジット・サービス詳細ページで「サービスのダウンロード」をクリックして、コンポジット-BPEL .JARファイルをローカル・ディレクトリにダウンロードできます。

重要: 一般に、コンポジット・サービス-BPELをダウンロードできるのは統合開発者と統合管理者のみです。ただし、「統合リポジトリ・コンポジット・サービスのダウンロード」権限セット(FND_REP_DOWNLOAD_PERM_SET)を通じてダウンロード権限を付与されたユーザーもまたダウンロード操作を実行できます。それ以外の場合は、デフォルトで詳細ページに「サービスのダウンロード」は表示されません。

コンポジット・サービスのダウンロード権限の付与方法の詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway インプリメンテーション・ガイド*のロールベースのアクセス制御(RBAC)セキュリティを参照してください。

コンポジット・サービス-BPELのダウンロード方法

1. 統合アナリスト・ロールとコンポジット・サービスのダウンロード権限を持つユーザーとして Oracle E-Business Suite にログインします。統合リポジトリ職責を選択し、ナビゲーション・メニューから「統合リポジトリ」リンクを選択します。
2. 「統合リポジトリ」タブで、「表示別」ドロップダウン・リストから「インタフェース・タイプ」を選択します。
3. 「コンポジット - BPEL」インタフェース・タイプ・ノードを展開し、目的のコンポジット・サービスを見つけます。
4. 目的のコンポジット・サービスをクリックし、コンポジット・サービス-BPELインタフェース詳細ページ開きます。
5. 「サービスのダウンロード」をクリックし、選択したコンポジット・ファイルをローカル・ディレクトリにダウンロードします。

カスタム統合インタフェースの使用

この章では、次のトピックについて説明します。

- カスタム統合インタフェースの概要
- カスタム統合インタフェースの検索
- カスタム・インタフェース詳細の表示
- カスタム統合インタフェースに対するその他のWebサービス・アクティビティの実行

カスタム統合インタフェースの概要

Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayではカスタム統合インタフェースがサポートされており、これらをOracleでシードされるインタフェースとともにOracle Integration Repositoryを通じて発行し、すべてのユーザーに公開できます。

統合開発者は統合リポジトリのアノテーション標準に基づいてカスタム統合インタフェースを作成し、アノテーションを付けます。統合管理者はスタンドアロンの設計時ツールを使用して、アノテーション付きのソース・ファイルをアノテーション標準に照らして検証します。検証後にローダー・ファイルを生成し、それらのファイルをバックエンド・プロセスで統合リポジトリにアップロードします。これらのカスタム・インタフェースは所属先のインタフェース・タイプに基づいて表示され、Oracleによってシードされるインタフェースとともに統合リポジトリのユーザー・インタフェースに表示されます。

サポートされるカスタム・インタフェースのタイプには、XMLゲートウェイ・マップ、ビジネス・イベント、PL/SQL、コンカレント・プログラム、ビジネス・サービス・オブジェクト、Java API、Java Bean サービス、アプリケーション・モジュール・サービス、コンポジット・サービス-BPELなどがあります。

注意: このリリースでは、EDI、オープン・インタフェース表、インタフェース・ビュー、フォーム用Java APIのカスタム・インタフェース・タイプはサポートされません。

現在Oracle Integration Repositoryでは、カスタムの製品ファミリとカスタム・ビジネス・エンティティの作成はサポートされていません。

アノテーション付きのカスタム・インタフェース定義とOracleによってシードされるインタフェースを簡単に見分けるには、インタフェース・ソース「カスタム」(カスタム統合インタフェースの場合)とインタフェース・ソース「Oracle」のどちらが使用されているかを確認します。

統合リポジトリのアノテーション標準の詳細は、次を参照してください。

- *Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway開発者ガイド*の統合リポジトリのアノテーション標準
- My Oracle Supportのナレッジ・ドキュメント1315485.1から入手できる*Oracle Application Framework開発者ガイド*を参照してください。

次のトピックには、カスタム統合インタフェースの検索、表示および管理の方法の詳細が記載されています。

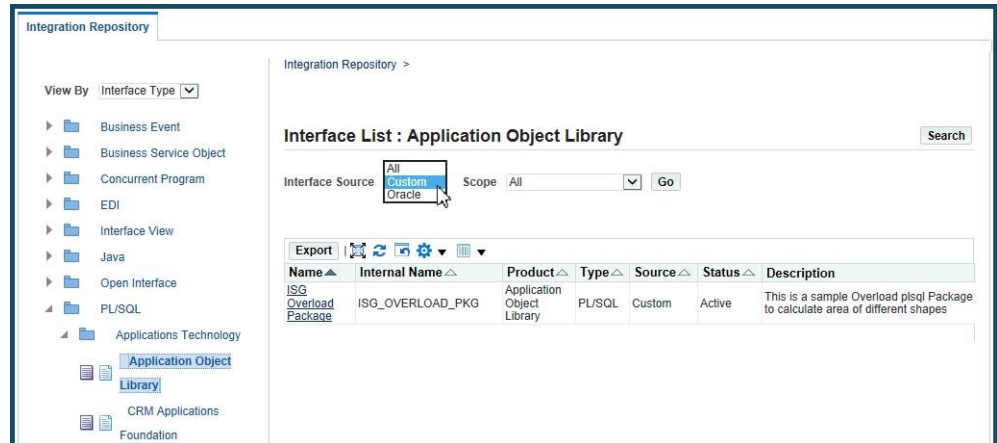
- カスタム統合インタフェースの検索、6-2ページ
- カスタム統合インタフェースの表示、6-4ページ
- カスタム統合インタフェースに対するその他のWebサービス・アクティビティの実行、6-6ページ

カスタム統合インタフェースの検索

統合リポジトリのユーザー・インタフェースでカスタム統合インタフェースを見つけるには、次の方法を使用します。

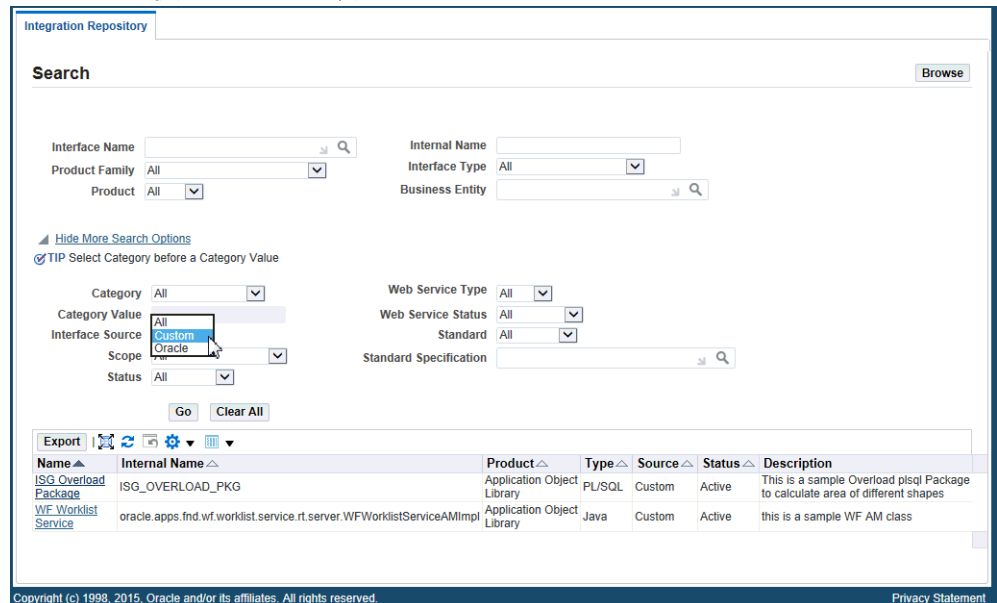
- 「インタフェース・リスト」ページで、「インタフェース・ソース」ドロップダウン・リストから「カスタム」を選択し、「スコープ」フィールドで値を指定してカスタム統合インタフェースの表示を絞り込みます。

インタフェース・リスト・ページからの表示



- 検索ページで「検索オプションをさらに表示」をクリックし、「インタフェース・ソース」ドロップダウン・リストから「カスタム」を選択して、必要に応じてインタフェース・タイプ、製品ファミリまたはスコープを検索基準として選択します。

インタフェース検索ページからの表示



たとえば、「インタフェース・ソース」として「カスタム」を選択し、「インタフェース・タイプ」として「PL/SQL」を選択し、PL/SQLタイプのカスタム・インタフェースを検索します。

カスタム統合インタフェース詳細ページの表示方法

1. 統合アナリスト・ロールを持つユーザーとして、Oracle E-Business Suiteにログインします。

統合リポジトリ職責を選択し、ナビゲーション・メニューから「統合リポジトリ」リンクを選択します。リポジトリ・ブラウザが開きます。

2. カスタム統合インタフェース定義を見つけるには、次の2つの方法があります。
 - 「インタフェース・リスト」ページから
次の値を選択します。
 - インタフェース・ソース: カスタム
 - スコープ: 適切な値を選択します。
 - 検索ページから
 1. 「検索オプションをさらに表示」をクリックして、検索オプションをさらに表示します。
 2. 次の値を選択します。
 - インタフェース・ソース: カスタム
 - スコープ: 適切な値を選択します。
 - 製品ファミリ: 適切な値を選択します。
3. 「進む」をクリックして、検索を実行します。
検索基準に適合するカスタム統合インタフェースが表形式で表示されます。
4. 検索結果から目的のカスタム・インタフェース名をクリックして、インタフェース詳細を表示します。
カスタム統合インタフェース詳細ページには、「インタフェース・ソース」値として「カスタム」が表示されるため、Oracleによってシードされるインタフェースと区別できます。

カスタム・インタフェース詳細の表示

カスタム統合インタフェースの検索を実行した後、検索結果表でカスタム・インタフェース名を選択すると、そのカスタム・インタフェースの詳細が表示されます。名前や説明、その他のアノテーション情報など、カスタム・インタフェース情報が詳細ページに表示されます。

カスタム・インタフェース定義の場合は「インタフェース・ソース」フィールドに「カスタム」という値が表示されるため、カスタム・インタフェースであることがわかります。一方、Oracleによってシードされるインタフェースの場合は「インタフェース・ソース」に「Oracle」が表示されます。

選択したカスタム・インタフェース詳細の表示

Integration Repository

Integration Repository >

PLSQL Interface : ISG Overload Package [Browse](#) [Search](#) [Printable Page](#)

Log Configuration Disabled

Internal Name ISG_OVERLOAD_PKG
 Type PL/SQL
 Product Application Object Library
 Status Active
 Business Entity [Sales Order](#)

Scope Public
 Interface Source Custom

Overview SOAP Web Service REST Web Service

Full Description

This is a sample Overload plsql Package to calculate area of different shapes

Source Information

Source File patch/115/sql/ISG_OVERLOAD_PKG_S.pls
 Source Version 12.0
 Source Product FND

Procedures and Functions

Name	Internal Name	Status	Description
Area	AREA	Active	Returns Area of rectangle
Area (2)	AREA	Active	Returns the area of triangle
Area (3)	AREA	Active	Returns the area of circle

Copyright (c) 1998, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved. [Privacy Statement](#)

前の章で説明したネイティブの統合インタフェースと同様、このページには選択したインタフェース・タイプに応じて追加のインタフェース情報またはWebサービス情報が表示されます。たとえば、カスタムのPL/SQL APIまたはコンカレント・プログラムの場合、インタフェース詳細ページには「概要」タブ、「SOAP Webサービス」タブ、「REST Webサービス」タブが表示されます。

統合管理者ロールを持つユーザーは次のタスクを実行できます。

- SOAP Webサービスとして公開可能なカスタム・インタフェースの場合
 - SOAP Webサービスの生成
 - SOAP Webサービスの配置(または配置解除)
 - SOAP Webサービスのリセット
 - SOAP Webサービスのリタイア
 - SOAP Webサービスの有効化

- REST Webサービスとして公開可能なカスタム・インタフェースの場合
 - REST Webサービスの配置
 - REST Webサービスの配置解除

これらの管理タスクの詳細は、6-6ページのカスタム統合インタフェースに対するその他のWebサービス・アクティビティの実行を参照してください。

カスタム統合インタフェースに対するその他のWebサービス・アクティビティの実行

カスタム統合インタフェース詳細の表示に加えて、統合管理者ロールを持つユーザーは次の管理タスクを実行できます。

- SOAP Webサービスをサポートするカスタム統合インタフェースの場合

- SOAP Webサービスの生成

統合管理者または統合開発者ロールを持つユーザーは、カスタム統合定義を、任意の相互作用パターンを持つWebサービスに変換できます。

注意: 統合開発者にはWebサービスを生成する権限がありますが、サービスを配置または配置解除することはできません。

*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway インプリメンテーション・ガイド*のSOAP Webサービスの生成を参照してください。

- SOAP Webサービスの配置

サービスが正常に生成された後、統合管理者ロールを持つユーザーは「Webサービス」領域で、適切な認証タイプを指定してサービスを配置できます。

- Webサービスの配置解除

Webサービスが正常に配置された後に、統合管理者は「**配置解除**」をクリックして、Webサービスの配置を解除できます。

*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway インプリメンテーション・ガイド*のSOAP Webサービスの配置および配置解除を参照してください。

- SOAP Webサービスのリセット

サービスが正常に生成または配置された後に、統合管理者は「**リセット**」をクリックして、既存のサービス・アーティファクトを必要に応じて消去できます。

*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway インプリメンテーション・ガイド*のSOAP Webサービスのリセットを参照してください。

- SOAP Webサービスのリタイア

カスタム・サービスが有効の状態ではOracle SOA Suiteに配置されているときに、統合管理者はそれらのカスタム・サービスをリタイアさせ、現在実行中の要求を完了させることができます。

*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway インプリメンテーション・ガイド*のSOAP Webサービスのリタイアを参照してください。

- SOAP Webサービスの有効化

Oracle SOA Suite内のリタイア状態のカスタム・サービスは、統合管理者がインタフェース詳細ページで「有効化」をクリックすることで有効にすることができます。これによりリタイア状態のカスタム・サービスが再び有効になります。

*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway インプリメンテーション・ガイド*のSOAP Webサービスの有効化を参照してください。

- ログ・メッセージの表示

設計時ログおよび実行時ログが有効である場合、統合管理者は統合リポジトリのインタフェース詳細ページから設計時ログを表示したり、サービス・モニターでサービスの実行時ログを確認したりできるため、サービスの生成や配置のライフサイクルの各ステージで発生した問題や例外を効率的にトラブルシューティングできます。

設計時ログの表示方法の詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway インプリメンテーション・ガイド*の生成および配置時ログの表示を参照してください。

実行時ログの表示方法の詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway インプリメンテーション・ガイド*のサービス処理ログの表示を参照してください。

管理タスクの詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway インプリメンテーション・ガイド*のSOAP Webサービスの管理を参照してください。

- REST Webサービスをサポートするカスタム・インタフェースの場合

注意: カスタムRESTサービスがサポートされているインタフェースは、PL/SQL API、コンカレント・プログラム、Java Beanサービス、アプリケーション・モジュール・サービスです。オープン・インタフェース表およびビューのインタフェースはRESTサービスとして公開できますが、このタイプのカスタム・インタフェースはRESTサービスとして公開できません。

- REST Webサービスの配置

カスタム・インタフェースをRESTサービスとして配置する前に、管理者は選択したインタフェースのサービス別名を指定する必要があります。

選択したカスタム・インタフェースのタイプがJava Beanサービスまたはアプリケーション・モジュール・サービスの場合、配置の前に、そのインタフェースに含まれている目的のJavaまたはアプリケーション・モジュール・メソッドのHTTP動詞を指定する必要があります。

*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayインプリメンテーション・ガイド*のREST Webサービスの配置を参照してください。

- REST Webサービスの配置解除

RESTサービスが正常に配置された後に、統合管理者は「**配置解除**」をクリックして、必要に応じてRESTサービスを配置解除できます。

*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayインプリメンテーション・ガイド*のREST Webサービスの配置解除を参照してください。

管理タスクの詳細は、*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayインプリメンテーション・ガイド*のREST Webサービスの管理を参照してください。

- ビジネス・イベントの場合

統合管理者はビジネス・イベント・インタフェース詳細ページで「**購読**」をクリックして、ビジネス・イベントを購読できます。これにより、選択したイベントに対する購読が作成されます。

*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayインプリメンテーション・ガイド*のビジネス・イベントの購読を参照してください。

- カスタム・コンポジット・サービス-BPELの場合

- カスタム・コンポジット・サービス-BPELの表示

カスタム・コンポジット・サービス-BPELを表示する場合は、検索ページで検索を実行し、「**検索オプションをさらに表示**」をクリックすると、追加の検索フィールドが表示されます。次の値を検索ページに入力し、必要に応じて製品ファミリーやスコープなどの値を入力して、目的のカスタム・コンポジット・インタフェースを見つけます。

- インタフェース・ソース: カスタム
 - インタフェース・タイプ: 複合

5-2ページのコンポジット・サービス-BPELの表示を参照してください。

- カスタム・コンポジット・サービス-BPELのダウンロード

コンポジット・サービスのダウンロードと同様、ダウンロード権限があるユーザーは、インタフェース詳細ページで「**サービスのダウンロード**」をクリックして、コンポジット-BPEL .JARファイルをローカル・ディレクトリにダウンロードできます。

*Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayインプリメンテーション・ガイド*のコンポジット・サービス-BPELのダウンロードを参照してください。

用語集

エージェント

システム内の名前付きの通信ポイント。

エージェント・リスナー

サービス・コンポーネントのタイプで、インバウド・エージェント上でイベント・メッセージを処理します。

非同期操作

即時に結果を得られる同期型サービス実行と異なり、非同期操作では要求の処理に長い時間がかかることがあります。

しかし、Oracle E-Business Suite Webサービスを起動したクライアントは応答を待機するのではなく、その他の処理を継続できます。

BPEL

Business Process Execution Language (BPEL)は実行可能な抽象ビジネス・プロセスの仕様を記述するための言語です。これを使用してサービス相互作用モデルを拡張し、ビジネス・トランザクションをサポートすることができます。BPELを使用して相互運用可能な統合モデルを定義し、社内や企業間の自動プロセス統合を促進できます。

ビジネス・イベント

「イベント」を参照。

コールバック・パターン

コールバック・パターンは非同期サービスに重要な通信方法の1つです。非同期コールバックでは、要求がサービス・プロバイダに送られて、応答(コールバック)は準備ができ次第、要求側に返信されます。このパターンは、要求側から送られた要求に対する受信確認と組み合わせて使用できます。

コンカレント・マネージャ

Oracle E-Business Suiteコンポーネントの1つで、要求のキューイングとコンカレント・プログラムの操作を管理します。

コンカレント・プログラム

コンカレント・プログラムとは、仕訳の転記やレポートの生成など、特定のタスクを実行する実行可能ファイルです。

イベント

インターネットまたはイントラネットのアプリケーションまたはプログラム内の発生事象のことで、システム内の他のオブジェクトや外部エージェントにとって重要な事象であることがあります。

イベント・アクティビティ

アクティビティとしてモデル化したビジネス・イベントです。ワークフロー・プロセスに含めることができます。

イベント・データ

イベントについて説明する追加詳細のセットです。イベント・データはXMLドキュメントとして構築できます。イベント名、イベント・キーおよびイベント・データと組み合わせることで、そのイベントで発生した内容を完全に説明できます。

イベント・キー

イベントのインスタンスを一意に特定する文字列。イベント名、イベント・キーおよびイベント・データと組み合わせることで、そのイベントで発生した内容を完全に説明できます。

イベント・メッセージ

ビジネス・イベントを伝達するための標準ワークフロー構造です。データ・タイプWF_EVENT_Tで定義されます。イベント・メッセージにはイベント・データに加え、複数のヘッダー・プロパティ(イベント名、イベント・キー、アドレッシング属性、エラー情報など)が格納されます。

イベント購読

ある特定のイベントがシステムにとって重要であることを示し、誘発イベントが発生したときに実行する処理を指定するための登録です。購読処理には、カスタム・コードの起動や、ワークフロー・プロセスへのイベント・メッセージの送信、エージェントへのイベント・メッセージの送信などを含めることができます。

関数

PL/SQLストアド・プロシージャの1つで、ビジネス・ルールの定義や、アプリケーション内での自動タスクの実行、アプリケーション情報の取得を実行できます。ストアド・プロシージャは標準の引数を受け取り、完了結果を返します。

統合リポジトリ

Oracle Integration Repositoryは、Oracle E- Business Suite Integrated SOA Gatewayの主要なコンポーネントまたはユーザー・インタフェースです。この集約型のリポジトリには、ネイティブでパッケージングされた統合インタフェース定義とコンボジット・サービスが格納されます。

統合リポジトリ・パーサー

統合管理者向けのスタンドアロンの設計時ツールです。アノテーション付きのカスタム・インタフェース定義をアノテーション標準に照らして検証し、統合リポジトリ・ローダー・ファイル(iLDT)を生成できます。生成されたiLDTファイルを統合リポジトリにアップロードし、ここからすべてのユーザーにカスタム・インタフェースを公開できます。

インタフェース・タイプ

統合インタフェースは複数のインタフェース・タイプに分類されます。

JSON

JSON(JavaScript Object Notation)とは、人間が判読可能なデータ交換を実現するためのテキストベースのオープン・スタンダードです。JSON形式はRESTサービスと一緒に使用されることが多く、サーバーとWebアプリケーション間で構造化されたデータを伝送し、XMLの代替としての役割を担います。

疎結合

疎結合とは、なんらかの交換関係を持つ2つ以上のシステムまたは組織間に築かれた柔軟な関係性を指します。トランザクションの各端部が要件を明示的に示し、他方の端部についての想定を行いません。

ルックアップ・コード

ルックアップ・タイプに定義された値の内部名です。

ルックアップ・タイプ

事前定義の値のリスト。ルックアップ・タイプ内の各値には内部名と外部名があります。

メッセージ

通知アクティビティによって送信される情報。通知アクティビティとメッセージを関連付けるには、メッセージを事前に定義しておく必要があります。メッセージには件名、優先度、本文のほか、場合によっては1つ以上のメッセージ属性が含まれます。

メッセージ属性

特定のメッセージに対して定義される変数で、メッセージが通知で送信されたときに情報を提供する目的で、または応答を促す目的で使用されます。事前定義の項目タイプ属性をメッセージ属性として使用できます。'送信'ソースとして定義したメッセージ属性は、メッセージが送信されたときに実行時の値に置換されます。'応答'ソースとして定義したメッセージ属性は、メッセージが送信されたときにユーザーに応答を促します。

通知

ユーザーに提供されるメッセージのインスタンス。

通知ワークリスト

問合せとワークフロー通知への応答を実行できるWebページ。

操作

サービスでサポートされているアクションの抽象記述。

ポート

ポートは個々のエンドポイントを定義したもので、バインディング用の単一のアドレスが指定されています。

ポート・タイプ

ポート・タイプは、抽象操作および含まれている抽象メッセージの名前付きのセットです。

プロセス

ビジネス目標を完遂するために実行する必要があるアクティビティのセット。

REST

Representational State Transfer (REST)はアーキテクチャ原則の1つで、これよりWebサービスはリソースとして表示され、そのURLで一意に特定できるようになります。RESTサービスの主な特徴の1つに、HTTPメソッド(GET、POST、PUT、DELETE)を明示的に使用して、様々な操作の起動を表現するという点があります。

SAMLトークン(Sender-Vouches)

このタイプのセキュリティ・モデルではWebサービスを認証するときに、Security Assertion Markup Language (SAML)アサーションを通じてユーザー名のみを送信します。

SAMLはセキュリティ・ドメイン間(アイデンティティ・プロバイダとサービス・プロバイダ間)で認証および認可データを交換するためのXMLベースの標準です。SAMLトークンではsender-vouches方式を使用して、SOAPメッセージとSOAPメッセージに追加されたSAMLアサーション間の対話を確立します。

「ユーザー名トークン」を参照。

サービス

サービスとは、関連するエンドポイントのコレクションです。

サービス・コンポーネント

一般サービス・コンポーネント・フレームワークに従って定義されたJavaプログラムのインスタンスです。このフレームワークを通じて管理できます。

サービス・モニター

Oracle E-Business Suiteの監視と監査のためのツールです。Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gatewayから提供されるWebサービスの実行時メッセージを確認できます。

以前のリリースでは、SOAモニターと呼ばれていました。

SOA

Service-oriented Architecture (SOA)とは、対話を行うソフトウェア・コンポーネント間に疎結合を確立するアーキテクチャです。多種混在のITエコシステム内でシームレスな標準ベースの統合を実現します。

SOAP

Simple Object Access Protocol (SOAP)は、構造化された情報を分散環境で交換するための軽量プロトコルです。XMLテクノロジーを利用して拡張可能なメッセージング・フレームワークを定義しているため、様々な下層プロトコルで交換できるメッセージ構造を提供します。

購読

「イベント購読」を参照。

同期操作

同期操作は問合せに対し、即時に応答を返します。要求がサーバーに発行された後から、クライアント接続は開いた状態で維持されます。クライアントはサーバーから応答メッセージが届くまで待機します。

ユーザー名トークン

セキュリティ・モデルのタイプの1つで、ユーザー名とパスワードを使用してSOAP要求を実行時に認証します。

「SAMLトークン(Sender-Vouches)」を参照。

WADL

Webアプリケーション記述言語(WADL)は、HTTPベースのアプリケーションをコンピュータで処理可能な形式の記述で提供することを目的としています。サービスが提供するリソースとそれらのリソース間の関連をモデル化します。

Webサービス

Webサービスは、相互運用可能なマシン間対話をネットワーク経由で実現するために設計されたソフトウェア・システムです。WSDLで記述されたインタフェースを備えています。他のシステムはこの記述に従って、SOAPメッセージを使用してWebサービスと対話します。SOAPメッセージの伝送には通常、HTTPとXMLシリアル化、その他のWeb関連の標準が使用されます。

ワークフロー・エンジン

Oracle Workflowコンポーネントの1つで、ワークフロー・プロセス定義が実装されています。ワークフロー・エンジンでは、項目のすべてのアクティビティの状態管理や、関数の自動実行と通知の送信、完了したアクティビティの履歴管理、エラー条件の検出とエラー・プロセスの開始などを行います。ワークフロー・エンジンはサーバーPL/SQLに実装されており、エンジンAPIへの呼出しが発生したときにアクティブ化されます。

WSDL

Webサービス記述言語(WSDL)は、ネットワーク・サービスをエンドポイントのセットとして記述するためのXML形式です。これらのエンドポイントはドキュメント指向またはプロシージャ指向の情報が含まれたメッセージに対して作用します。操作とメッセージが抽象的に記述されており、後から具体的なネットワーク・プロトコルおよびメッセージ形式にバインドされて、エンドポイントが定義されます。

WS-Addressing

WS-Addressingは、SOAPメッセージの中でメッセージの受信者(および送信者)のアドレスを記述する手段です。

WS-Security

WS-Securityは、SOAP内でXMLシグニチャを使用して安全なメッセージ交換を実現する方法を定義したものです。これは、HTTPSを使用したチャネル保護の代替または拡張です。

XML

XML (Extensible Markup Language)はマークアップ言語の1つで、ドキュメントを人間とコンピュータが判読できる形式でエンコーディングするためのルールが定義されています。

索引

A

リポジトリへのアクセス、3-3

B

インタフェースの閲覧、3-7
 統合の標準別、3-9
 インタフェース・タイプ別、3-9
 製品ファミリー別、3-9
ビジネス・イベント、3-18、4-75
ビジネス・インタフェース、3-1
ビジネス・サービス・オブジェクト、3-19
 一般情報、4-62
 統合リポジトリ・サービス、4-61
 メソッド情報、4-59
 サービス・データ・オブジェクト、4-62
 Webサービス、4-56

C

共通情報
 インタフェース詳細、4-2
 付与の管理、4-30
 REST Webサービス、4-15
 SOAP Webサービス、4-6
 Webサービス
 WADLのレビュー、4-26
 WSDLのレビュー、4-22
共通インタフェース情報、4-1
コンポジット・インタフェース、3-20
コンポジット・インタフェース、5-1
コンカレント・プログラム、3-17、4-65

カスタム統合インタフェース、6-1、6-4
 管理タスク、6-6
 カスタム・インタフェースの検索、6-2

D

インタフェースの発見
 閲覧による、3-7
 検索による、3-9

E

EDI、3-18、4-74

F

フィルタ・データ・オブジェクト
 一般情報、4-64
 メソッド情報、4-65

H

ホストされるモード、3-3

I

統合リポジトリ・サービス、4-61
統合の標準
 閲覧による、3-9
 検索による、3-14
インタフェース情報
 共通情報、4-1
 ソース情報、4-2
インタフェース・タイプ、3-1、3-15
 閲覧による、3-9
 ビジネス・イベント、3-18、4-75

ビジネス・サービス・オブジェクト、3-19
コンポジット・インタフェース、3-20
コンカレント・プログラム、3-17、4-65
EDI、3-18、4-74
インタフェース・ビュー、3-18、4-72
Java、3-19、4-44
オープン・インタフェース、3-18、4-69
PL/SQL、3-17、4-40
サービス・データ・オブジェクト、4-62
XMLゲートウェイ、3-17、4-35
インタフェース・ビュー、3-18、4-72

J

Java、3-19、4-44
アプリケーション・モジュール・サービス、4-48
フォーム用Java API、4-54
Java Beanサービス、4-46
メソッド情報、4-45
セキュリティ・サービス、4-51
Javaサービス・インタフェース
フィルタ・データ・オブジェクト情報、4-63

O

オープン・インタフェース、3-18、4-69
表情報、4-69
Oracle E-Business Suite Integrated SOA Gateway
主要コンポーネント、1-2
主な機能、1-1
概要、1-1
Oracle Integration Repository、5-1、5-2
発見とレビュー、3-7
発見とレビュー、3-7
概要、6-1

P

PL/SQL、3-17、4-40
Webサービス・タブ、4-42、4-67
製品コード、4-2
製品ファミリの閲覧、3-9

R

コンポジット・インタフェースのレビュー、5-2

S

検索基準、3-10
ビジネス・エンティティ、4-4
カテゴリ、3-11
統合の標準、3-20
インタフェース・タイプ、3-15
内部名、4-3
スコープ、3-14
ステータス、3-12
Webサービス・ステータス、3-12
Webサービス・タイプ、3-12
インタフェースの検索、3-9
セキュリティ、3-14
サービス・データ・オブジェクト
メソッド情報、4-65
サービス・データ・オブジェクト情報、4-62
SOA
一般的な用語、2-2

U

サービス有効化の理解
サービス有効化の概要、2-1
Oracle E-Business SuiteのSOA、2-3
リポジトリの使用、3-7

V

カスタム・インタフェース詳細の表示、6-4

W

Webサービス
ダウンロード、5-4

X

XMLゲートウェイ、3-17、4-35
統合の標準、3-9、3-20
Webサービス、4-36